教育に関する事務の管理及び執行の 状況についての点検及び評価報告書

(令和2年度対象)

令和4年1月 日田市教育委員会

~目 次~

は	I۳.	៳	1-
 10	\mathbf{c}	u,	٧-

(1)この報告書について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ļ
(2)日田市教育委員会の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
(3)日田教育のこの1年 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
2. 点検·評価	
(I)点検及び評価の方法 ·····	9
(2)点検・評価	
I 《市民と共に創る教育行政の推進》	
Ⅰ-第Ⅰ 市民と共に創る教育行政の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
Ⅱ≪学校教育の充実≫	
Ⅱ−第Ⅰ「夢と誇りをもって、たくましく生きる力」を	
育てる学校教育の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
Ⅱ-第2安全で安心な学校づくりの推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48
Ⅲ≪社会教育の充実≫	
Ⅲ-第Ⅰ 地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と	
生涯学習社会の形成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	65
Ⅲ-第2 誰もがスポーツに親しめる環境づくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	91
Ⅳ≪文化芸術の振興≫	
Ⅳ-第 ふるさとの歴史・文化の保存と未来へ向けての	
活用 ·····	101
Ⅳ-第2 誰もが文化・芸術に親しみ、学べる環境づくり・・・・	112
3. 学識経験者による評価意見 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	119
4.まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	128

1.はじめに

(1)この報告書について

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、日田市教育委員会が取り組んでいる教育行政について、効果的に推進すること及び、市民の皆さんへの説明責任を果たすことを目的として、点検・評価を行い、その結果を取りまとめたものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

- 第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。
- ※この報告書では、平成31年4月から令和2年3月までに実施した事業を、全て「令和元年度」に 統一しています。
- ※この報告書では、令和2年度に実施した事業の写真を掲載しています。

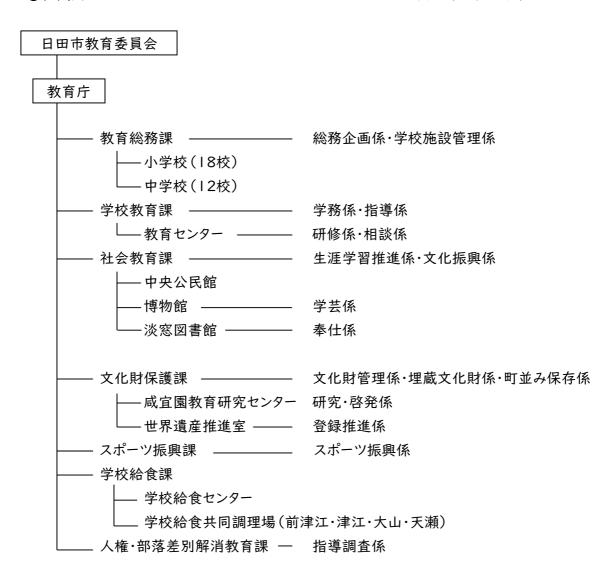
(2) 日田市教育委員会の概要

①教育委員会委員(令和2年度)

職名	氏名		
ч и , д	4月1日~11月17日	月 8日~3月3 日	
教育長	三笘 眞治郎	三笘 眞治郎	
教育長職務代理者	諌 本 憲 司	岡部 博昭	
委 員	永山 真江	永山 真江	
委 員	岡部 博昭	諌本 憲司	
委 員	木下 靖郎	木下 靖郎	
委 員	奥平 和子	奥平 和子	
委 員	古田 嘉寿美	古田 嘉寿美	

②組織図

<令和2年4月1日現在>



③所管施設一覧(組織図に記載がないもののみ)

・小中学校 ()は令和2年5月1日現在の児童生徒数

咸宜小学校(546)	桂林小学校(269)	日隈小学校(245)	若宮小学校(139)
三芳小学校(306)	高瀬小学校(202)	光岡小学校(550)	朝日小学校(115)
三和小学校(277)	有田小学校(222)	小野小学校(30)	大明小学校(83)
石井小学校(100)	前津江小学校(27)	津江小学校(44)	大山小学校 (98)
東渓小学校(77)	いつま小学校(37)		
東部中学校(530)	三隈中学校(504)	南部中学校(153)	北部中学校(260)
戸山中学校(49)	東有田中学校(22)	大明中学校(51)	前津江中学校(11)
津江中学校(31)	大山中学校(64)	東渓中学校(40)	五馬中学校(28)

[※]小学校 18 校·3,367 人、中学校 12 校·1,743 人

·社会教育施設

咸宜公民館	桂林公民館	日隈公民館	三芳公民館
高瀬公民館	光岡公民館	朝日公民館	三花公民館
西有田公民館	東有田公民館	小野公民館	大鶴公民館
夜明公民館	五和公民館	若宮公民館	前津江公民館
中津江公民館	上津江公民館	大山公民館	天瀬公民館
天瀬公民館東渓分館	天瀬公民館五馬分館	生涯学習交流センター	中津江ホール
大山文化センター			

・スポーツ施設

大原グラウンド	中城グラウンド	光岡スポーツ広場	三和スポーツ広場
大鶴スポーツ広場	夜明トレーニングセンター	朝日ケ丘球場	平野球場
竹田テニスコート	大原テニスコート	大原公園テニスコート	武道場
中城体育館	弓道場	相撲場	市営プール
京町プール	北友田3丁目プール	総合体育館	陸上競技場
竹田艇庫	アーチェリー場	前津江町柔剣道場	川辺体育館
上津江グラウンド	広川運動広場	都留スポーツセンター	上野田多目的スポーツ広場
上津江体育館	大山体育館	大山武道場	大山グラウンド
天瀬総合グラウンド	天瀬スポーツ広場	天瀬屋根付き運動広場	天瀬第1テニスコート
天瀬第2テニスコート	天瀬やまびこ研修所	天瀬ふれあい風呂	天瀬五馬弓道場
鯛生スポーツセンター	B&G中津江海洋センター	B&G大山海洋センター	

·文化施設

埋蔵文化財センター	小鹿田焼陶芸館	郷土史料館	旧矢羽田家住宅
前津江郷土文化保存伝習施設	天瀬農業公園ふるさと資料館	行徳家住宅	史跡咸宜園跡
史跡ガランドヤ古墳保存施設	永山布政所跡東屋	豆田まちづくり歴史交流館	慈眼山永興寺仏像収蔵庫

(3) 日田市教育のこの | 年(令和2年度)

《主なニュース》

令和2年3月 ~5月	新型コロナウイルス感染症の国内の感染状況を踏まえた2月27日の政府方針に基づき、3月2日から市内全小中学校を臨時休業とした。 5月25日から条件付き(午前中)で学校再開し、6月1日から全面的学校再開となった。
令和2年6月	9万年前の阿蘇山の大噴火により埋もれた埋没樹木が有田川から発見された。その後、国立科学博物館に運ばれ、その後の分析の結果、最大の樹木はスギと同定された。
令和2年7月	令和2年7月6日からの豪雨により、隣接する玖珠川が氾濫し、東渓中学校で校舎と体育館の床下浸水や、グラウンドの冠水などの被害が発生した。また、スポーツ施設では、石井町河川広場、大宮町多目的広場、広川運動広場、三芳河川敷広場が河川の増水により損害を受けた。
令和2年10月	市制80周年記念企画展として「水郷日田の風景~古写真から振り返る人々の思い出の場所~」を開催、市民から提供いただいた明治時代以降の古写真や地図により、日田市の発展と街の移り変わりを紹介した。
令和2年11月 ~12月	東京オリンピックフェンシング競技男子エペ日本代表の強化キャンプが II月I7日から26日まで総合体育館で、男子7人制ラグビー日本代表候補 合宿がI2月I5日からI2月23日まで陸上競技場で開催された。
令和2年11月	水戸市・足利市・備前市・日田市の4市で構成する教育遺産世界遺産登録推進協議会は「近世日本の教育遺産群」の世界文化遺産登録を目指して、構成資産の調査・研究に取組んできた。その成果として「近世日本の教育遺産群-世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書-」を作成し、これを令和2年11月6日に文化庁に提出するとともに、世界遺産登録の前提条件である暫定一覧表への追加記載の要望を行った。
令和3年1月 ~2月	市制80周年記念特別企画展として「岩澤重夫と現代美術の世界-郷土がつなぐ未来のカンバスー」を開催、日田市名誉市民である故岩澤重夫画伯の日本画とスケッチブック、大分県立日田三隈高等学校美術部員と現代美術家3人のグループUNEASINESS(代表:岩澤有徑)の作品、総計61点を併設展示した。

《各種会議開催状況》

(教育総務関係)

月日	件名	出席委員数
2月18日	日田市奨学資金運営委員会	10名中8名
3月22日	第1回日田市総合教育会議	8名中8名

(学校教育関係)

月日	件名	出席委員数
6月25日	第I回日田地区教科用図書採択協議会	6名中6名
7月29日	第2回日田地区教科用図書採択協議会	6名中6名
10月15日	第1回日田市立学校いじめ問題調査委員会	5名中4名
11月 5日	第1回日田市適正就学指導委員会	4名中 3名
11月10日	第1回日田市学校問題支援チーム会議	10名中9名
11月12日	第2回日田市適正就学指導委員会	4名中 4名
2月 5日	第2回日田市学校問題支援チーム会議	10 名中10名

(社会教育関係)

月日	件名	出席委員数
6月26日	第1回日田市社会教育委員会議	10名中10名
6月26日	第1回日田市中央公民館運営審議会	9名中9名
7月21日	第1回日田市民文化振興会議	名中 名
7月31日	第1回日田市放課後対策事業運営委員会	12名中10名
8月25日	第1回日田市青少年問題協議会委員会 専門委員会	13名中11名
9月	第1回日田市民文化会館運営委員会	書面開催
9月30日	第2回日田市民文化振興会議	11名中8名
月 5日	第2回日田市社会教育委員会議	10名中9名
11月 9日	第3回日田市民文化振興会議	名中 0名
12月	第1回日田市民文化振興基金実行委員会	書面開催
1月18日	第2回日田市中央公民館運営審議会	9名中8名
3月	第2回日田市民文化会館運営委員会	書面開催
3月29日	第3回日田市社会教育委員会議	10名中8名

(人権教育関係)

月日	件名	出席委員数
5月 7日	第1回人権教育推進連絡協議会	7名中 7名
2月26日	第2回人権教育推進連絡協議会	17名中17名

(体育保健関係)

月日	件名	出席委員数
6月 4日	日田市スポーツ推進委員協議会総会	48名中31名

(学校給食関係)

月日	件名	出席委員数
7月	第1回日田市学校給食運営協議会	書面開催
Ⅱ月	第1回津江学校給食運営協議会	書面開催
Ⅱ月	第1回大山学校給食運営協議会	書面開催
Ⅱ月	第1回天瀬学校給食運営協議会	書面開催
月 9日	第1回前津江学校給食運営協議会	8名中6名
2月 5日	日田市学校給食運営協議会 給食費部会	18名中11名
2月 8日	日田市学校給食運営協議会 給食指導部会	27名中22名
2月 9日	日田市学校給食運営協議会 給食献立検討部会	26名中20名
2月10日	第2回天瀬学校給食運営協議会	14名中10名
2月16日	第2回津江学校給食運営協議会	8名中5名
2月17日	第2回前津江学校給食運営協議会	8名中7名
2月18日	第2回大山学校給食運営協議会	8名中6名
2月	第2回日田市学校給食運営協議会	書面開催

(図書館関係)

月日	件名	出席委員数
4月30日	第1回日田市立淡窓図書館協議会	8名中6名
8月 4日	第2回日田市立淡窓図書館協議会 8名中8名	
2月17日	第3回日田市立淡窓図書館協議会	8名中6名

(博物館関係)

月日	件名	出席委員数
6月28日	第I回博物館協議会	9名中7名
12月11日	第2回博物館協議会	9名中7名
2月27日	第3回博物館協議会	9名中7名

(咸宜園・世界遺産関係)

月日	件名	出席委員数
6月	第1回咸宜園教育研究センター運営委員会	書面開催
6月	第1回咸宜園教育研究センター専門委員会	書面開催
12月 5日	第2回咸宜園教育研究センター専門委員会	6名中6名
2月18日	第3回咸宜園教育研究センター専門委員会	6名中6名
2月18日	日田市世界遺産登録検討委員会 6名中6名	
3月18日	第2回咸宜園教育研究センター運営委員会 8名中8	

(文化財関係)

月日	件名	出席委員数
3月	日田市町並み保存審議会	書面開催
3月	日田市小鹿田焼の里景観委員会	書面開催

《新型コロナウイルスによる影響(令和2年度)》

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、小・中学校の臨時休業や所管施設の休館、イベント中止等の措置を行いました。

【小学校・中学校の対応】

		水)~5月23日(土)	
臨 時 分 数	分数	5月7日(木)・8日(金)	午前中授業(給食なし)
臨 時 休 業	分散登校※	5月11日(月)~5月16日(土)	午前中授業(月~金は給食あり)
	**	5月18日(月)~5月23日(土)	午前中授業(月~金は給食あり)
条件付き再開		5月25日(月)~5月30日(土)	下校時間繰り上げ
		3万23日(万) - 3万30日(工) 	小学校 13:30 中学校 15:00
通常授業再開		6月1日(月)~	

※分散登校:学校ごとに地区別、出席番号順等によるA·Bグループ別

〇始業式: 4月22日(水)~24日(金)分散形式

〇入学式: 出席者は、新入生、教職員、保護者、在校生代表のみ

4月23日(木):中学校 4月24日(金):小学校、小中一貫校

〇中体連種目別大会 : 市中学校総合体育大会の中止に伴う代替大会

7月31日(金):8月1日(土)

○夏季休業の短縮: 8月8日(土)~8月24日(月) 18日間短縮

〇運動会·文化祭: 半日開催

〇小学校修学旅行: [行先]大分県内 [宿泊先]日田市内 ||月|9日(木)~20日(金)、||月26日(木)~27日(金)

○中学校修学旅行: 令和3年度に延期 [行先]鹿児島方面 [行程] | 泊2日

○オープンスクール : 春・秋ともに中止

○卒業式 : 出席者は、卒業生、教職員、保護者、在校生代表のみ

3月5日(金):中学校 3月24日(水):小学校

【所管施設の状況】

休館期間	施設名
4月1日(水)~5月31日(日)	小中学校施設(体育館・グラウンド等)の一般開放中止
4月1日(水)~5月24日(日)	·淡窓図書館
	·複合文化施設 AOSE
	・天瀬農業公園ふるさと資料館 ・埋蔵文化財センター
	・中津江ホール ・大山文化センター
	・地区公民館及び分館 22 館
	・夜明トレーニングセンター ・武道場 ・中城体育館
	·総合体育館 ·前津江町柔剣道場 ·上津江体育館
	・大山体育館 ・大山武道場 ・天瀬やまびこ研修所

	·B&G 天瀬海洋センター ·B&G 中津江海洋センター
	・都留スポーツセンター ・鯛生スポーツセンター
4月17日(水)~5月24日(日)	·小鹿田焼陶芸館 ·郷土史料館
	·重要文化財旧矢羽田家住宅
	·前津江郷土文化保存伝習施設 ·重要文化財行徳家住宅
	・豆田まちづくり歴史交流館 ・慈眼山永興寺仏像収蔵庫
	・咸宜園教育研究センター
4月18日(木)~5月24日(日)	・市民文化会館パトリア日田

【イベント等の中止】

区分	内 容	日 程
	「第70回社会を明るくする運動」日田地区推進大会	7月5日
	第74回日田市文教祭	9月~11月
社会	第39回日田市青少年健全育成大会	月2 日
社会教育関係	令和3年日田市成人式	月 0日→令和3年5月2日に延期
関係	市制 80 周年記念	
IN	「九州の民謡日本一大会」	I月23日·24日
	「NHKのど自慢」	2月14日
4	市民体育大会	8月~10月
育	第7回椿ヶ鼻ヒルクライムレース大会	8月30日
保健	大分県民体育大会	9月12日~9月14日
体育保健関係	第34回日田市少年少女交流駅伝大会	1月31日
	東京2020オリンピック聖火リレー	4月24日→令和3年4月23日に延期
博	博物館企画展「日田の城跡を歩く」	3月3日~5月10日
博物館関	博物館企画展「日田から見える宇宙と星」	6月21日~8月30日
関	博物館自然教室	7月~9月
係	小中学生自然研究作品展	9月~10月
咸	日本遺産子どもガイド、日本遺産中学生英語ガイド	
宜園	論語体験教室	8月
咸宜園・世界遺産関	咸宜園教育研究センター開館10周年記念事業	
	記念講演・シンポジウム	10月4日
	漢学者記念館会議	月 4日~ 5日
係	日田市世界遺産登録推進講演会	2月7日

点検・評価にあたっては、教育行政実施方針の柱 $(I \sim IV)$ の $(I \sim IV$

目標値については、令和2年度の施策実施状況の経過確認と問題点を把握するため、令和2年度の目標値(推測値)を設定し、達成値の確認を行いました。目標値の数値化が困難なものについては、経過等を参酌し、取組の進行状況で評価しています。

新型コロナウイルス感染症の影響がある事業についても、例年どおり評価を行い、事業内容への影響が 大きいものについては、個別評価及び総合評価の欄に「※」をつけています。

【個別評価】

各事業の取組成果を個別に2~5の4段階にて評価するもの

評価ランク	達成值/目標值	取組の進行状況
5	80%以上	事業完了又は順調に進行している
4	60%以上 80%未満	概ね順調に進行している
3	30%以上 60%未満	やや遅れている
2	30%未満	大幅に遅れている

この点数の平均値をA~Dの4段階にて『総合評価』として表し、教育行政実施方針【主な取組】についての達成度を示しています。

【総合評価】

個別評価の評価点の平均値に基づき、教育行政実施方針の【主な取組】がどの程度達成されているのかをA~Dの 4 段階にて表すもの

評価 ランク	平均值
Α	4.5 点以上
В	3.5 以上~4.5 未満
С	2.5 以上~3.5 未満
D	2.5 未満

●評価意見

さらに、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項に規定された「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図る」ため、以下の方にも評価をお願いしました。評価意見については、「3.学識経験者による評価意見」に記載しています。

氏名(敬称略)	所属等(令和3年4月現在)
山崎 清男	大分大学 名誉教授
森 醇一朗	元久留米大学 比較文化研究所客員教授
長尾 秀吉	別府大学 人間関係学科教授

●審議の経過

- ·令和3年7月29日(木)
 - 7月期定例教育委員会において、教育委員が点検・評価の議論を実施しました。
- ·令和3年8月23日(月)
 - 学識経験者の先生方と教育委員、各課長が集い、報告書についての説明会を開催しました。
- ·令和3年11月19日(金)
 - 11月期定例教育委員会において、教育委員が点検・評価の議論を実施しました。
- ·令和4年1月27日(水)
 - I月期定例教育委員会において、「教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価報告書」を決定しました。

●報告·公表

点検・評価結果に関する報告書は、市議会に提出するとともに、日田市教育委員会のホームページに掲載し、公表します。

2. 点検・評価

(I)点検及び評価の方法

日田市教育委員会では、日田市の上位計画である「第6次日田市総合計画」(平成29年度〜令和9年度)に基づき、平成29年度を初年度とした「日田市教育行政実施方針」(平成29年度〜令和3年度)を策定し、これに基づいて各種施策に取り組んでいます。点検・評価については、「日田市教育行政実施方針」の体系に沿って実施しました。

	日田市教育大綱
基本理念	基本方針
未来を	I.夢と誇りを持って、たくましく生きる子どもを育てます。
切り拓き、	2.安全で安心な学校をつくります。
ıš.	
るさとを愛す	3.地域とともに子育てをする優しいまちづくりをすすめます。
る	4.誰でもいつでも学べる場と、 スポーツや芸術に親しめる環境をつくります。
ひとづくり	5. 咸宜園などふるさとの歴史と文化を守り、 未来につなぎます。
"	

日田市教育行政実施方針

- I《市民と共に創る教育行政の推進》
 - Ⅰ-第| 市民と共に創る教育行政の推進
 - 1.市民と共に創る教育行政の推進

Ⅱ《学校教育の充実》

- Ⅱ-第| 「夢と誇りを持って、たくましく生きる力」を育てる学校教育の推進
 - 1.子どもの力と意欲を伸ばす学校教育の充実
 - 2. 小中連携・小中一貫教育の推進
 - 3. 学校人権教育の充実

Ⅱ-第2 安全で安心な学校づくりの推進

- 1.安全・安心な教育環境の確保
- 2. 豊かで適正な教育環境の整備
- 3. 家庭・地域と協働した学校づくりの推進
- 4. 安全・安心な学校給食の提供

Ⅲ《社会教育の充実》

- Ⅲ-第| 地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と生涯学習社会の形成
 - 1. 社会教育の推進
 - 2. 市民の学習意欲を支えるための基盤の整備
 - 3. 家庭・地域の教育力の向上と支援体制の充実
 - 4.社会教育における人権教育の充実
 - 5. 博物館の機能の充実
 - 6. 図書館機能の充実と読書活動の推進
- Ⅲ-第2 誰もがスポーツに親しめる環境づくり
 - 1.スポーツ・レクリエーションの振興

IV《文化芸術の振興》

- Ⅳ-第1 ふるさとの歴史・文化の保存と未来へ向けての活用
 - 1. ふるさとの歴史・文化の保存と未来へ向けての活用
 - 2. 保存と活用に向けた環境の整備
 - 3. 愛護意識の高揚と愛護活動への支援
 - 4. 咸宜園教育等の普及啓発と世界文化遺産登録
- Ⅳ-第2 誰もが文化・芸術を親しみ、学べる環境づくり
 - 1.誰もが文化に接することができる環境の整備

(2)点検·評価

I 市民と共に創る教育行政の推進

1.教育委員会会議

教育委員会会議については、毎月の定例会に加え必要に応じて臨時会を開催し各案件を審議しており、令和2年度は合計22回の会議を開催しました。会議の開催にあたっては、事前に教育委員の中で討議や情報共有を行うことにより、会議の活性化に努めています。なお、人事案件等を除いては、会議は公開で開催し、会議録は日田市ホームページに掲載するとともに、本庁 | 階の行政資料コーナーにも備えています。

①審議案件

⟨R2⟩

議案番号	議題	開催
議案第23号	日田市いじめ防止基本方針の一部改正について	
議案第24号	日田市学校運営協議会委員の任命について	
議案第25号	令和2年度日田市特別支援連携協議会委員の委嘱について	
議案第26号	日田市心身障害児適正就学指導委員の委嘱について	4日夕例
議案第27号	旧前津江公民館用地の変更について	─ 4月定例
議案第28号	日田市立淡窓図書館協議会委員の任命について	
議案第29号	日田市スポーツ推進委員の委嘱について	
議案第30号	令和2年度日田市一般会計補正予算教育費について	
議案第31号	令和2年度日田市一般会計補正予算教育費について	
議案第32号	日田市学校運営協議会委員の任命について	
議案第33号	日田市社会教育委員の委嘱について	
議案第34号	日田市中央公民館運営審議会委員の委嘱について	
議案第35号	日田市放課後対策事業運営委員会委員の委嘱について	5月定例
議案第36号	日田市立淡窓図書館協議会委員の任命について	
議案第37号	日田市町並み保存審議会委員の委嘱について	
議案第38号	咸宜園教育研究センター運営委員会委員の委嘱について	
議案第39号	日田市世界遺産登録検討委員会委員の委嘱について	
議案第40号	日田市立小中学校管理規則の一部改正について	
議案第41号	日田市立学校児童生徒就学援助規程の一部改正について	
議案第42号	日田市立学校児童生徒特別支援学級就学援助規程の一部改正について	
議案第43号	日田市学校運営協議会委員の任命について	─ ─ 6月定例
議案第44号	第2次日田市文化振興基本計画第2期計画の諮問について	□ 0月足17月
議案第45号	日田市社会教育委員の委嘱について	
議案第46号	日田市民文化振興会議委員の委嘱について	
議案第47号	令和2年度日田市一般会計補正予算教育費について	
議案第48号	人事案件について	6月臨時
議案第49号	日田市立淡窓図書館協議会委員の任命について	7月定例

議案番号	議 題	開催
議案第50号	令和3年度使用小学校用教科用図書の採択について	
議案第51号	令和3年度使用中学校用教科用図書の採択について	7月臨時
議案第52号	人事案件について	
議案第53号	教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価報告書につい て	8月定例
議案第54号	令和2年度一般会計補正予算教育費について	0月足19月
議案第55号	日田市立学校いじめ問題調査委員会委員の委嘱について	
議案第56号	日田市学校運営協議会委員の任命について	9月定例
議案第57号	人事案件について	
議案第58号	人事案件について	9月臨時
議案第59号	人事案件について	
議案第60号	旧日田市立大山中学校用地の変更について	
議案第61号	旧日田市立鎌手小学校用地の変更について	10月定例
議案第62号	日田市立高瀬小学校用地の変更について	
議案第63号	人事案件について	IO月臨時
議案第64号	令和2年度一般会計補正予算教育費について	
議案第65号	日田市教職員住宅管理規則の一部改正について	
議案第66号	日田市奨学資金に関する条例施行規則の一部改正について	
議案第67号	日田市立学校通学区域設定規則の特例に関する規則の一部改正について	
議案第68号	日田市立淡窓図書館の組織及び管理に関する規則の一部改正について	
議案第69号	日田市立小鹿田焼陶芸館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正につ いて	11月定例
議案第70号	第2次日田市文化振興基本計画第2期計画の策定について	
議案第71号	日田市公民館の指定管理者の指定について	
議案第72号	日田市農村環境改善センターの指定管理者の指定について	
議案第73号	林業センターの指定管理者の指定について	
議案第74号	日田市大山文化センターの指定管理者の指定について	
議案第75号	日田市学校給食費条例の制定について	
議案第76号	日田市中津江ホールの指定管理者の指定について	
議案第77号	日田市学校給食費条例施行規則の制定について	12月定例
議案第1号	教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価報告書につい て	I月定例
議案第2号	市長の権限に属する事務の補助執行に係る協議について	
議案第3号	令和2年度日田市一般会計補正予算教育費について	
議案第4号	令和3年度日田市一般会計予算教育費について	2月定例
議案第5号	日田市スポーツ施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について	
議案第6号	人事案件について	3月臨時

⟨R3⟩

議案番号	議題	開催
議案第7号	押印を求める手続の見直し等のための教育委員会関係規則の整備について	
議案第8号	日田市立学校児童生徒通学費補助規程の一部改正について	
議案第9号	押印を求める手続の見直し等のための教育委員会関係告示の整備について	
議案第10号	議案第10号 性別記載欄の見直し等のための教育委員会関係規則の整備について	
議案第11号	日田市補助金等交付規則第4条の規定による補助対象、補助率及び補助金等交	
1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	付申請の時期を定める告示の一部改正について	
議案第12号	日田市教育委員会事務委任規則の一部改正について	
議案第13号 日田市立学校児童生徒通学費補助規程の一部改正について		3月定例
議案第14号 旧日田市立都築小学校用地の変更について		
議案第15号 日田市立博物館協議会委員の任命について		
議案第16号		
議案第17号	日田市体育協会の名称変更に伴う教育委員会関係規則の整備について	
議案第18号	日田市スポーツ激励金等交付要綱の一部改正について	
議案第19号	議案第19号 日田市スポーツ推進委員の委嘱について	
議案第20号	日田市社会教育指導員の委嘱について	
議案第21号	人事案件について	3月臨時
議案第22号	人事案件について	3万 応号

②協議案件

	協議番号	議 題	開催
⟨R2⟩	3	教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の実施について	6月定例
	4	令和2年度市内小中学校の修学旅行について	8月臨時
	5	令和2年度市内小学校修学旅行について	IO月臨時
	6	第2次日田市文化振興基本計画第2期計画(案)について	IO月定例
⟨R3⟩	I	令和3年日田市成人式の延期日程について	2月臨時
	2	令和2年度中学校2年生修学旅行の取扱について	2万吨时
	3	日田市児童福祉施設苦情調査委員会委員の推薦について	3月定例

③報告案件

報告番号 議 題 開 催 報告第9号 令和2年3月期寄附採納について ⟨R2⟩ 4月定例 報告第10号 部落差別解消のための日田市教育実施方針について 令和2年4月期寄附採納について 報告第11号 5月定例 令和2年5月期寄附採納について 報告第12号 6月定例 報告第13号 令和2年6月期寄附採納について 7月定例 報告第14号 令和4年4月以降の成人式の在り方について

報告番号	議 題	
報告第15号	令和2年7月豪雨における教育施設等の被害状況について	7月定例
報告第16号	令和2年7月豪雨による災害対応に係る補正予算等について	
報告第17号	令和2年7月期寄附採納について	0日
報告第18号	旧日田市立都築小学校プール等の取り壊しについて	8月定例
報告第19号	日田市立淡窓図書館窓口業務等委託業者の選定について	
報告第20号	令和2年8月期寄附採納について	
報告第21号	旧日田市立鎌手小学校校舎の取り壊しについて	
報告第22号	旧日田市立出野小学校屋内運動場等の取り壊しについて	
報告第23号	大山文化センター大規模改修事業について	9月定例
報告第24号	日田市立淡窓図書館資料収集方針の全部改正について	
報告第25号	令和2年度市制80周年記念事業の対応について	
報告第26号	令和2年度スポーツイベント推進事業について	
報告第27号	令和2年9月期寄附採納について	
報告第28号	旧日田市立鎌手小学校プール等の取り壊しについて	10月定例
報告第29号	咸宜園教育研究センターの臨時休館について	
報告第30号	令和2年10月期寄附採納について	
報告第31号	令和4年4月以降の成人式について	
報告第32号	旧日田市中津江公民館の取り壊しについて	
報告第33号	日田市中津江公民館大集会室の休止について	11月定例
報告第34号	「近世日本の教育遺産群」の世界遺産暫定一覧記載資産候補提案書の提出及び	
+1 0 30 - 5	暫定一覧記載要望について	
報告第35号	7 人制ラグビー男子日本代表合宿の受入れについて	
報告第36号	令和2年度市内小学校修学旅行について	12月定例
報告第37号	令和3年日田市成人式について	12/12//
報告第1号	令和2年12月期寄附採納について	
報告第2号	令和3年日田市成人式の延期について	I 月定例
報告第3号	令和2年度蔵書点検に伴う休館について	1 /1 /2 //1
報告第4号	令和2年度咸宜園教育顕彰事業の受賞者について	
報告第5号	令和3年1月期寄附採納について	2月定例
報告第6号	高瀬公民館入口木造塀の取り壊しについて	-11 ~ 1/1
報告第7号	令和3年2月期寄附採納について	
報告第8号	月日田市実施分学力調査の結果について	3月定例
報告第9号	行徳家住宅の休館日の変更及び臨時休館について	0/1/0//1
報告第10号	日田市学校給食費条例施行規則の制定について	

⟨R3⟩

【教育委員会会議テーマ別案件一覧】

	人事に関すること	32件
	教科書採択に関すること	2件
	予算に関すること	7件
議案(77件)	条例等の制定・改正に関すること	21件
	教育事務の点検・評価に関すること	2件
	財産取得・滅失に関すること	5件
	その他	8件
	人事に関すること	1件
協議(7件)	教育事務の点検・評価に関すること	1件
	その他	5件
報告(39件)	寄附採納に関すること	11件
+K D (371T)	その他	28件

2. 研修·会議等

教育委員の資質向上や、地域の方や学校関係者・市町村教育委員との情報交換を目的に、各種会議や研修会へ参加しています。

月日	内容	場所	
10月27日	学校訪問(いつま小、若宮小、咸宜小、前津江小、 高瀬小、三和小)	市内	
月 日	月 日 「おおいた教育の日」推進大会		
11月 2日	第2回大分県市町村教育長会議	大分市	
月 2日	学校訪問(朝日小、東渓小、大明小·中、戸山中、東渓中、東有田中、北部中)	市内	
11月25日	文化財関連公開施設の視察	市内	
I 月25日	第3回大分県市町村教育長会議	大分市	
2月19日	タブレット端末を使用した授業の体験研修	市内	
	第1回大分県市町村教育長会議	大分市	
	大分県市町村教育長協議会総会	日出町	
中上又只要不油洋	学校運営合同会議	市内	
中止又は書面決議	全国都市教育長協議会定期総会	山口市	
	大分県市町村教育委員会連合会総会	日出町	
	九州都市教育長協議会定期総会並びに研究大会	鹿児島市	

3. 行事等

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日田市教育委員会主催の行事には教育委員 は出席していません。 定例教育委員会の会議録や教育委員の活動をホームページに掲載することで、活動内容の市民への周知と教育行政の透明化を図ることができた。また、教育委員が直接学校を訪問し、授業風景を見て先生方の話を聞くことで、コロナ禍における学校の実情や課題を把握し、学校現場の実情が反映された教育行政の推進を図ることができた。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、従来参加していた研修大会等の多くは中止となったが、市内の文化財公開施設の視察 やタブレット端末を使った授業の体験研修を行うなど、市内の教育行政の状況を把握することに努めたこと、また、市長と教育委員が 構成員となる総合教育会議に出席し、教育課題を共有し、教育施策の方向性に関する意思形成過程に参画することにより、教育委 員会の活性化が図られた。

【個別評価】

事	業または取組名 積極的な情報公開·情報把握の推進	令和	口2年度事業費	_	担当課	教育総務	課
事業目的・内容	「目的」教育委員会と学校、地域が情報を共有し、学校現場の実情が反映された教育行政を推進し、教育委員会の活性化を目指すもの。 「内容」 ①広報紙やホームページを活用し、積極的な情報公開に努め、市民の教育委員会への理解を深める取組を進める。 ②学校行事等へ参加する機会を増やし、その実態や実情を把握するとともに、学校施設訪問や育友会との意見交換を実施する。	事業取組・成果・評価の理由	委員の活動実然する。 変している。 変している。 変している。 変している。 変している。 変している。 変している。 でしたのでは、 でしたのでは、 でしたのでは、 でしたのでは、 でしたのでは、 でいる。 でい。 でいる。	はる学校訪問を実施し)実情と課題の把握に は校(小学校9校、中学 を会と市長、教育長と の意見を直接聞くこと きた。 はる学校行事等の実 学校とこども園・保育	ムページに指 ともに教育行 、知の 、知の 、知の 、知の 、知の 、知の を校り との で課題の 、表 を を が 、 が 、 が 、 が 、 の で 、 で 、 に 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	引載政 お 会有 後 評価	5
事	業または取組名 事務の執行状況の点検評価及び公表制度の導入	令和	口2年度事業費	109千円	担当課	教育総務	課
事業目的・内容	[目的] 効果的な教育行政の推進と、市民への説明責任を果たすこと。 [内容] 教育委員会の事務の管理・執行状況について、PDCA サイクルを基本として毎年点検及び評価し、その結果を広 く市民に公表する。	事業取組・成果・評価の理由	執行の大児につかった。本がでは、大児につかででは、大児にからででは、大児の大児の大児の大児の大児の大児の大児の大児の大児の大児の大児の大学の大児の大学の大児の大学の大学の大学の大学では、大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大	成の「教育に関する事のの「教育に関する事のいての点はためでのが、事業自体が順調を行うたため、できるというでするようでいるの事業についてありません。できるした。評価を5とした。	西報告書」は 書」は 書の影 りに表 り 具 実 式 い 検 値 の に た た た た た た が う し た う も う し 、 り し 、 り し 、 り し た う た う に り た う た う に り た ら う に り た ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	、響か、致つ記・な価・評価・評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5

事業	業または取組名	教育委員会の活性化に向けた取組の推進	令和	2年度事業費	_	担当課	教育絲	総務詞	淉
事業目的・内容	映されること。 教育委員が研 深め、教育委員 「内容」 ①市の教育行う 分反画を総合す る。	における各施策に教育委員の意見が反 肝修会等に参加し、教育行政全般に理解を は会運営の活性化を推進すること。 政における各施策に教育委員の意見が十 よう、施策に関する意思形成過程への委員 教育会議を活用する等して、積極的に進め 研修会等に積極的に参加する。	事業取組・成果・評価の理由	き、活・・・ 市に向程・〈(i) では、するでは、 おれに、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	員会:12回/年 員会:10回/年 員会:10回/年 員会が構成員となる網 の意思のに、政的に行われる。 を当時では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	により、会教るため有育思思計算はの現状をはの現状を	議の成の内内	評価	5

【課題と今後の方向性】

- ◆教育委員会の会議録を公表し、教育行政の透明化を図るとともに、教育委員の活動実績等を情報発信することで、教育委員会の活動に対する市民の理解を深めていただくことが重要であるため、今後もホームページを活用するなど、積極的な情報公開と周知内容の充実に努めていく。
- ◆教育課題や教育行政全般について見識を深めるとともに、教育現場の課題意識やニーズの把握を行うことが重要であるため、コロナ禍にあっても参加・実施方法を工夫しながら、各種研修大会での講演会の受講や他市の教育委員との意見交換、視察、学校訪問などを引き続き実施する。
- ◆地域の様々な教育課題や政策の方向性を共有し、民意を反映した教育行政を推進するため、総合教育会議を活用し、引き続き市長と協議・連携を行い意思疎通を図る。

学校教育の	充実			通し番号	担当課	総合
第1「夢と	誇りを持って、たくましく生	きる	力」を育てる学校教育の推進	2011	1 <u> </u>	評価
		①	咸宜園教育の理念を生かした学校経営の推進	2	学校教育課	Α
		2	確かな学力の育成	3	学校教育課	Α
		3	豊かな心の育成	4	学校教育課	ЖВ
1	→ 子どもの力と意欲を 伸ばす 学校教育の充実	4	健康・体力づくりの推進	5	学校教育課	Α
	子仅数目の元天	⑤	いじめ・不登校対策の充実・強化	6	学校教育課	Α
	<u> </u>	6	一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細かな 指導の充実	7	学校教育課	Α
		7	教育センター機能の充実	8	学校教育課	Α
		()	小中連携教育の推進	9	学校教育課	Α
2	小中連携·小中一貫 教育の推進	2	小中一貫教育の推進	10	学校教育課	Α
		3	小中一貫校におけるコミュニティ・スクールの推 進	11	学校教育課	Α
		①	学校の教育活動全体を通じた人権教育の推進	12	人権·部落差別 解消教育課	Α
3 学校人権教	学校人権教育の充実	2	人権に関する知的理解と人権感覚を育て、差別 をなくす実践行動につながる人権教育の指導内 容及び指導方法の充実	13	人権·部落差別 解消教育課	ЖЕ
		3	教職員研修の充実	14	人権·部落差別 解消教育課	* C
		4	家庭、地域や関係機関・団体及び各校種間との 連携	15	人権·部落差別 解消教育課	ЖЕ

	I	学校教育の充実	担当課	学校教育課
教育行政実施方針	Ⅱ−第Ⅰ	「夢と誇りを持って、たくましく生きる力」を育てる学校教育の推進	15.3 欧	于1入3人 月 跃
	ı	子どもの力と意欲を伸ばす学校教育の充実	平均值	総合評価
【主な取組】	① 咸1	宜園教育の理念を生かした学校経営の推進	5	А

「日田市学校教育の方針(学校版)」において全小中学校が、「咸宜園教育の理念を生かした学校経営」の理念を掲げ、地域とと もにあゆむ特色ある学校経営に取り組むことができた。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教育センター研修講座における「咸宜園が学校教育に伝えること」の講座や、パトリア日田における咸宜園教育センターの「淡窓先生に学ぶ~学校の取組~」の展示ができなかったが、代替策として、全ての小中学校で淡窓先生等に係る実践事例や取組の様子を学校だよりやホームページ等で地域・保護者へ積極的に情報発信をすることができた。

【個別評価】

価

理

由

事	美または取組名 咸宜園教育の理念を生かした学校経営の取組	令和	中2年度事業費	_	担当課	学校教	育記	果
事業目的・内容	[目的] 成宜園教育の理念を生かした学校経営を推進する。 [内容] ①「日田市学校教育の方針」に成宜園教育の理念を位置づけた取組の充実 ・「日田市学校教育の方針(学校版)」の柱として「咸宜園教育の理念」を生かした学校経営を位置づけ、各学校の特色を生かした学校経営を推進する。・「咸宜園教育の理念」を生かし、各学校が創意工夫して特色ある教育活動を行う。・学校ホームページや学校便り等を活用して、広報活動に取り組む。 ②関係機関との連携・教育センター研修講座において、「咸宜園教育の理念」について学ぶ講座を開講し、教職員研修を推進する。・成宜園教育センターの事業と連携した取組を推進する。	ず業取組・成果・評価の	のて学全体いも係のま「いた ②ントリ中子情ので、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次で	や各校のホームペーで で育の方針」や各学校 で生活の様子を紹介す ロイルス感染拡大防止 に「研修講座」や各学 する展示はできなかっ た生等に係る実践事作 やホームページ等でも	がいいた、いや ジがっ の校た列にた、哲計生る〇 で取こ たのが、取のが、取る 学もの全方 上組で 教組ての	すめ ぶとり員善 記でき もパの様べる 全づでの簿 こでき セパ小様	平西	5

【課題と今後の方向性】

◆定期人事異動により県内の他市町村から転入する教員に対して、着任式の際に「廣瀬淡窓と咸宜園の教育」「淡窓先生ものがたり」を配布したり、市教育センター研修講座における「咸宜園教育」や「廣瀬淡窓」に関する講座を引き続き開設し、「咸宜園」や「咸宜園教育の理念」についての共通理解の促進に引き続き取り組んでいく。

【徳】自他を肯定し、多様な人々と協働する意識の涵養 日田市教育委員会 学びを社会や人生に生かそうとする 「学びに向かう力・人間性等」の涵養 【体】健康で安心・安全な生活を営む意識の向上 ふるさと学習 【知】学習意欲や挑戦意欲の向上 『ふるさとへの誇りと将来への夢を育む学校づくり』 防災教育 たくましく生きる児童・生徒の育成 [体]自分の命や健康を自ら守るために、主体的に判断・行動できる力の育成 未来を切り拓く力を培う日田市教育の創造 【徳】多様な価値観を認め、場に応じた道徳的実践ができる力の育成 【学校の重点目標】 「思考力・判断力・表現力等」の育成 【知】身に付けた知識・技能を活用して問題を解決する力の育成 未知の状況にも対応できる 咸宜園教育 ~「子どもの命」を守り抜き、 〇子どもが学校と地域のよさや特色を実感し、子どものふるさとへの誇りや愛着を育む学校 〇子どもたちが、夢を抱いて磨きあい、生き生きと学びあう、笑顔と活気のあふれる学校 夢と誇りを持って、 **地域とともにあゆむ 学校** キャリア教育 〇子どもの命を守り抜き、カと意欲を伸ばし、未来を切り拓く力を培う学校 咸宜園教育の理念を生かした学校経営 [知] 基礎的 基本的な知識 技能の確実な習得 [徳]人権尊重の心を育む知識・価値・技能の習得 安全管理 生きて働く「知識・技能」の習得 日田市学校教育の方針 ·日田市教育行政実施方針 [体] 基本的生活習慣の確立 ·日田市教育大綱 【めざす学校像】 令和2年度 学習支援

	П	学校教育の充実	担当課	学校教育課
教育行政実施方針	Ⅱ−第Ⅰ	「夢と誇りを持って、たくましく生きる力」を育てる学校教育の推進	15.3 欧	子仅教育跃
	_	子どもの意欲を伸ばす学校教育の充実	平均值	総合評価
【主な取組】	② 確な	かな学力の育成	%4. 7	Α

新型コロナウイルス感染症に係る臨時休業により、市内全小中学校の全面的な学校再開は6月1日からとなったことに伴い、毎年6 月と1月に実施していた漢字検定及び英語検定の取組は、授業時数確保の観点から中止とした。

また、令和2年度全国学力・学習状況調査についても、文部科学省が「新型コロナウイルス感染症にかかるその後の状況及び学校 教育への影響を考慮」し中止としたが、1月実施分日田市学力調査の結果を活用し、児童生徒の学力の定着・学習意欲の向上に向 けて教育指導の充実や学習状況の改善に取り組むことができた。

価

理 由

【他	【個別評価】											
事	業または取組名 確かな学力育成支援事業	令和	2年度事業費	45,484千円	担当課	学校教	育課					
事業目的,内容	[目的] 児童生徒の学力の定着・学習意欲の向上を図る。 [内容] ①チャレンジ漢字(漢字検定)・チャレンジ英語(英語検定) 児童生徒のチャレンジ精神の高揚と、学習意欲の向上と基礎学力の定着を図ることを目的に、6月に漢字検定と1月に英語検定を実施する。 〈漢字検定〉 小学校4年生(原則全員受検・全額補助) 5・6年生(希望受検・半額補助) 〈英語検定〉 中学校1年生(原則全員受検・全額補助) 2年生(原則全員受検・全額補助) ②日田市実施分学力調査(1月) 児童・生徒の基礎的・基本的内容の定着状況について客観的に把握し、その学年の学習内容を年度内に確実に定着させるための指導方法の改善・充実を図ることを目的に、1月に実施する。 小学校1・2・3年生 国語・算数・社会・理科中学校1・2年生 国語・数学・社会・理科・英語	事業取組・成果・評価の理由	による授業時間では、記述を受ける。 では、	イルス感染症にするため、 の確保を優先するため、 でであることである。 でいることであられたのでは、 でいることである。 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、	め 計知考別・ 明末補っ 夏実均語中中 算識え問表 確ま充た す施並検にたい力 しに習 ン学教の定 は確り シザ科の	たるのぞい成 貧実具 「調は	'	*				
事	業または取組名 日田市学力向上アクションプランの取組	令和	2年度事業費	_	担当課	学校教	育課					
事業目的・内容	[目的] 大分県の方針を踏まえた日田市学力向上アクションプランを作成し、日田市の児童生徒の学力向上を図る。 [内容] ①全小・中学校で学力向上プランを作成し、校内研究を中心に、つけたい力を明確にした「新大分スタンダード」に基づく「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。 ②全国学力・学習状況調査(文部科学省) 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として、4月に実施する。	事業取組・成果・評価の理由	ランに基重型では、目標を対して、対して、関連を対して、関連を対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、	学校において、作成し 学校組織全体で検証 票の達成に向け取組 回のサイクルでPDC 肖に取り組むことがで 習状況調査は、新型 により中止となったする 可上に向けて、教育 手を図ることができた。 評価を5とした。	・改善しながき を推進でいい。 ををもった。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	だら、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	г	5				

事業	または取組名中学生学びアップ事業	令者	和2年度事業費	3,553千円	担当課	校教育	課
事業目的・内容	[目的] 教員OB等の地域人材を活用し、中学生の学ぶ意欲を 高めるとともに、学力の定着と向上を図る。 [内容] <休道 水曜塾> ・全中学校 中学I・2年生 希望者 ・毎週水曜日 数学 ・指導者数 43名 <立志 土曜塾> ・日田市複合文化施設 中学2年生 希望者 ・第2・4土曜日 数学・英語・自主学習 ・指導者数 3名	事業取組・成果・評価の理由	・「立 教曜の対な曜本教 参数 数 英 学 英 で で 大 で で で で で で で で で で で で で で で で	1ナウイルス感染拡大 施は見送った。 者連絡会議を開催し とや課題を共有し、連 へのアンケートからは 基本の)問題ができる 30.5%、土曜塾100. の意欲が高まった」 54.1%、土曜塾66.7 のの意欲が高まった」	93名中) 73名 17 (17) 73名 17 (17) 73	が 上 校 ·	5

【教育行政実施方針の目標達成度】

指標名		現状値	目標値	目標値		令和2年度実績
担信力		(平成28年度)	(令和2年度推測值)	(令和3年度)	達成値	内容
児童生徒の学力(知識・技能、 全国平均以上の児童生徒の	小	63.8%	66.2%	67.0%	-	全国学力・学習状況調査:全国平均正答数を上回った児童・生徒数
割合)	中	52.3%	58.2%	60.0%	ı	均正各数を工画った児童・生徒数 の割合
児童生徒の学力(思考力・判 断力・表現力等、全国平均以	小	54.3%	61.7%	63.0%	-	※全国学力・学習状況調査が中止 となったことから、令和2年度は数値
上の児童生徒の割合)	中	51.8%	54.3%	55.0%	-	なし。
将来の夢や目標を持っている (肯定的回答の児童生徒の割	小	86.9%	87.8%	88.0%	-	
合)	中	73.5%	74.6%	75.0%	1	全国学力・学習状況調査(質問紙
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している(肯定的回	小	78.2%	79.5%	80.0%	1	調査):肯定的回答の児童·生徒の 割合
答の児童生徒の割合)	中	71.5%	72.6%	73.0%	1	※全国学力・学習状況調査が中止 となったことから、令和2年度は数値
学校に行くのは楽しい(肯定	小	81.0%	85.8%	87.0%	-	なし。
的回答の児童生徒の割合)	中	82.8%	84.7%	85.0%	-	

【課題と今後の方向性】

◆より効果的な事業となるよう検証を行いながら事業を継続し、児童生徒の確かな学力を育成を図っていく。

	I	学校教育の充実	担当課	学校教育課
教育行政実施方針	Ⅱ−第Ⅰ	「夢と誇りを持って、たくましく生きる力」を育てる学校教育の推進」	15.3 欧	于1入3入 月 跃
	ı	子どもの意欲を伸ばす学校教育の充実	平均值	総合評価
【主な取組】	③豊か	な心の育成	% 4	ЖВ

全ての小中学校において道徳教育全体計画(各教科との関連)を立て、作成した計画のもと、学校教育活動全体で道徳教育の充実を図ることができた。

また、コロナ禍の状況においても、児童生徒がふるさとに誇りや自信が持って地域で暮らしていくことができるよう、地域の先哲学習に取り組み、学校だよりやホームページで発信することができた。これらを踏まえ、アンケートにおいて、「自分の住んでいる地域が好き」と回答する児童生徒の割合も目標値を上回る結果となっていると捉えられる。

学校図書館の読書活動の充実については、中学生において目標値は達成できていないものの、令和元年度から改善傾向が見られた。

【個別評価】

事美	業または取組名	豊かな心の育成を図るための教育活動の充実	令和	中2年度事業費	_	担当課	学校	教育	課
事業目的・内容	[内容] ①学校全体で ②「廣瀬淡窓・ ③学校図書館	実により、豊かな心の育成を図る。 組織的に取り組む道徳教育の充実 或宜園」を学ぶ学習の推進 を活用した読書活動の充実 この連携による豊かな心の育成	事業取組・成果・評価の理由	中ででである。 ②修てのが ③しと本か減 ④やた育らで教育と充 型開哲進き 童全でいますの コ保が友は化推関を ロし習行。 徒のたいのの 過へ受信地の表すがの、 の学・中生会がはいたいの、 の学・中生会がはいたいの、 の学・中生会がはいたいの、 の学・中生会がは、 はいので、 はいいので、 はいいので、 はいいので、 はいいので、 はいいいので、 はいいいので、 はいいいので、 はいいいので、 はいいいので、 はいいいので、 はいいいので、 はいいいので、 はいいいいので、 はいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	おいては、からいでは、からでは、からでは、からでは、からでは、からでは、からでは、からでは、から	(科)に全全の小或にる配(6は、)、、 しまに言く道い計で、め学園載、と置月達1、 おは学学でで、画道、全にのる 目。ここでポー学限校では、 といいでは、 ではのる 目。ここでポー業の便ど	とよ(き 本お学こ 的果冊なイ 参あり、し道各教 研い習と と題も ト 加っ	評価	5
事美	業または取組名	小中学校総合的な学習の時間推進事業	令和	中2年度事業費	2,299千円	担当課	学校	教育	課
事業目的・内容	る経費の助成を [内容] 自然体験、社・ ・小学校 学校割 65, ・中学校	に定める「総合的な学習の時間」に要す 会体験活動等、多様な学習を推進する。 000円、児童割 300円/I人 000円、児童割 300円/I人	事業取組・成果・評価の理由	臨時休業措置を の制限の中では 学習は計画通り 感染状況が改 動を行い、身近 史等、各校の実 学習の機会を研	イルス感染拡大防止のや学校再開後におけるよ、外部講師や体験学り行うことができなから、善した時期を温祉、地の間に応じた課題につい、をはないのできた。変に応じた課題についないできた。ないできることができた。発度であったため、評	る教育活動 習に伴うた。 可能な限実 域の探産 が、実施率	範外 活歴な当	評価	% 3

【教育行政実施方針の目標達成度】

指標名		現状値	目標値	目標値		令和2年度実績
		(平成28年度)	(令和2年度推測值)	(令和3年度)	達成值	内容
ヶ月に 冊も本を読まない児	小	10.3%	6.0%	5.0%	4.8%	令和2年度大分県学力定着状況調
童生徒の割合	中	29.8%	14.5%	11.0%	20.0%	査回答より
自分の住んでいる地域が好き (肯定的回答の児童生徒の割	小	_	79%	80%	86.6%	令和2年度学校アンケートより
合)	中	_	79%	80%	88.0%	マヤン十次ナバノンソートより

【課題と今後の方向性】

- ◆道徳教育においては、小中学校ともに「特別の教科 道徳」が教科化されることに伴い、道徳教育全体計画の充実を図るとともに、教員 の指導力向上に向けて研修会の参加を促し、児童生徒の「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」を育成していく。
- ◆読書活動の推進においては、中学生の読書離れは、県内でも課題となっており(同調査:県中学生平均18.4%)、図書担当教諭及び学校図書館員で構成される協議会との連携のもと、読書活動の推進を図る。

	I	学校教育の充実	担当課	学校教育課
教育行政実施方針	Ⅱ-第Ⅰ	「夢と誇りを持って、たくましく生きる力」を育てる学校教育の推進	12.3 酥	于仅仅有缺
	1	子どもの力と意欲を伸ばす学校教育の充実	平均值	総合評価
【主な取組】	④ 健	・体力づくりの推進	5	А

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため全国の体力運動能力調査は実施されなかったものの、各学校において、作成した体力向上プランに基づいて「一校一実践」の取組が推進されたことにより、児童生徒の運動への愛好度(運動が好きだ)は高い結果が得られた。

また、部活動指導員や外部指導者などの地域人材の活用が図られたことに加え、安全・安心な部活動の実施に向けた送迎事業の実施により多くの学校、生徒が県レベルの大会を体験できた。

フッ化物洗口の実施により児童のむし歯予防を推進するとともに2学期からは中学校にも本事業を導入し、学齢期全体を通しての歯・口の健康づくりに系統的に取り組む仕組み作りができた。

【個別評価】

価

理

事訓	業または取組名	健康・体力づくりに対する取組	令和	中2年度事業費	_	担当課	学校教	教育	課
事業目的・内容	健やかな成長を 部活動の充実。 [内容] ①研究指定校 進校)を中心と ②体力向上プラ	ボランスのとれた体力・運動能力の育成とを促すため、活力を高める学校体育や運動を図るもの。 (体育専科教員活用推進校、体力向上推した体力向上の推進 ラン(一校一実践)の推進 活動における地域人材の積極的な活用 建康な生活につながる学校保健の充実	事業取組・成果・評価の理由	が進全員 ②えし的 ③導こと ・ ※部とわる※技指あ 食教し所る中指 小作「継 学とでで 和 活活をて 部術導り、に諭食をと校・校力 学に一に がたま 年 動の自単 指指員単 関を生たした。 度 指資とで 著きあ独 す各活を 度 が 導めして 著きあれ する が りした かん や が りした おん きょう はん かん	を検達を持ち、 を検達体のとは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	業指上 責き学 者な力 交交)担教す 果が場 、児力導に やまを や指を 82 軽職こ 〕派で 市童向法提 題校が 部導高 名名 減員と 遣の 内生上をすし をで計 活をめ をにか 申一 名徒の	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	評価	5

事業	事業または取組名 中学校部活動送迎支援事業		3,555 1.3				課
事業目的・内容	[目的] 中体連主催の公式試合への参加に係る生徒輸送について、スクールバスや民間バスを利用することにより、より安全な輸送を確保すること。 特に、県新人戦大会は遠方での開催となり個人負担も大きくなることから、生徒の輸送にかかる経費の一部を公費負担し、保護者の負担を軽減することで参加しやすい状況をつくる。 [内容] ・日田市中学校総合体育大会(主催:日田市中学校体育連盟)・日田市中学校新人大会(主催:日田市中学校体育連盟)・大分県中学校新人大会(主催:大分県中学校体育連盟)・大分県中学校駅伝競走大会(主催:日田市中学校体育連盟)・大分県中学校駅伝競走大会(主催:大分県中学校駅伝競走大会(主催:大分県中学校駅伝競走大会(主催:大分県中学校体育連盟)・	事業取組・成果・評価の理由	11校 61チー 日田市で、中体徒が め、スクによる人 の運転、県新したを はを図金を引き続 1,000円)とした パスの効率的な	新人大会参加数(日 一人 主催の公式試合及で が安全かではがないでは、 でののではがないでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、	が県新人戦力 会参ロドライ/ を構発のに できた できた できた は できた は できて できた できた できて できた できて できて できた できて できて できた できて できて できた できて できて できて できた できた できた できた できた できた できた できた できた できた	た、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	5
事業	だまたは取組名 フッ化物洗口推進事業	令和	口2年度事業費	3,168千円	担当課	学校教育	課
事業目的・内容	[目的] これまで学校が行ってきた歯磨き指導や食に関する指導と併せ、フッ化物洗口を実施することにより、すべての児童生徒のむし歯予防を推進するとともに、保護者の協力を得ながら歯・口の健康づくりに対する児童生徒一人一人の意識向上を図る。 [内容] 全小中学校で安全かつ安心なフッ化物洗口を行う。	事業取組・成果・評価の理由	年間で保護者では、大増の89.3%とまた2学期取出の推進と歯が変換がある。	から3年目となったから 教職員の理解を深られた年度の87.9% なった。 は全中学校においていら、学齢期全体を通の健康づくりにつない R2 R1 89.3% 87.9% 66.6% - 5、評価を5とした。	められたこと 6から1.4ポイ ても導入し、小 したむし歯子	に (ン ・学 ・	5

【教育行政実施方針の目標達成度】

七梅夕	指標名		目標値	目標値	令和2年度実績			
担保石		(平成28年度)	(令和2年度推測值)	(令和3年度)	達成値	内容		
	小男	80.0%	-	81.0%	-			
児童生徒の体力テストの総合	小女	83.0%	-	84.0%	-	新型コロナウイルス感染拡大防止 のため、全国及び大分県の体力運		
評価C以上の児童生徒の割合	中男	77.0%	-	78.0%	ı	動能力調査は実施されなかった。		
	中女	91.0%	-	92.0%	ı			
12歳児一人あたりの平均の虫歯本数		I.55本(H27)	1.2本	1.0本	1.19本			

【課題と今後の方向性】

- ◆令和2年度は全国の体力調査が実施されず、評価ができなかったが、引き続き、体育専科教員及び体力向上推進校における実践事例等を市内中学校に広く周知し、総合的な運動能力を高めるとともに、令和元年度からの課題である走力向上の取組や「一校一実践」等を通して運動への愛好度を高めること等により計画的に運動習慣の向上を図っていく。
- ◆引き続き、食に関する指導、歯磨き指導と併せて、フッ化物洗口に取り組むことにより、学齢期全体を通したむし歯予防の推進と歯と口の 健康づくりを推進していく。

	П	学校教育の充実	担当課	学校教育課
教育行政実施方針	Ⅱ−第Ⅰ	「夢と誇りを持って、たくましく生きる力」を育てる学校教育の推進	15.3 欧	子 仅级
	ı	子どもの力と意欲を伸ばす学校教育の充実	平均值	総合評価
【主な取組】	⑤ いし	ごめ・不登校対策の充実・強化	5	А

いじめ防止に係る取組の推進については、各学校において、「学校いじめ防止基本方針」に基づいた組織的な生徒指導体制の構築を図るとともに、毎年度各校において策定する「児童生徒支援対策プラン」に基づき、人間関係づくりや相談体制の確立を図ることができた。

価 また、不登校対策においては、コロナ禍で心の不安を感じる児童生徒の増加が見られるなか、不登校の未然防止や初期対応の徹 底、個に応じた的確な解決支援の実現等に向けた組織的な取組を推進することができた。

評

さらには、教育センターに配置する臨床心理士・心の相談員・スクールソーシャルワーカーのそれぞれの専門性を生かすことにより、「不登校」「発達障害」「心身・健康」「家庭環境」等、多様化・複雑化する悩みを抱える児童生徒・保護者・教職員に対し、専門的知見に基づく的確な指導・支援を継続して行うことができた。

【個別評価】 事業または取組名 いじめ対策の充実・強化 学校教育課 令和2年度事業費 担当課 ≪いじめの認知件数及び解消率≫ すべての子どもたちが安心して学校生活を送ることがで ※R2年度2学期末調査 きるよう、いじめの未然防止対策や早期発見・早期対応 小学校 中学校 合計 の徹底を図る。また、関係機関と連携した支援の充実と強 件数 解消率(%) 件数 解消率(%) 件数 化を図る。 R2 807 50.9 117 44.4 50.1 [内容] 975 48.1 57.1 1,080 105 RΙ 48.9 ①未然防止対策の充実 **▲** 2.8 **▲**12.7 156 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、校長のリーダー 増減 ▲168 12 **▲** 1.2 シップの下、いじめの未然防止を含む組織的な生徒指 導体制の構築を図る。 ※「解消」とは当該行為が止んでおり、心身の苦痛 を感じていないことや、その目安が少なくとも3か月 ・ネットトラブルの未然防止対策として、正しいネット利用 等の情報モラル教育の充実に努める。 であることが規定されており、経過観察中のものが 多数含まれていることから解消率の数値は低い値と なっている。 ②早期発見・早期対応の徹底 ・定期的なアンケート調査や教育相談による、いじめに係 ①「学校いじめ防止基本方針」に基づき、児童生徒 る状況把握に務める。 が主体となるいじめ防止の取組の実施、全教員によ ・ネットトラブル等新たな問題行動に対する教職員の対応 る「生徒指導の3機能」を生かした授業づくり等に取 取 力を高めるための研修体制を充実する。 組 り組んだ。 また、ネットトラブルの未然防止策として、全中学校 目 成 の新入生説明会において、専門的知見を持った講 5 的 師による親子合同「ネット安心教室」を実施したこと により、生徒の自律心を育むとともに、保護者の果た 内 評 すべき役割や責任について意識高揚を図ることがで 容 価 きた。 の 理 ②各学校において、校内いじめ防止等対策委員会 を中心として定期的なアンケート調査や教育相談等 を実施するなど、組織的かつ計画的に取り組んだ。 また、市内小中学校及び高等学校が参加する日田 市生徒指導協議会において、市内児童生徒の実態 把握をする等、きめ細かな情報交換を行うことによ り、小・中学校・高等学校・関係機関と連携してネット トラブルを含む、いじめの未然防止に加えて、早期発 見・早期解決を図るための取組を推進できた。 いじめ防止対策推進法第28条第1項及び第30条 第2項の規定に基づき、重大事態に係る事実関係を 明確にするための調査及び再調査を行う日田市立 学校いじめ再調査委員会及び日田市いじめ問題再 調査委員会を設置した。 以上のことから、評価を5とした。

事	業または取組名 関係機関と連携した取組	令和	口2年度事業費	_	担当課	学校教育	:課
事業目的・内容	[目的] 関係機関と連携した児童生徒の問題行動への対応について、支援体制の充実を図る。 [内容] ①日田市教育委員会の附属機関として、日田市学校問題支援チームの設置 ・日田市学校問題支援チーム会議定例会 【出席者】 弁護士、精神科医、大分県警スクールサポーター、臨床心理士、市教委関係者 ②生徒指導協議会と連携して家庭・地域と一体となった健全育成活動の推進。 ・生徒指導協議会定例会 【出席者】 小中高の担当者、日田署生活安全課、こども未来課など関係機関の代表 ・生徒指導協議会支部総会 【出席者】 小中高の担当者、育友会関係者、日田署生活安全課、自治会長、民生児童委員等	事業取組・成果・評価の理由	校チをに言 ②生画の推中支登組域たの議な決と 全協間有ことでのですが、 小議回等がといるであれますが、 小議回等がといるであれますが、 小議回等がとのです。	中学校及び高校で組织 会については、コロナネ 実施し、各機関からの 生徒指導に関する連	校しか的 織品の助携 てほこ共門門具を確 するあ言した、まあでし、ではれ有にないので、 重あでい、通家がは、 のまは、 のまに、 重ない、 通家が、 第一年学組 にい、通家が、 第一年学組 にい、通家が、 第一年学組 にい、通家が、 第一年学組 にい、通家が、 またが、 またが、 またが、 またが、 またが、 またが、 またが、 また	養事と助 市、交を よさりを 案と助 計間 よつの・	5
事業目的・内容	 【目的】 すべての子どもたちにとって魅力ある学校づくりを推進し、不登校の未然防止や早期発見・対応・支援の充実を図る。 【内容】 ①教育相談コーディネーターを中心とする校内対策委員会の定例化により、不登校の未然防止、初期対応の徹底、個に応じた的確な解決支援の実現等を組織的に推進する。 ②不登校に係る教職員研修の充実を図る。 	事業取組・成果・評価の理由	にシらのの ②な徒いへ周ま要き 2日2度の校に、トーン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	一席の行た 会が巡登で 心崔 (%、標禍ら央ーソ状活いの が地国校グ のる 席中ではれてり 開児導童ム アこ 日学令いなのを把し登れ 催童を生等 かか 数校和てか取	星が校目 ぎ生行徒の 必で 3が2心、組	ま

事訓	業または取組名	問題を抱える子ども等の自立支援事業	令和	2年度事業費	22,736千円	担当課	学校教	教育語	課
	の活動により、(等の複雑な悩み 施する。 [内容]	・ P心の相談員、スクールソーシャルワーカー いじめや不登校、家庭環境に起因する問題 みを抱える児童生徒・保護者への支援を実		R2:延べ753 ・「発達障がい」 ・「不登校」に関 ・「心身の健康・ 近年、「発達障]するもの ◇自分の性格」に関す がい」の問題を筆頭	41 24 るもの 6 に相談件数	女が		
	員へのカウンセ・臨床心理士 用いた支援	による悩みを抱える子どもや保護者、教職・リングを実施 (2名 週のベ4日在所)による心理療法を による不登校児童生徒への訪問支援・別		する児童生徒や	-	門的知見に	基		
	室登校生への 施 ・6名を不登材 ③スクールソー	支援等、学級・学校復帰に向けた支援の実 交児童生徒の多い小中学校に派遣 シャルワーカーによる児童生徒の家庭環		・別室登校をしい不登校児童会・やまびこ学級をめの支援	ている児童生徒への 生徒宅への家庭訪問 の通級生が学級・学	校復帰する			
事業目	教育センター社会福祉士	図る支援の実施 - に3名配置 による関係機関とのネットワークを生かした 保護者、家庭支援の実施	事業取組・成	小・中学校に派 を行った。令和2	請に応じ、6名の心のが 遣し、不登校児童生行 2年度は中学校5校(見 と教育センターを拠点 援を行った。	走に対する。 東部・三隈	支援 · 南		
日的・内容			成果・評価の理由	【訪問回数】 ・R2: I,066E 【主な支援内容 ・「不登校」に関	」 するもの 問題」に関するもの	53件 49件 25件		評価	5
				要とする児童生 や市の関係機関	マルワーカーが、家庭 徒とその保護者を対り 見との連携の下、数かいち援を行い改善に	象に、医療 月から複数	機関 (年		
				カーが、年々増 スタッフによるす かしながら継続	いの相談員・スクール・かしている保護者や学え援要請に、それぞれいした活動を行うことで と導くことができている	を校からの に専門性を 、個々のケ	専門 生		
				以上のことから	5、評価を5とした。				

【教育行政実施方針の目標達成度】

指標名		現状値目標値		目標値	令和2年度実績				
1日1水石		(平成28年度)	(令和2年度推測值)	(令和3年度)	達成値	内容			
いじめの解消率	小	76% (H27)	85%	88%	50.9% (97.8%)	令和2年度2学期末調査結果 (年度末結果は翌11月頃公表)			
V OWNNITH	中	79% (H27)	86%	88%	44.4% (96.4%)	※() 内参考値は、令和2年度 3学期末までの市独自集計結果			
不登校児童生徒の出現率	小	0.36% (H28)	0.31%	0.30%	0.92%	令和2年度2学期末調査結果			
计立识儿至工作的由汽车	中	2.17% (H28)	2.12%	2.10%	2.35%	(年度末結果は翌11月頃公表)			

※現状値及び目標値は各年度末時点

【課題と今後の方向性】

◆いじめ対策については、ネット上のいじめ等いじめの態様が潜在化・多様化する傾向にあり、容易に認知ができにくいことが現状の課題である。また、不登校対策については、低年齢化・長期化が課題となっている。これらの課題に対する迅速かつ適切な対応のためには、日常の見守りはもちろん、各学期前後や長期休業明けにおける計画的なアンケート調査の実施や教育相談の回数を増やす等により、きめ細やかな観察や指導を組織的に行うことが必要であり、今後も、市教育センターに配置する臨床心理士・教育相談員や県が各学校に配置しているスクールカウンセラーといった専門スタッフの活用や医療・関係機関、教育センター「やまびこ学級」との連携のもと、組織的・計画的な対策に引き続き取り組んでいく。

	П	学校教育の充実	担当課	学校教育課
教育行政実施方針	Ⅱ−第Ⅰ	「夢と誇りを持って、たくましく生きる力」を育てる学校教育の推進」	距コ欧	子仅 级 月 跃
	ı	子どもの力と意欲を伸ばす学校教育の充実	平均值	総合評価
【主な取組】	⑥ 一人で	ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細かな指導の充実	5	А

コロナ禍において、これまで行ってきた特別支援コーディネーター部会における研修会や特別支援教育サポート補助職員対象の研修会、全教職員対象の研修会等は実施できなかったが、各学校と関係機関が個々に連携しながら、支援をしていくことができた。また、「個別の指導計画」作成についても、作成率は小中ともに目標値を上回ることができた。

また、各学校においては、個別の支援を必要とする児童・生徒の安全確保、精神的安定、生活面での自立、学習の理解と定着を目指し、担任、特別支援教育サポート補助職員が連携して、支援体制・支援方法の工夫や適切な支援等を組織的に行うことにより、一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細かな指導の充実を図ることができた。

【個別評価】

価

理

事美	事業または取組名 校内支援体制の充実及び教職員の専門性の向上		令和2年度事業費 –		担当課 学校		教育課		
事業目的・内容	じた一貫した支 [内容] ①校内における ②障がいのある 支援の充実に向 充実 ③教職員の専門	た的確に把握し、一人ひとりのニーズに応援を進めること。 が就学指導及び相談体制の充実 の児童生徒に対する教育支援体制整備と向けた協議を行う特別支援連携協議会の 門性の向上 能を持つ特別支援学校との連携推進	事業取	夕談診じょ成的 ②2は共 ③セか ④「こ 研が別のでいた。大き、は画 型開有 新ンっ コ専と 研が別のできる。 は画 型開で表 コー。 ナ家で 会れ援実 コー。 ナ家で 会れ援実 などをないのも支 ウ予かに ウ研 おム。 導ででにない。	いり、に、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな	「相機し図さんが の爰レこ の実 交年 とし、心作相機し図さが推 た連べ た施 連回 で学としにや関、つってき進 め携ル めで 携開 で学たよがに個では、糸ぎ 、議の こき し催 な校相る	学るこ 、組ま 年会情 教な たす かど談組相受応 作織た 間」報 育 る っに体織	評価	5
事		特別支援教育活動サポート事業	令和	口2年度事業費	50,188千円			教育	課
事業目的・内容	補助職員を配置サポート等によ 促進を、危険の また、危険機管 で容] で容] で容] で容] で容] で容] で容] で容]	が必要な児童生徒が在籍する通常学級に置し、日常生活上の支援や学習活動上のり児童生徒への個別の対応・学習理解のめ、学校外への飛び出しなど、緊急時に対意理体制を構築する。 32名、中学校6校 13名 計21校 45 修会 年3回開催	事業取組・成果・評価の理由	安全確保の対が 遺要請に基づきて、対図られた。 ②補助研止の別では大防には特別をたけれたのは大では特別を大けては、おいた情報、	児童生徒の見守りや で等を可能とするため に等を可能とするため は、補助職員を計画的へ を動の向上を目的になる。 一ついては、新型コロット に対象育コーディネーが を援方法の検討はこれ を接方法の検討した。	、学校から に配置する。 ・の対応のする。 ・ウイルス ・たが、中か ・ケーをかる。	のこた 定落校と と実 し染にし	評価	5

指標名		現状値	目標値	目標値	令和2年度実績		
1日1亦石		(平成28年度)	(令和2年度推測値)	(令和3年度)	達成值	内容	
「個別の指導計画」の作成率	小	_	94%	95%	95.5%	通常学級において「個別の指導計	
(通常学級)	中	_	94%	95%	100.0%	画」を作成している学校の割合	

【課題と今後の方向性】

◆一人ひとりのニーズに応じた一貫した支援を可能とするために、これまでの医療関係者・保健関係者・福祉関係者・教育関係者に加えて、社会福祉法人等、新たな関係機関との連携強化にも取り組むことにより、組織的、系統的な支援体制の充実を図るとともに、「個別の指導計画」を効果的に活用しながら、引き続き、きめ細かな支援が行き届くよう取組を推進していく。

	子どもの意欲を伸	学校教育の充実	担当課	学校教育課
教育行政実施方針	Ⅱ−第Ⅰ	「夢と誇りを持って、たくましく生きる力」を育てる学校教育の推進	距コ欧	子 仅级
	ı	子どもの意欲を伸ばす学校教育の充実	平均值	総合評価
【主な取組】	⑦教育	センター機能の充実	5	А

教職員の研修講座については、例年、研修の内容を教職員のニーズや教科指導をはじめとする教育課題に基づいたものとしているが、令和2年度はコロナ禍での開催ということで、児童生徒の心のケアに関する|講座のみの開催とした。各校|名の代表による参加によって、2学期からの児童生徒の心の不安への対応について研修を深められた。

また、保護者や教職員・児童生徒に対する相談対応については、まず、教育相談員3名がじっくり話を聞き、相談内容によっては、専門的知見を持つ臨床心理士やスクールソーシャルワーカーにつなぐことにより、多種多様な悩みに的確に対応することができた。また、不登校の状況にある児童生徒を対象とした支援を主な目的として設置している「やまびこ学級」においては、学校に登校できない児童生徒の心の居場所であるとともに、学習支援や自立支援等を効果的に行ったことにより、それぞれの通級生が、自らの進路を主体的にとらえたり、社会的に自立しようとしたりする方向に向かい、その内75%については、在籍校や高校進学への学校復帰といった具体的行動にまでつなげることができた。

【個別評価】

理

事	業または取組名 教育センター運営事業	令和	口2年度事業費	7,549千円	担当課	学校教育	課
事業	[目的] ・日田市全体の教育課題への対応や教職員のニーズに 応じた内容についての研修講座を開催し、教職員の指導 力や資質の向上を図る。 ・児童生徒や保護者、教職員の多種多様な問題に対応で きる相談体制を組織する。 ・不登校児童生徒の居場所を保障しながら、学習支援や 体験活動並びに相談活動をとおして、自立心や社会性を はぐくむ支援を行う。 [内容] ①研究研修事業 ・全教職員対象の研修講座の開催 ・長期派遣研修生の報告会開催	事業取組・	①研究保護はるのかでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	まコロナ禍での開催とい 日講座のみの開設とし 定したうえで、十分の 定したうえで、十もの 定したうえで、とが心要ないができた。 ないできないが、30校 はできないが、対応できないが、対応できないができた。 では社会情勢にとができた。 の悩み等問題を抱える の似み等や教職員の相 日談員が、電話や面接	・うことで、『の ・うことを発止が ・一点を ・一点を ・一点を ・一点を ・一点を ・一点を ・一点を ・一点を	契う対講、参指 をして 7	計
目的・内容	・図書室運営、資料提供 ②相談事業 ・教育相談員3名の配置 ③「やまびこ学級」開設、運営事業 ・教育相談員3名が中心となり運営		門の大き事では、「沢田田町の大き事では、「いった」では、「	だした。また、相談内容の にた。また、相談内の には、理士やスクー には、アッフのするなど、では、 でいたりするなど、変更な役割を担っながら、 のは、ののではながら、 にはけていながら、自然ではながら、 がでいる。 でいる。 でいる。 にいている。 にいる。 にいる。 にいていな。 にいていな。 にいていな。 にいていな。 にいな、 にいていな。 にいていな。 にいていな。 にいないな。 にいないな。 にいないな。 にいないな、 にい	・ルソーシャだり ・ ででである。 ・ ででは、不登をです。 ・ ででは、不登をのましている。 ・ では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	ル、相 状重プ援 タ人	5

【教育行政実施方針の目標達成度】

指標名	現状値	目標値	目標値	令和2年度実績			
7日1示 4口	(平成28年度)	(令和2年度推測値)	(令和3年度)	達成値 内容			
研修講座参加率	78.9%	92%	95%	96.7%	29人/30人		

【課題と今後の方向性】

◆児童生徒や保護者・教職員が抱える悩みについては、近年多様化・複雑化・長期化が進む状況にあるため、今後とも、教育相談員、臨床心理士、スクールソーシャルワーカー等の専門スタッフとの連携により、相談機能と支援体制の充実を図っていくとともに、不登校児童生徒の貴重な居場所となる「やまびこ学級」において、体験活動等様々な学習活動のより一層の充実を図ることにより、対象となる児童生徒の学校復帰や社会的自立を引き続き支援していく。

	П	学校教育の充実	担当課	学校教育課
教育行政実施方針	Ⅲ一第Ⅰ「夢と誇りを持って、たくましく生きる力」を育てる学校教育の推進」		にコ欧	子 仅级月跃
	2	小中連携・小中一貫教育の推進	平均值	総合評価
【主な取組】	①小中	連携教育の推進	5	А

中学校入学前の3学期に、中学校教員が小学校を訪問し、出前授業や入学予定児童の中で教育的支援が必要な児童についての情報共有を行ったり、入学後1学期中に小学校教員が中学校を訪問して、1年生の授業参観や教員間での情報交流を行ったりすることにより、小6児童の中学進学時における不安解消や特別な支援を要する児童の切れ目・すき間のない支援を行うことができた。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、これまで通りの小中教員による授業の相互見学はできなかったが、学力向上を目的とした加配教員による公開授業の際には、可能な限り異校種教員が参加する機会を設ける等により、交流の場を設定することができた。

【個別評価】

価

理

由

事業または取組名 小中交流研修の取組	令和	中2年度事業費	_	担当課	学校教	育訓	果
[目的] 小学校と中学校の教員が互いに交流し、学習指導方法の違いの検証や生徒指導上の情報を共有することにより、小中のスムーズな接続を図る。 [内容] ・小中交流研修 A・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	事業取組・成果・評価の理由	訪の(・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	、中学校入学後の1学 面、生活面の両面での こつなげるため、1年生 事項等の情報交換を行 な会授業研究会につい な大防止の観点から が、学力向上にかかる よ可能な限り、参観・意	ともし 対側のつう て実加見 の背報と目のもれた。 にに授た は施配交 業上小で授て、、、、応業。 新す教換 生の小で授て、す 中じが 型る員が の間中きだ業、	て 校きや 口と等で 様題情。の	評価	G

【課題と今後の方向性】

◆他校種の授業を参観することで個々の授業改善や小・中の教員の共通認識をさらに深めることを目指す。また、特別な支援を要する児童生徒についての情報共有や小中の円滑な接続を図るため、引き続き、全体での小中交流研修や公開授業を通しての校種間交流を積極的に推進していく。

	П	学校教育の充実	担当課	学校教育課
教育行政実施方針	Ⅱ−第Ⅰ	「夢と誇りを持って、たくましく生きる力」を育てる学校教育の推進」	坦コ欧	于仅级自跃
	2	小中連携・小中一貫教育の推進	平均值	総合評価
【主な取組】	②小中	一貫教育の推進	5	А

市内3つの小中一貫校(大明小・中、津江小・中、大山小・中)においては、学校教育目標を統一することに加え、発達段階を、基礎期(1~4年生)、充実期(5~6年生)、発展期(7~9年生)の3つ段階で分類し、義務教育9か年を見通した教育課程に、それぞれの発達段階において目指す児童・生徒の姿を明確に位置づけるとともに、充実期(5~6年生)を中心に中学校教員による乗り入れ授業を行うことで、より専門性の高い授業を実施することにより、小学部から中学部への円滑なつなぎを促す等、計画的・系統的な教育活動を行うことができた。

【個別評価】

由

	貫教育の特色を生かす取組	令和	和2年度事業費	_	担当課	学校教育	育課
いく。 [内容] ①小中一貫教育の特色	を生かした取組を効果的に進めて、を生かすための教員配置、を生かすための教育課程の編成	事業取組・成果・評価の理由	中学校教小・中学校教小・中学校教小・中学校小・中教員・中学長では、マークをは、マークをは、マークをは、アークをは、アークをは、アークをは、アークをは、アークをは、アークをは、アークをは、アークをは、アークをは、アークをは、アークをは、アークをは、アークをは、アークをは、アークを対しのでは、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークをでは、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対し、アークを対しのでは、アークを対しのでは、アークを対しのでは、アークを対しのでは、アークを対しのでは、アークを対しのでは、アークを対しのでは、アークを対しのでは、アークをでは、アークをで	於業】「体育」 校> 於業】「音楽」「体育」「	受業)の状況 「外国語」 「外国語を行う のででである。 「か」 「対象ではなっている。」 「かった」 「 「かった」 「かった」 「かった」 「かった」 「かった」 「かった」 「かった」 「かった」 「かった」 「かった」 「か。 「か。 「かった」 「かった」 「か。 「か。 「か。 「かった」 「か。 「か。 「か。 「か。 「か。 「か。 「か。 「もっ。 「か。 「か。 「もっ。 「もっ。 「もっ。 「もっ。 「もっ。 「もっ。 「もっ。 「もっ	兄いこうを	5

【課題と今後の方向性】

◆引き続き中学校教員の専門性を生かした小学校への乗り入れ授業を推進するとともに、小学校教員による中学校への乗り入れ授業の 実施のため、技能教科を中心として、可能な限り中学校の教員免許をもつ小学校教員を3つの小中一貫校に配置することを推進していく。

	П	学校教育の充実	担当課	学校教育課
教育行政実施方針	Ⅱ-第Ⅰ	「夢と誇りを持って、たくましく生きる力」を育てる学校教育の推進	坦马酥	于仅级自跃
	2	小中連携・小中一貫教育の推進	平均值	総合評価
【主な取組】	③小中	ー貫校におけるコミュニティ・スクールの推進	5	А

コミュニティ・スクールを導入してから津江小・中学校、大山小・中学校は3年目、大明小・中学校は2年目となり、新型コロナウイルス 感染拡大防止のため活動の制限を受けることはあったものの、書面会議も含めて、計画的に学校運営協議会を開催し、共通理解の もと課題解決に向けて可能な取組を推進することができた。

【個別評価】

価理由

事業	ぎまたは取組名 しょうしょう しょうしょ しょうしょ しょうしょ しょうしん しょうしん しょうしん しょうしん しょうしん しょうしん しゅうしん しゅん しゅうしん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん しゅん し	小中合同学校運営協議会の設置	令元	和2年度事業費	_	担当課	学校教	育課	Į
事業目的・内容	[内容] 小中一貫校の 中の系統的な ○小中一貫校 ・H30年度	子供を育む学校運営を充実させる。 の特色を生かした協議会運営を通して、小学校運営を実現する。 における学校運営協議会の設置状況 津江小・中学校、大山小・中学校 大明小・中学校	事業取組・成果・評価の理由	小市 ()・地で ()・地で ()・地で ()・地で ()・地で ()・地で ()・地で ()・地で ()・地で ()・地が ()	学校運営協議会委員 災訓練(保護者引き渡 校運営協議会 た校区全体を網羅した 校運営協議会 による小学校への授 らけるコミュニティ・スク ある学校づくりの実現	Eし 計練) σ 業 フーに か解 小な協 ウール ポール はけ 中に 合る議 でいる いる できる できる できる できる できる できる できる できる できる でき	y ま の 小 年 け の が 、 が 、 の が の の が の が の が の が の が の が の が の が の が の が の の の の の の の の の の の の の	評価	5

【課題と今後の方向性】

◆それぞれの学校運営協議会において引き続き、PDCAサイクルを踏まえたうえで、学校・地域が抱える共通の課題を明確にし、課題解決に向けて重点的に取り組むことを焦点化しながら、小中一貫校の特色を活かした取組を推進していく。

	П	学校教育の充実	担当課	人権·部落差別	
教育行政実施方針	Ⅱ-第Ⅰ	「夢と誇りをもって、たくましく生きる力」を育てる学校教育の推進	15.3 欧	解消教育課	
	3	学校人権教育の充実	平均值	総合評価	
【主な取組】	①学校	の教育活動全体を通じた人権教育の推進	4.8	Α	

「令和2年度 日田市人権教育指導のてびき(以下『てびき』)」を刊行し、全教職員および社会教育関係者等の人権教育推進に関する共通理解と研修に活用することができた。

各学校で、人権教育全体計画や年間指導計画の策定と取組の検証が行われ、人権教育主任を要としてPDCAサイクルに則った組織的・計画的・継続的な人権教育実践が推進された。

指定研究校の大山小学校では、「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」(以下[第三次とりまとめ])等の理念を踏まえた人権尊重の視点に立った学校づくりを目指した研究が行われ、公開発表会では、小中一貫校の大山小・中学校の教員も全員参加し、人権尊重の3視点の自己存在感や共感的人間関係の育成の工夫として、フリートークを活用した授業を実践例として示すなど、2年間の研究を通しての、自他を大切にする生徒の育成の成果を市内小・中学校に還流することができた。

【個別評価】

価

事	業または取組名	学校人権教育事業(「指導の手引き」印刷・製本)	令和	口2年度事業費	144千円	担当課	人権·部落差	別解消教育課
事業目的・内容	等を周知徹底し 係者等との情報 [内容] 「平成31・令系育の取組」「令系 権教育推進計員 を作成し、小中の	教育における人権教育の実施方針、内容 、円滑な推進を図るとともに、社会教育関 設共有を行う。 ロ元年度学校人権教育および社会人権教 和2年度学校人権教育推進計画・社会人 画」や各種研修資料を掲載した『てびき』 学校の教職員全員をはじめ公民館長等の 者等にも配布し、取組の共通理解と研修の	評価の理・	・令和2年度を発生を発生を発生を発生を発生を表している。 ・「一年を発生を発生を発生を発生を発生を発生を発生を発生を発生を発生を発生を発生を発生を	田市人権教育指導の人権教育指導の人権教育指導の人権教育をは近郊村(以下「きとめ」の理念とはじめとでいるとはじめという。 700冊 びきを配布することでいるに関したのできた。 がは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	共通教材」) 法 法 する人権 と、研究 を、 を を を の で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 に 、 に	の整の質え校で	5
事	業または取組名	学校人権教育事業(学校としての組織的な取組)	令和	口2年度事業費	_	1 ————		別解消教育課
事業目的・内容	動全体を有主体を有主体を有主体を育進を育進を育進を育り、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	ため]等の理念を踏まえ、学校の教育活力に連携させ、校長のリーダーシップのもとを要として組織的・計画的・継続的な人権行う。 本計画と各教育活動を連携させた年間指での小中学校で作成する。 中学校で、定期的に人権教育推進のため、取組の総括と改善を行う。 任を対象とする会議及び研修を定期的に制づくりへの指導助言や各校の人権教育の交流・共有を行う。 中学校で、相談窓口の周知を図ると共に、まと連携できる組織的な相談体制づくりを	事業取組・成果・評価の理由	全学校で、実践して共通教育主体でで、対すのでは、実践のでは、対すのでは、対するとは、対で、対で、対で、対で、対で、対で、対で、対のでは、対のでは、対のでは、対の	ハラや性に関する相記 談窓口の設置につい 知を行った。 べての学校で実施 本で人権教育推進体 中3を対象とした「人活での自己肯定感にか 値が3.2となり、目標値	全体計画をイ できた。 は、できたた。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	作 な ル 置徒 こかに 評価	4

	学校人権教育事業(研究指定校交付金)	令和	口2年度事業費	32千円	担当課	人権·部	『落差 』	削解消教育課
事業目的・内容	目的] (第三次とりまとめ]等の理念を踏まえ、学校の特性を生かし、人権尊重の視点に立った学校づくりを目指した具体的な取組についての研究を行いその成果を他校に還流する。 内容] 人権教育研究校として、2校を2年間にわたり指定し、2年目に公開研究発表会を開催してその成果を発表するもの。 令和2年度 研究指定校・大山小学校(2年間の2年目)	事業取組・成果・評価の理由	念が、業習校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	会では、[第三次とり] 権事三次とり] 権尊重のでは、「現点にての研究 は、フリーのできた。 とがで、施選員をした。 がで、大権員全した。 がで、大権員をした。 がで、大権員をした。 が、大格員がで、大路のより、 が、より、とがいるとが、 が、大路のより、 であるため大山の中であるため大山中	た究をれ他 いいる た参学 立ったが活主の 一合究 ふか教 たりの サイカル 貫同党 いとし員 学の かいましょう かいかい かいかい かいかい かいがい かいがい かいがい かいがい かいが	りたたに学 で行業 開いま でく	評価	5
事	さまたは取組名 日田市人権学習共通教材「部落問題学習」改訂事業	令和	口2年度事業費	103千円	担当課	人権·部	『落差』	削解消教育課
事業目的・内容	[目的] 日田市内の児童生徒が、学校における人権学習において部落差別問題を正しく理解し、学ぶことで、自他の人権が守られる共生社会の形成者として必要な資質能力を培う。 [内容] 令和元年度から令和2年度の2年間で、以下の「共通教材」について、部落問題学習教材の資料の改訂を行う。 ・令和元年度:中学 年資料「生きるということ」・令和 2年度:小学6年資料「みんなが輝けるために」	事業取組・成果・評価の理由	活用に向けた内究の最新の情報・改訂資料案をた。改訂資料案を 禁・監修を受け、 以上のことから	5、令和元・2年度の2 ド中学 I 年生資料を作	い、部落史 案を作成し 力校で実が 門家による 年間で小学	!研 た。 も 指 学6	評価	5

指標名	現状値	目標値	目標値	令和2年度実績				
	(平成28年度)	(令和2年度推測值)	(令和3年度)	達成值	内容			
小6・中3で実施するアンケートにおける、※「自己肯定感」にかかわる項目の平均値(最高値4)	_	3.3	3.4		①部分的受容感 3.1 ②無条件受容感3.3 ③自己認識3.6 ④自己決定3.2 ⑤自己有用感3.0 ⑥自己認容感2.8			

- ◆アンケート結果より、「部分的受容感」「無条件受容感」「自己認識」「自己決定」の数値が目標値に近い値となっていることから、自己を大切な存在として尊重する感情を継続して育成していく。
- ◆「自己有用感」「自己認容感」といった他者との関係から形成される自尊感情を高めていくことが必要であることから、人権教育主任会等の場で、市内小中学校における児童間や生徒間の交流事例を知らせながら、人権尊重の3視点(自己決定・選択、自己存在感、共感的人間関係)をすべての教育活動に位置づけた取組を今後も全小中学校で行っていく。
- |※「自己有用感」:(自分が、何かの役に立っている) 「自己認容感」:(自分が、誰かに認められている)
- ◆今後も関係機関等と連携しながら、様々な人権侵害等につながる社会的背景等を持つ児童生徒・保護者の相談・支援を行っていく。

	П	学校教育の充実	担当課	人権·部落差別	
教育行政実施方針	Ⅱ−第Ⅰ	「夢と誇りをもって、たくましく生きる力」を育てる学校教育の推進	15.300	解消教育課	
	3	学校人権教育の充実	平均值	総合評価	
T 72 72 NV 201		- 関する知的理解と人権感覚を育て、差別をなくす実践行 がる人権教育の指導内容及び指導方法の充実	% 4	ЖВ	

市内全学校で「共通教材」による校内授業研究会を開催し、人権尊重の3視点の授業への効果的な位置づけ等により、自他を大切にする意識や自己肯定感の育成、差別をなくす判断力と行動力の育成につながる人権教育の指導内容・方法の研究実践が図ら評れた。

価 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ゲストティーチャー(以下GT)の派遣等による「出会いの学習」の機会は減少したが、人 権学習教材等を用いた人権学習により、児童生徒が、人権課題に関する認識と自らの考え方・生き方を深める取組は継続して実施 できた。

【個別評価】

事	業または取組名 学校人権教育事業(人権教育の指導内容·方法の充実)	令和	中2年度事業費	_	担当課	人権·部落	差別解消教育課
事業目的・内容	[目的] 「人権に関する知識」と「自己肯定感」等「人権感覚」を基盤として、「差別をなくす判断力と行動力」を育成する人権教育の指導内容・方法の充実を図る。 [内容] ①「共通教材」を全ての小中学校で実施する。 ②「共通教材」による校内授業研究会を開催する。 ③人権教育における「人権尊重の3視点」を活用した授業を推進する。 ④学習サイクルに則った体験的参加型人権学習を推進する。 ⑤人権をめぐる情勢に応じた情報を教材として適時活用する。 ⑥平和や核について学び考える教育活動を全ての小中学校で実施する。	事業取組・成果・評価の理由	・ ②校・・・・(④体・8 ⑤中別推た ⑥時し、 新が夫知内 人実人共特落学 常的験外、中で解進。 市間自 型制す的外 に)尊教の別 行加参目 社田」の 小い大 ナさこ解	する校内授業研究会(の3視点」の授業での位を用いた人権学習の名 は通しでの人権学習 選学習教材による授業 とにつながる学習サイ 学習 型学習を受けた児童生	市 立在習業 ク 生 3(「部才 いてと か内た 間りの実 ル 徒 公(「部才 てのが め容人全 づ方在践 に の 民障落し 学学で やを権い け りに 則 割 の害差て び習き 学方で いっ 合 授者別,所 考をた 習法関	P いた: 業差解し え通。 活をす の 消し る通。 活をす ii fe	

指標名	現状値	目標値	目標値		令和2年度実績
1日1小小口	(平成28年度)	(令和2年度推測値)	(令和3年度)	達成値	内容
「学習サイクル」に則った体験的参加型学習を受けた児童生徒の割合	70.0%	95.0%	100%	89 7%	体験する、話し合う、反省する、適用 するという学習サイクルに則った体 験的参加型学習を受けた児童生徒 の割合

- ◆「特別の教科 道徳」における人権学習の指導方法について、学習の内容と道徳的価値の関連を示し、児童生徒の道徳的価値観を引き出し、共有する授業を行うため、各校における授業研究会で指導事例等を示しながら、指導内容や授業力向上の指導・支援を引き続き行っていく。
- ◆部落差別をはじめ様々な人権問題の解消につながる知的理解と人権感覚の内容を明確にした学習を今後も推進していく。
- ◆社会科学習と「部落差別問題学習教材」での学習との相互関連を図ることが重要であることから、引き続き相互の関連について提示し、授業を支援していく。
- ◆体験的参加型学習サイクルについて、人権学習を通して学んだことを自己の行動や態度へ「適用する」段階の指導について理解を図る必要があることから、実践事例等を人権教育主任会等で交流し、「適用する」段階の実践について研究を進めていく。
- ◆児童生徒にとって、GTによる計画的な「出会いの学習」は人権に関する有効な学習であり、学習機会を推進するため、人権教育主任会等で実践例等の情報提供や情報交換を行っていく。また、学習を円滑に実施するための事前打ち合わせのコーディネートなどの支援を行う。

	П	学校教育の充実	担当課	人権·部落差別
教育行政実施方針	Ⅱ-第Ⅰ	「夢と誇りをもって、たくましく生きる力」を育てる学校教育の推進	15.3 欧	解消教育課
	3	学校人権教育の充実	平均值	総合評価
【主な取組】	③ 教職	員研修の充実	% 3	жс

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教職員人権研修について、17の研修機会のうち6の研修の実施となった。 研修数は減少したが、校内教職員人権研修や研究指定校発表会については実施し、教職員の人権知識の習得や人権意識の向上 が図られた。

【個別評価】

評

価理由

事	業または取組名 学校人権教育事業(教職員対象の人権研修会の開催)	令和	口2年度事業費	50千円	担当課	人権·部落	客差 別]解消教育課
事業目的・内容	[目的] 教職員に対して人権教育に関わる研修会を開催し、教職員の人権意識の向上と学校人権教育の指導者としての力量を高められるようにするもの。 [内容] ①全教職員人権教育講演会の開催 教職員人権研修講座の開催職種等別人権研修会の実施 ②校内人権問題研修会、人権教育研修会を実施する。 ③人権教育研究指定校を指定し、実践的研究を推進する。 ④各種人権確立・人権教育研修会等への参加支援を行う。	事業取組・成果・評価の理由	・ 一 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	主催の15研修のうちのでは、15研修のうちのでは、15研修のうちのでは、15研修のうちのでは、15研修のをは、15研修のでは15研修のでは、15研修のでは15研修のでは15研修のでは15研修のでは15研修のでは15研修のでは15研修の	8 (333名) 育 (4: 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	3名 名 修 重 研 者研	評価	* 3

【教育行政実施方針の目標達成度】

指標名	現状値	目標値	目標値		令和2年度実績
1日1示 亿	(平成28年度)	(令和2年度推測値)	(令和3年度)	達成値	内容
教育委員会主催の教職員研修にお けるアンケートにおいて、肯定的な回 答の平均割合		92%	95%		研修に「非常に満足」「満足」と回答した人数を参加延べ人数で割った値

- ◆今後も、教職員の人権に関する知的理解と人権感覚の向上を図り、教職員の授業力向上につなげることが必要であることから、「人権 教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」による人権教育を通じて育てたい資質能力について教職員研修を全小中学校 で実施する。
- ◆教職員の授業力の向上のため、全小中学校で「共通教材」による校内授業研究会を実施し、中学校においては部落差別問題学習共 通教材での校内授業研究会を継続して行う。
- ◆教職員の部落差別問題に関する正しい認識と理解を深めることが必要であるため、研修(差別の現実、法律、歴史認識、部落問題学習 実施上の留意)を継続して進めていく。
- ◆教職員の人権意識の向上を図るため、体験的参加型の手法(ワークショップ、フィールドワークなど)や被差別当事者との対話形式の学習など参加者主体の研修方法により、教職員自らが「感じ・考え・行動できる」研修に引き続き取り組んでいく。
- ◆人権教育講演会、人権教育研修講座等の教職員研修を効果的に行うために、開催方法等の工夫を行うことにより、コロナ禍においても 研修機会を継続して設けていく。

		学校教育の充実	担当課	人権·部落差別	
教育行政実施方針	Ⅱ−第Ⅰ	「夢と誇りをもって、たくましく生きる力」を育てる学校教育の推進	15.3 欧	解消教育課	
	3	学校人権教育の充実	平均值	総合評価	
【主な取組】	④家庭	、地域や関係機関・団体及び各校種間との連携	%3.5	ЖВ	

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、小中学校での、児童生徒・保護者・地域を対象とした人権講演会や人権学習の保護者・ 地域への授業公開は、約60%の実施であった。

また、公民館・関係機関や団体及び各校種間との連携についても、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公民館との連携や関係機関や団体および校種間との連携は、約60%の実施となった。

【個別評価】

理

由

事	業または取組名 学校人権教育事業(保護者等対象人権講演会等)	令和	02年)	度事業費		263千円	担当課	人権・	部落差別	別解消教育課
事業目的・内容	【目的】 児童生徒・保護者・校区住民が、人権・部落差別問題について正しい理解と認識を得られるようにするため、各小中学校で人権講演会等を開催するもの。 【内容】 ①すべての小中学校で、地域啓発も含めた人権講演会等を実施するため、各校のニーズに応じて、講師を派遣する。 ②小中学校で実施される人権学習を保護者に公開する。 ③平成28年度に施行された「差別解消3法」の内容と意義の周知を学校を通して実施する。	事業取組・成果・評価の理由	【理 市 ②感 ③解て全 新等人染 新消診学 55が	保	中 世 人 中 会 数 数 で が と か と か と か と か と か と か と か と か と か と	9.2% -トの結果(RI 回(24人) 回(10人) 回(34人) コロナウイ		評価	※ 4

[目的] 個別の人権課題、自己肯定感の育成、差別をなくす行動化など人権教育・啓発や研修を推進するため、地域、公民館、関係機関・団体および校種間の連携を推進する。 [内容] ①各小中学校を地域啓発の拠点と位置づけ、公民館と連携した発育の会との連携がである。 (②関係機関・団体と連携した教職員研修等を開催する。 (③小・中・高の学校種間での児童生徒の情報交換の実施と人権学習を通した連携を進める。 ②小・中・高の学校種間での児童生徒の情報交換の実施と人権学習を通した連携を進める。 事業目的・・ 内容 「大きないのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいのでは、いいので	事	業または取組名 学校人権教育事業(関係機関・団体・各校種間連携の推進)	令和	中2年度事業費	12千円	担当課	人権·部落差	別解消教育課
	業目的・内	個別の人権課題、自己肯定感の育成、差別をなくす行動化など人権教育・啓発や研修を推進するため、地域・公民館、関係機関・団体および校種間の連携を推進する。 [内容] ①各小中学校を地域啓発の拠点と位置づけ、公民館と連携した人権講演会等を開催する。 ②関係機関・団体と連携した教職員研修等を開催する。 ③小・中・高の学校種間での児童生徒の情報交換の実	事業取組・成果・評価の理	新校中等 ②・市部シ ・Nの人修 ・ご就等 ③ 染 新権についている 機育別す 人 進修 来権が のの止 ナ会公係 で は で で で で で で で で で で で で で で で で で	イルス感染拡大防寒にかれている染拡大防寒にかれている染拡大防寒に大防寒に大防寒に大防寒に大い寒に大い寒に大い寒に大い寒に大い寒に大い寒に大い寒に大い寒に大い寒に大い	の受携どを連た 地 た。 権 コ開 し公校研め、の情た で 報 集 教 育 ウを て開は修のいの情た で 明 集 教 育 イ中 各止ののいの報え き テ 所 員 演 ルル 校の%うち	を信 。 ラ と 研 会 感た で対で4番	

指標名	現状値	目標値	目標値		令和2年度実績
	(平成28年度)	(令和2年度推測值)	(令和3年度)	達成値	内容
人権講演会等に公民館が協力して 実施した学校の割合	56.6%	80%	100%	50%	15校/30校

- ◆学校での人権教育の取組を通して、保護者や地域住民の人権意識の向上を図る人権啓発の機会は今後も必要であることから、学校 や公民館等と連携した情報発信を引き続き行っていく。
- ◆学校で開催される人権講演会や人権学習公開授業の開催における公民館との連携(情報提供、共催等)について、関係機関等の担当者への周知を継続して行い、円滑な連携を支援していく。
- ◆児童生徒の差別解消に向けた学習の理解を深めるために、部落差別をはじめあらゆる差別問題における学習教材や学習内容の系統性について、小中高の校種間で情報共有を図り、連携を継続していく。
- ◆人数制限や分割しての開催等、開催方法を工夫し、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底することで、聴講できるようにする。講師を派遣しての講演会開催が難しい場合は、視聴覚資料等を提供することにより人権研修開催の支援を行っていく。

п	学校教	枚育の:	充実			通し番号	担当課	総合
	第2	安全~	で安心な学校づくりの推進			通し借ち	担当味	評価
		1	安全・安心な教育環境の確保	①	安全・安心で快適な学校施設整備の推進	16	教育総務課	А
		'	② 児童生徒の安全確保	児童生徒の安全確保	17	学校教育課	А	
		2	2 豊かで適正な教育環境の整備	①	教育環境整備事業の推進	18	学校教育課・ 教育総務課	А
				豆、 (远正 6 扒 円 水 水 V 正 開	2	安心して学べる支援事業の推進	19	学校教育課・ 教育総務課
		3	家庭・地域と協働した 学校づくりの推進	\bigcirc	家庭・地域と協働した学校づくりの推進	20	学校教育課	ЖВ
				①	安全かつバランスの取れた食事の提供	21	学校給食課	В
		4	安全・安心な学校給食の提供	2	施設の適正な維持管理	22	学校給食課	Α
		4 V E·V	女主 女心な子状和良の疾情	3	施設の在り方と効率的な運用	23	学校給食課	В
				4	学校給食費の未納問題解消	24	学校給食課	А

Ī		П	学校教育の充実	担当課	教育総務課
	教育行政実施方針	Ⅱ-第2	安全で安心な学校づくりの推進	1230本	3人 月 NG4万 B木
		ı	安全・安心で快適な教育環境の確保	平均值	総合評価
	【主な取組】	①安全	・安心で快適な学校施設整備の推進	5	А

令和元年度から2か年に亘り実施していた桂林小学校校舎(築40年経過)の大規模改修及び南部中学校プール(築45年経過) の改築工事が完了し、計画的な老朽化対策が実施できた。 また、使用頻度の高い会議室の空調機器設置や遊具・体育設備の定期点検、改修により、安全・安心で快適な学校施設整備を推

進することができた。

【個別評価】

価 理 由

事	業または取組名 小中学校施設整備推進事業	令和	口2年度事業費	297,421千円	担当課教育	育総務	課
事業目的・内容	[目的] 児童生徒の良好な教育環境及び安全性の確保を図るため、本市が設置する学校設備の整備を目的として令和元年度に策定した「日田市学校施設長寿命化計画」に基づき、施設整備を行うもの。 [内容] ○小学校 ・桂林小学校校舎大規模改修工事:220,257,400円(令和元年度、令和2年度の継続費設定・2年目)※工事費総額:364,797,400円・東渓小学校校舎改修実施設計:7,425,000円・東渓小学校校舎改修下スベスト調査:55,000円 ○中学校 ・南部中学校プール改修工事:62,340,400円(令和元年度、令和2年度の継続費設定・2年目)※工事費総額:111,102,200円・北部中学校校舎改修実施設計:4,950,000円・北部中学校校舎改修下スベスト調査:110,000円・北部中学校校舎改修下スベスト調査:110,000円	事業取組・成果・評価の理由	工事(屋根、外野 また、化一タイト また、推り一次のででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、	管理教室棟、渡り廊下壁、内装、建具、トイレ会な修工事に合わせ、校的とした玄関への段差解消が、校舎内の段差解消がで理教室棟においてこの解体、プール本体が令和元年度に引き続き事を実施。	等改修) 内のバリアフ コープ設置やエラ 及び、トイレの注 エ事を実施。 なび付属室の新 きプール本体及	評価	5
事	業または取組名 小中学校特別教室等空調機器設置事業	令和	口2年度事業費	2,596千円		育総務	課
事業目的・内容	[目的] 夏に高温多湿となる本市の気候条件を緩和し児童生徒にとって快適な学習環境を提供するため、特別教室のうち図書室、音楽室、理科室と会議室に空調機器の設置を行うもの。 [内容] 大山小中学校会議室空調設置工事:1,298,000円東渓中学校会議室空調設置工事:1,298,000円	事業取組・成果・評価の理由	調機器を設置し 予定どおり整体	利用頻度の高い会議 た。 着ができ、快適な教育 ら評価を5とした。		評価	5

事業	業または取組名	環境に配慮した快適な施設整備の推進事業	令和	中2年度事業費	_		教育約	総務	 課
事業目的・内容	を行うもの。 また、教室灯の [内容]	気料金の削減を図るため、新電力の導入 D照度改善を計画的に行うもの。 C代わる新電力の導入 度改善	事業取組・成果・評価の理由	イオマスチップな ・ で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	6,763円(小・中学杉 % ついては、桂林小学校	能エネルギストン・ボース では できまれる できまれる できまる できまる できまる できまる できまる できる できる できる できる できる できる できる できる できる でき	でした。全対策に和と	評価	5
事業	業または取組名	学校内の遊具等の施設管理の徹底	令和	中2年度事業費	5,118千円	担当課	教育約	総務:	 課
事業目的・内容	防止し、安全で 定期的な点検・ 努めるもの。 [内容] ①遊具、屋外体	が 選具及び体育施設による事故を未然に 安心な施設を児童生徒に提供するため、 改修を行い、引き続き安全な維持管理に 本育施設点検 よる遊具、屋外体育施設の修繕・改修	事業取組・成果・評価の理由	中学校12校(【12校(【12版) ・	閉校3校含む) 一貫校含む) 計 、緊急に修繕等が必較 るが、所、中学校が認め るが、所、中学校の るが、所、中学校の を ひび体育険性が使ま いが、 たのいでは、除きるのいでは、 ある2か所をできるが、 ある2か所をできるがでいた。 また、 で 要な遊具等について、 安な遊具等について、 安な遊具等にのいぎ、安	lか所 かられる施 22か検なの全が表 を対措でが次 は化順 が次 のをが次 が次 のをがある。	し、必行等今等	評価	5

指標名	現状値	目標値	目標値		令和2年度実績
1日1小小口	(平成28年度)	(令和2年度推測値)	(令和3年度)	達成值	内容
図書室・特別教室・会議室への空調 機器の設置(%)	34.60%	65.99	100%	65.99%	大山小中学校、東渓中学校の会議 室に空調機器を設置した。
長寿命化計画の策定	-	100.00%	令和元年度 策定完了	100%	令和元年度策定済
学校施設の照度の改善	未整備校 8校	整備校 2校	令和元年度 整備完了	整備校(累 計) 6校	桂林小学校の大規模改修に合わせ て照明の改善を行った。

【課題と今後の方向性】

◆安全・安心で快適な学校施設整備を推進するため、日田市学校施設長寿命化計画に基づき、計画的な大規模改修を行うほか、空調機器の更新、照明のLED化、エレベーターや多機能トイレの設置といったバリアフリー化についても、年次計画を策定しながら実施していく。

	П	学校教育の充実	担当課	学校教育課
教育行政実施方針	Ⅱ-第2	安全で安心な学校づくりの推進	15130本	于仅仅有缺
	ı	安全・安心な教育環境の確保	平均值	総合評価
【主な取組】	② 児ョ	童生徒の安全確保	5	А

不審者事案や災害発生等からの児童生徒の安全確保を目的とした「学校情報携帯メール配信システム」については、災害情報や不審者情報に加え、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う注意喚起や臨時休業措置等についても迅速かつ的確な情報伝達ができた。また、市内の全小・中学校における非常災害時を想定した保護者引き渡し訓練の実施及び「日田市通学路交通安全プログラム」に基づいた警察及び道路管理者等多くの関係機関と連携による通学路の改善等により児童生徒の安全確保の取組をより一層推進することができた。

【個別評価】

理由

事	業または取組名 学校情報携帯メール配信事業	令和	中2年度事業費	2,224千円	担当課	学校教育	音 課
事業目的・内容	 「目的」	事業取組・成果・評価の理由	者や地域り、 で 者ル域安 ・ 市情ス住全 型やよな 発い エーカー が 乗り かっぱい かい で まる 学生で は かい で か	全主・安心ないでは、 では、ないでは、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一	性のる。 台所を にゅうに 大田型保児 はいる 対口護童 臨、護 けるに 護 件の はまる ありまる かっこう はい	で 不力や走 木ルが 自	
事	業または取組名 防災教育·防災対策の推進	令和	和2年度事業費	_		学校教育	課
事業目的・内容	[目的] 地域の実情に応じた防災教育・防災対策の充実強化を図ること。 [内容] ①防災教育・防災対策の推進 ②児童生徒の判断力や行動力を高める防災教育の充実と実践的な防災訓練の実施	事業取組・成果・評価の理由	な危機管理体制を登期1ののの変を関すのののでは、	こおいて、学校長を中間の確立を目指し、計算の確立を目指を実施した。 この教職員とができた。 炎害発生時に識やできた。 炎害発生の訓練やを引き震を想けるといる。 対震を想におした。 ができた。 炎害発生時におりまた。 ができた。 炎害発生時におりまた。 ができた。 炎害発生時におりまた。 ができた。 がはいると ができた。 はできた。 ができた。 ができた。 ができた。 はできた。 がでをできた。 ができた。 はできた。 ができた。 はでを、 はでをでを、 はでをできた。 はでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでをでを	画的、継続に ・ 川図 軽続に ・ ・ 川図 軽級 放 が かと 訓 災 非 かななななななななななななななななななななななななななない。	的お動き、難事に対力的火訓態基評価	5

事	業または取組名 学校内外における児童生徒の安全対策	令和	口2年度事業費	194千円	3——1	交教育	課
事業目的・内容	[目的] 児童生徒の登下校中の生活安全、交通安全の確保を図ること。 [内容] ①地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業・学校安全ボランティア(スクールガード)が行う学校内外や通学路等での見守り活動による児童生徒の安全確保・学校、家庭、地域及び関係機関と連携した児童生徒への声かけや見守り活動による登下校の安全確保 ②通学路の安全環境整備の充実のため、通学路の安全点検を行い、危険箇所の改善を関係機関に要望する。	事業取組・成果・評価の理由	別 見ると とき 学学とき 学学の報志 に事し則 に を も りに 指安 地 保全 りに 指安 地 保全 りに も を りに も る の を 、 に い り 、 に り り 、 に り り 、 に り り 、 に り り 、 に り り 、 り に り り 、 り 、	ド委嘱者 令和2年文年を和2年文元を嘱者を中心に行りため、	アール ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	評価	5

指標名	現状値	目標値	目標値		令和2年度実績
	(平成28年度)	(令和2年度推測値)	(令和3年度)	達成値	内容
学校の立地環境等に応じた防災教 育の実施率	80%	100%	100%	100%	市教委アンケート結果による

【課題と今後の方向性】

◆保護者や地域住民等、多くの方への迅速かつ的確な情報提供を可能とする学校情報携帯メール配信事業については、現行のシステム導入から10年が経過したため、今後はより機能的・有効なシステムへの更新を検討していくとともに、コミュニティ・スクールを活用した地域と共同して実施する災害対応訓練等を推進し、学校・家庭・地域が一体となった防災意識の向上につなげていく。

	I	学校教育の充実	扣 4 2 2 2 2	教育総務課
教育行政実施方針	Ⅱ-第2	安全で安心な学校づくりの推進	JH 24 59 1"	学校教育課
	2	豊かで適正な教育環境の整備	平均值	総合評価
【主な取組】	①教育	環境整備事業の推進	5	А

複式学級を解消することを目的として、複式学級が設置される基準にある小学校に市費雇用の教員を配置することにより、市内の全ての児童生徒に対して教育の機会均等を保障するとともに、教育効果の向上を図ることができた。

学校図書館員を全校に配置し、各学校で実施している読書率向上についての取組を共有したり、司書業務の研鑽を年間を通して 行いながら、児童生徒の読書活動を支援することができた。

ICTによる教育環境整備については、国のGIGAスクール構想の前倒しによる令和2年度内の児童生徒 | 人 | 台のタブレット端末整備を含め、中学校教員向けのタブレット端末整備や中学校普通教室向けの大型提示装置整備などを行うことができた。また、小中学校の教員向けにタブレット端末の操作研修を行い、ICT機器の効果的な活用を学ぶ機会を設けることができた。

※GIGAスクール構想:児童生徒 | 人 | 台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するとともに、多様な子どもたちを 誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させる構想のこと。

【個別評価】

理

	别評価】		15 005 C M	1m : 1 : 5m	W 11 b	>	
事業目的・内容	[目的] 大分県の複式学級基準に該当する学校へ、市費雇用教員を配置し複式学級を解消する事により、教育効果の維持・向上を図るもの。 【大分県学級編成基準】・隣り合う学年の児童数合計が14人以下は、複式学級とする。・へき地にあり2複式学級編制になっており、かつ少なくとも1学級が児童数10名以上いる小学校に対して補助教員を配置し、学級編制を変えず、複数学年の同時授業を解消する。 【内容】 【令和2年度複式学級該当校】・小野小学校2学年2人+3学年2人=4人4学年7人+5学年3人=10人・前津江小学校2学年9人+3学年3人=6人・津江小学校2学年5人+3学年5人=10人5学年7人+6学年7人=14人・いつま小学校2学年8人+3学年3人=11人4学年6人+5学年7人=13人	江小学校、いつ 教員を各 I 名配 加えて、、配書に 名ずでで授級で 学級やかな 着が図られ、 教 着が図られ、教	15,095千円 校の小野小学校、前 ま小学校 計4校にお によるへき地・複式・複式・ になることにより、発達 ができ、学習習 育効果が上がった。 ができなとした。	津江小学校 いて、市費 肖した。 力教員も各株 ての学級が 段階に応じ	文雇 校単き定	育平面平面	5
事業目的・内容	学校図書館の充実	小学校18校中中 ・学校12でつい ・学校教 ・学校教 ・学校教 ・学校教 ・学校教 ・学校教 ・学校教 ・学校教	書部会の開催(年6間 営の充実を図るため 各校の取組の情報共 の研修(年1回) る新型コロナウイルス 校貸出の状況につい 館員を配置し、上記の に読書活動の支援を行	510校 58校 回) 全学校図 有 感染症対領 で の取組を行い	だ。 (いな)	務調平面	5

				中2年度事業費	42,063千円	担当課	教育総務	務課、	学校教育課
事業目的・内容	計画が で	員向けICT教育用タブレット端末操作研修 は員に対し、タブレット端末の効果的な利活 とめの操作研修を行うもの。	事業取組・成果・評価の理由	整小国度が ②備 ③プ(④柱全全 ⑤作小中新校の小で で 1 中プ小 小柱全全 小研学学型巡の端き Tのにき 学 5 学ジ学 中小中中 学 校校コ回中末た 支に合 及施のいて で 1 で 4 で 2 で 2 で 2 で 2 で 2 で 2 で 2 で 2 で 3 で 4 で 4 で 4 で 4 で 4 で 4 で 4 で 4 で 4	泉LAN環境整備 線LAN環境整備 線LAN整備 整備終了) 無線LAN運用支援委 員向けICT教育用タフ 研修(集合研修) 研修(各校巡回方式) パルス感染症の影響に から集合研修に開催力 から集合でおり研修会を まりな活用を学ぶ機会 果的な活用を学ぶ機会	に伴を ト と をッ き レ ようさ会 トこ ハウ支計い完 端 備 備ト き ツ りま施設 末が 予果員に入す 機) 端 小変しけ ので 定的ほ ない かまり	32こ 整 操 校しブこ 備た り活る 台年と	評価	5

指標名	現状値目標値		目標値	令和2年度実績			
1日1赤石	(平成28年度)	(令和2年度推測値)	(令和3年度)	3年度) 達成値 内容			
普通教室への無線LANの整備	0%	100%	100%	100%	全ての小中学校において無線LAN 環境整備が完了した		

- ◆児童・生徒 | 人 | 台のタブレット端末の整備が完了したことから、「日田市教育情報化推進基本計画」の見直しを行い、日田市における 教育の情報化を総合的に推進していく。
- ◆ICTの効果的な利活用を促進するため、利活用事例の紹介やICT利活用研究指定校の成果の共有、ICT機器の積極的な利活用に向けた研究や研修機会を設けていくとともに、引き続きICT支援員の活用による授業支援等を行いながら、教員の指導力向上を図っていく。

	I	学校教育の充実	担当課	教育総務課
教育行政実施方針	Ⅱ-第2	安全で安心な学校づくりの推進	15.300	学校教育課
	2	豊かで適正な教育環境の整備	平均值	総合評価
【主な取組】	②安心	して学べる支援事業の推進	5	А

経済的な理由により就学や進学が困難な児童・生徒の保護者に対する支援として、奨学資金の貸与や就学援助、通学補助等について、広報紙等により広く周知が図られたこと、また、コロナ禍や災害時における家計の急変に対応した奨学金の緊急採用の募集を行い、速やかに貸与できたことから、安心して学べる環境づくりを推進することができた。

価理由

【個別評価】

事業	だまたは取組名 奨学資金貸付事業	令和	口2年度事業費	83,477	千円	担当課	教育	総務	課
事業目的・内容	[目的] 向学心に富み、学業その他の優れた資質を有する者が 経済的理由により高等学校等に修学困難な場合、その学 資を貸与することにより教育の機会均等に寄与し、もって 有用な人材を育成すること。 [内容] ①入学準備金 ・高校・高等専門学校 100,000円/回 ・専修学校・大学 200,000円/回 ②奨学金 ・高校(自宅) 8,000円/月 ・高校(自宅外) 15,000円/月 ・高等専門学校 17,000円/月 ・専修学校・大学 30,000円/月	事業取組・成果・評価の理由	名)、入す準備、人力である。 入りでは 一年 できる いい できる いい できる いい できる いい できる	4,000円(113 金3,100,000円 会3,100,000円 会均等及ででまた けることがで症の した家庭がある。 募集にジでは、らいででは、らいででは、らいででは、らいででは、らいでは、らいでは、らいで	日 学 。 影と 各 司 告 令 さ こ (名)の貸与の の経済的 豪雨たことで で で で で で で が たこと で たこと の たこと の たこと の たこと の たこと の たこと り た り た り た り た り た り と り と り と り と り	を負 よか広 や蛟	評価	5
事業目的・内容	(目的) 従来、保護者が負担してきた教育活動にかかる経費の うち、副教材(副読本、学習帳、テスト・ドリル類)費を公費 で負担し、保護者の経済的負担軽減を図る。 [内容] 学力定着補助教材購入 【I人あたりの基準額】 ・小学校 1年 4,800円 2年 5,500円 3年 6,500円 4年 6,500円 5年 7,000円 6年 7,000円 ・中学校 1年 7,000円 2年 7,000円 3年 17,000円	令 事業取組・成果・評価の理由	・小学校・中学校・中学校とでで支援策として支援等とはは数定することである。	00,500円	副教材 を公満なる () を軽と材 () を軽さる () を軽と材 () を接て () を接て () を	費で負担で が図られ、 よっている。 費が高額な 類を学年こ	子 よた どに	教 評価	5

事業	業または取組名 要保護・準要保護就学援助事業		′校教育	課
事業目的 · 内容 事 事業目的 · 内容	[目的] 経済的理由により、就学困難と認められる児童生徒保護者に対し、学用品費、給食費、修学旅行費等の必な援助を行い、義務教育の円滑な実施を図る。 [内容] 【就学援助の対象】 〇要保護(※国庫補助金対象)・生活保護を受けている世帯・ひとり親家庭で児童扶養手当の支給を受けている帯・ひとり親家庭で児童扶養手当の支給を受けている帯・ひとり親家をで児童大養手の表給を受けている帯・でした。 「本語を受けるという。」を表示を受けている。 「本語を図されている。」を学旅行費等の必要な援助を行い、義務教育のな実施を図る。(※国庫補助対象) 「内容」 「就学援助の対象】・収入が生活保護受給者に準じる額以下(2.5倍以である世帯)	・中学校 159名 (9,898,800円) R1:141名 【令和2年度就学援助実績(入学準備金を除く))・小学校 24,647,588円(うち要保護 97,332月 要保護 : 7人(1人あたり13,905円) 準要保護 : 7人(1人あたり36,733円)・中学校 22,507,632円(うち要保護 0円) 要保護 : 0人(1人あたり 0円) 準要保護 : 378人(1人あたり59,544円) (津要保護 : 378人(1人あたり59,544円) (津要保護児童・生徒認定者数の推移】・小学校(全児童数)(認定者数)(割合) R2 3,363人 671人 20.0% R1 3,506人 701人 20.0% 中学校(全生徒数)(認定者数)(割合) R2 1,743人 378人 21.7% R1 1,737人 395人 22.7% 児童生徒が安心して学べる環境を整備するため経済的理由により就学が困難な児童生徒の保護は対して、学用品費を対して学が困難な児童とで統合。費用品費を支給し、経済的負担の軽で、入学に必要な用品費を支給し、経済的負担の軽で、入学に必要なが行き、大学に対し、経済的負担の軽で、入学に必要なが行き、大学に対し、を対し、を対して、対し、を対し、を対し、を対して、対り、対象となる世帯に対し、速やかに支給が行た。以上のことから、評価を5とした。 マ和2年度事業費 779千円 担当課 管理 (令和2年度実績)・小学校 522,965円 認定者:43人(1人あたり12,162円)・中学校 255,303円 認定者:12人(1人あたり21,275円) 特別支援学級へ就学、または、普通学級に就学にないで、修学旅行費や学校給食費等の支援を行うこと	3) ・	5
事業	業または取組名 小·中学校通学補助事業	令和2年度事業費 658千円 担当課 孝	育総務	課
事業目的・内容	[目的] 義務教育における遠距離通学者への通学手段を確ること。 [内容] 学校統廃合により遠距離となり、交通機関を利用しずすることになった児童生徒、及び小学校においては道4km以上、中学校においては片道6km以上の遠距の分子でである現では、予等でである。○現物給付:予算で定める額(公共交通機関利用)・小学校 4km以上 定期券等・中学校 6km以上 定期券等・中学校 6km以上 定期券等・中学校 6km以上 を加速等の通学)・小学校 4km以上 6km未満 6,000円/年・小中学校 6km以上 8km未満 8,000円/年・小中学校 10km以上 12,000円/年・小中学校 10km以上 12,000円/年・小中学校 10km以上 12,000円/年・小中学校 10km以上 12,000円/年・小中学校 10km以上 12,000円/年・小中学校 10km以上 12,000円/年	中学校 4人 555,840円 ※特別許可1名 (1人当たり 95,560円~173,600円/年) ・ ○現金給付 ・ 小学校 3人 20,000円 ・ 中学校 9人 65,200円	児評価	5

事業	美または取組名	高校生就学援助補助事業	令和	口2年度事業費	1,103千円	担当課	教育	総務	課
事業目的	下宿等の費用でを図ること。 [目的] 市内高校に進 津江村に住所で 一部を補助する	通学が困難な高校生の保護者に対して、 助成することにより経済的な負担の軽減 学する生徒の保護者で、上津江町及び中 も有する者に対して、下宿等に係る経費の もの。 目額13,000円(下宿・学校寮) 8,000円(親戚宅)	取組・比	することが困難 の保護者の経済	積】 年生 名 3年生3名 年生 名 2年生 3年生2名 合計8 で津江村から市内高 なことにより下宿等を 斉的負担の軽減により で寄与できたため、評し	3名 等学校にi 利用する生 l、安心して	:徒 学べ	評価	5

【課題と今後の方向性】

◆安心して学べる環境づくりを継続的に推進していくことが重要であることから、奨学金の未納回収強化に努めるとともに、児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するための各種補助、支援事業について適宜見直しを行いながら、継続して実施していく。

	Ⅱ 学校教育の充実行政実施方針Ⅱ -第2 安全で安心な学校づくりの推進		担当課	学校教育課
教育行政実施方針	Ⅱ-第2	安全で安心な学校づくりの推進	151300	于仅仅有政
	3	家庭・地域と協働した学校づくりの推進	平均值	総合評価
【主な取組】 ① 家庭・地域と協働した学校づくりの推		庭・地域と協働した学校づくりの推進	% 4.3	ЖВ

各学校が、法令に則り実施する学校評価においては、教員による自己評価、及び保護者や地域の方々など学校の関係者による評価をもとに、学校関係者評価を検証・改善サイクルにより実施し、学校改善に向けて地域・家庭の代表者との協議を実施するなど、目標値を大きく上回ることができた。

一 学校運営協議会およびオープンスクールの取組については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため計画どおりの回数が実施できなかった。また、授業参観等も参観者を限定したため、直接学校を訪れて、学校教育への関心を深める機会は減少した。しかし、コロナ禍においても、計画どおり市内30校においてコミュニティ・スクールが導入され推進されたこと、児童生徒の学校生活の様子を各学校がホームページを通して広く市民へ発信したことにより、保護者・市民の学校教育に対するより一層の関心と理解を深めることができ、家庭・地域と協働した学校づくりの推進が図られた。

【個別評価】

事第	美または取組名 しょうしょう しょうしょ しょうしょ しょうしょ しょうしん しょく しょうしん しょうしん しょうしん しょうしん しょうしん しょうしん しょくしん しょく しょしん しょくしん しょしん しょ	学校評価を活用した地域・家庭との協働	令和	口2年度事業費	_	担当課	学校教	交教育課		
事業目的・内容	推進する。 [内容] 各学校ごとにき	協働して子どもを育んでいく学校づくりを 学校評価に基づく改善策について、地域や :行うことにより、目標協働達成に向けた取		基づいて育成を その達成のため 重点的のにの を指標で取ります。 にPDCAサイク この結果、に での結果、に が 基本価に は が に が で が で 、 で 、 の が の が 、 の が り が り が り が り が り が り が り が り が り が	評価実施要項」をもとに目指す資質・能力を記しては、家庭・地方のいては、家庭・地域には、といたといいというでは、といいというでは、といいとなるのでは、のでは、のでは、のでは、のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	設定するととも 取組を設視するととも に関する。 の市おいの校で、「議のでは、ののでは、ののでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	にたいくと「「一位を見る」	平 西	5	
事業	(または取組名	コミュニティ・スクールの推進	令和	口2年度事業費	2,479千円		学校教	育記	 果	
事業目的・内容	一体となって連進する。 「内容」 地議会」の在ででである。 「内容」 ・H30年度 ・R1年度	域の声を積極的に生かし、学校と地域が携・協働しながら特色ある学校づくりを推 の方々が学校運営に参画する「学校運営方や運営体制について研究を進めるととイ・スクールについての普及・啓発を図る。 議会設置計画 5校 (三芳小、津江小・中、大山小・中) 5校 (桂林小、日隈小、光岡小、大明小・中) 0校	事業取組・成果・評価の理由	することがでとなった。 共有できたることがでいまた。 はんだい はんだい はんれい にはんれい にん はんれい はんれい はんれい はんれい はんれい はんれい はんれい はんれ	全ての学校で学校で学校で学校ででは、各校ともスムーでは、本年では、本年では、本年のでは、本年のでは、本年のでは、本年のでは、本年のでは、一年のでは、一年のでは、一年のでは、一年のでは、一年のでは、一年のでは、一年のでは、一年のでは、一年のでは、一年のでは、一年のでは、一年のでは、一年のでは、一年のでは、一年の学校が、学習が、学習が、学習が、学習が、学習が、学習が、学習が、学習が、学習が、学習	校の成果と課立ち上げをする 開催などにより になどにより がは、 を行うことでいる。 は計画を対している。 は計画を対している。 ははは状いる。 はははない。 はははない。 ははない。 ははない。 ない。 はな	題 精別 協次 の2 まで 報 議年 回回有	平西	5	

事第	きまたは取組名 オープンスクールの実施	令和	口2年度事業費	_		担当課	学校	教育	課
事業目的・内容	[目的] 家庭や地域の学校教育への関心と理解を深める。 [内容] 市内全小・中学校において、保護者や地域の方々を対象に「教育を考える週間(春)(秋)<2回>」と「学校独自<2回>」を実施し、学校教育についての関心と理解を深める。	事業取組・成果・評価の理由	保護者 一般(校区外) 新型るまた、広ぐがまた、各学校で広域 ジを使って広報	「ルス感染拡大队り規模を縮小し」 住民や市民の関 童生徒の学校生を行った。 『ンスクールについ 加者数は令和元	合 防止の ながら は心と に活の いてに	計 6,425名 のため、参加者 5実施した。 理解を深める 様子をホーム は計画どおり <i>0</i>	た ペー O取		% 3

指標名		現状値	目標值	目標值	令和2年度実績				
		(平成28年度)	(令和2年度推測值)	(令和3年度)	達成値	内容			
学校評価に基づく改善策に関する家庭・地域との協議の実	小	28% (H27)	68%	50%	72%	「日田市学校教育の基本方針に係る取			
施率	中	0% (H27)	57%	40%	75%	組状況アンケート」結果より			
コミュニティ・スクールに指定された 学校の割合		0%	100.0%	90%	100.0%				

【課題と今後の方向性】

◆令和2年度より全ての学校で学校運営協議会を設定し、コミュニティ・スクールの導入が完了したことから、今後は「地域と協働した学校づくりの推進」の達成に向けて、具体的指標を各協議会に示したり、活動内容の充実に向けて資料提供や指導・助言も行うことにより、特色ある学校づくりを支援していく。

	П	学校教育の充実	担当課	学校給食課
教育行政実施方針	Ⅱ-第2	安全・安心な学校づくりの推進	12.30本	子仅和 及訴
	4	安全・安心な学校給食の提供	平均值	総合評価
【主な取組】	①安全	かつバランスの取れた食事の提供	4	В

学校給食センターや学校給食共同調理場4施設では、「地場産給食の日」や「地元食材の日」として、地元日田産食材を使用した郷土料理や栄養バランスの取れた特色ある学校給食の提供を行った。加えて、令和2年度は、県や市の事業により、おおいた和牛や冠地鶏、鮎やヤマメなどの地元高級食材の提供も行った。日田産農産物の地産地消率については、食材32品目、総重量53,661.83kgを取り入れたが、小中学校の臨時休業や天候等の影響により、39.83%と、前年度と比べ8.39ポイント下がる結果となった。

価

理

学校給食センターでは「小中学校のアレルギー疾患を有する児童生徒に係る事務取扱規程」に基づき、学校と保護者との連携を十分に図り、食物アレルギー事故防止の徹底に努めたが、アレルギー対応マニュアル作成については、学校や関係部署との綿密な協議の場を設けることができず、アレルギー対応マニュアルの整備までには至らなかった。

【個別評価】	T ^ 1	· 0 / c = * # #		10 1/ 20	24 L+ // A	A-III	
事業または取組名 安全かつバランスの取れた食事の提供		天大前津 食た産元イ体がここ 地おる県村 まに心 調振者 令てをって瀬山津江 材が、地年ル業がと 産教ご産と たおな 理興の 和は十た関 は 外と消度感件や、 消効大材活 全七事 に議保 年がにか部の果分材活 全七事 に議保 年がにか部の果分財 である は 東がい の果分り である は しょい を しょい を は しょい を は しょい を しょい を は しょい を は しょい を しょい を は しょい を は と で と い と で と に しょい と に ま に ま に ま に ま に ま と い と に と に と に と に と に と に と に と に と に	食材を選定・購入し、 入食材の検収を確写 を供した。 いては、令和2年度かなどから農産物を購	ポポイ やをいまいり使ン や、、しに さ実 らず 一き故ユる・パポイ 県占田たいものでの 郷学たお ら行 新す へ、、防アントント 内め留、中50での 郷学たお ら行 たる の学ん作が減減減減 を「大型なら減減 愛給田る はい にな 対校の作が減減減減 を「大型ならなど 愛給田を 調安 けど 応じ徹成で	(の)やいぶ はしまき 理全 也、 にの底にきのやけ臨るっ ぐ日大た 段・ 元生 つ連をつず、		4

指標名	現状値	目標値	目標値		令和2年度実績
	(平成28年度)	(令和2年度推測値)	(令和3年度)	達成値	内容
地産地消の割合(日田産農作物・ 重量ベース)	53%	55%	55%	39.83%	使用重量ベース

◆今後とも、安全・安心かつ栄養バランスの取れた食事を提供するため、引き続き関係部署と連携し、日田産食材を取り扱う個人な	よどの
生産者(納入業者)の選定確保に努めるとともに、食物アレルギーへの対応(除去食・代替食)については、学校との連携を十分に	図り、さ
らに、各共同調理場の状況に応じた対応方針を定め、食物アレルギー対応マニュアルを整備していく。	

	П	学校教育の充実	扣坐鋰	学 校经 全 键	
教育行政実施方針	Ⅱ-第2	安全・安心な学校づくりの推進	12.3 欧	于"久和" 良訊	
	4	安全・安心な学校給食の提供	食の提供 平均値 総合		
【主な取組】	②施設	の適正な維持管理	5	А	

各施設の施設、設備、調理機器、調理器具などについて、調理員による毎日の目視点検と業者による定期的な保守点検や安全点 検を確実に行い、安全対策に努めた。

また、経年劣化している機器類については、保守・安全点検業者の意見を参考に、毎年見直している更新計画に基づき適切な時期に修理更新を行い、適正な維持管理を行うことができた。

【個別評価】

価理由

事	美または取組名 施設の適切な維持管理	令和2年度事業費 24,951千円 担当課	校給食	課
事業目的・内容	[目的] 食中毒発生や異物混入などを防止するため、施設・設備の維持管理や調理機器・調理器具などの日常点検や 定期点検、計画的に機器の更新に努め、学校給食業務に 影響を及ぼすことのないよう、児童生徒に安全・安心な学校給食の提供を行う。 [内容] ①厨房機器及び設備について、日々の点検を行うととも に専門業者による年2回の定期点検を実施する。 ②毎年の定期点検により更新している「更新計画」に基 づき、厨房機器及び設備の計画的な更新を行う。 ③学校給食施設の環境衛生面に注視し、食中毒等の事 故を防止する。	①②機器類の調理員による日常点検、業者によ定期点検結果に基づき、調理機器類などの修理が更新を行った。 主な修理・更新内容・食品前処理機コンベアー等修理・食器供給装置修理・SVロースターUVセンサー等修理・食品前処理機乗継板等修理・自動フライヤー更新・油切りコンベアー更新・スチームコンベクションオーブン更新・スチームコンベクションオーブン更新・設備や調理機器類の設定な維持管理に努めたことにより、食中毒や、放設・設備や調理機器類の故障に伴う給食の中止はなく、過・設備や調理機器類の故障に伴う給食の中止はなく、対象に安全・安心な学校給食の提供を行うことできたことから評価を5とした。	評価	5

【課題と今後の方向性】

◆今後も、給食施設や厨房機器・調理器具などについて、点検・保守の実施や修理・更新など、計画的かつ適切な維持管理に努め、安全・安心な学校給食の提供を行う。

教育行政実施方針 II-第2 安全・安心な学校づくりの推進 平均値 ※合評価 【主な取組】 ③施設の在り方と効率的な運用 4 B			П	学校教育の充実	扣 水 舗	学				
	教	育行政実施方針	Ⅱ-第2	安全・安心な学校づくりの推進						
【主な取組】 ③施設の在り方と効率的な運用 4 B			4	・全・安心な学校給食の提供 平均値 総合評						
		【主な取組】	③施設	ででは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、こ	4	В				

学校給食施設の老朽度や児童・生徒数の推移を勘案しながら、施設の在り方・費用対効果等について内部検討を行ったが、給食センターを含めた中長期的な計画を策定するまでには至らなかった。

価理由

評

【個別評価】

事美	業または取組名	学校給食調理場設備整備事業	令和	口2年度事業費	_	担当課	学校給食	建課
事業目的・内容	用を図るもの。 [内容] ①学校給食施: 等を考慮し、施 組む。 ②施設の在り2	会給食施設の在り方を検討し、効率的な運設は、地域の状況や学校数及び調理食数設の在り方と効率的な運用の検討に取り を検討することについては、日田市公共理計画との整合性を図りながら効率的な	事業取組・成果・評価の理由	慮しながら施設 校給食の提供に 共同のの提供に 大型では 大型では 大型では 大型では 大型では 大型では 大型では 大型では	ついては、施設の老杉 設の在り方について 交給食を提供できるよ	安全安心な 5度や児童 考慮しなが う適切なが 1部検討を	学・生ら、設でである。	4

【課題と今後の方向性】

◆学校給食施設については、今後も、老朽度や児童生徒数の推移を考慮し、日田市公共施設等総合管理計画との整合性を 図りながら、中長期的な計画を作成したうえで効率的な運営を行う。

	П	学校教育の充実	担当課	学校給食課
教育行政実施方針	Ⅱ-第2	安全・安心な学校づくりの推進	12.3 欧	于"久和" 良訊
	4	安全・安心な学校給食の提供	平均值	総合評価
【主な取組】	④学校		5	А

評学校給食費の徴収率については、8月徴収分以降の給食費無償化により、保護者の学校給食費負担が、4月から7月徴収分までといったこと、また、引き続き行った学校との連携により、令和2年度の徴収率は、学校給食センターで99.97%、4つの学校給食共同調理場で99.78%となり、合計で、99.95%と高い納付率となった。由

【個別評価】

事業	ぎまたは取組名 学校給食の未納問題解消	令和	口2年度事業費 一 担当課 学校	給食	課
事業目的・内容	学校給食の未納問題解消	事業取組・成果・評価の理由	日田市学校給食センター ※()は、令和元年度の率 ①現年度[令和2年度] ・納付率 99.97%(99.89%) ・納付額 110,469,754円 ・未納額 30,700円 ②過年度[平成28~令和元年度] ・徴収率 72.64%(47.25%) ・徴収額 288,074円 ・未納額 108,500円 天瀬・大山・前津江・津江学校給食共同調理場 ①現年度[令和2年度] ・納付率 99.78%(100%) ・納付額 15,610,306円 ・未納額 35,100円 ②過年度[平成28~令和元年度] ・徴収率 0%(0%) ・徴収額 0円 ・未納額 19,197円 令和2年度は、コロナ禍における保護者の負担軽 減を目的に、8月徴収分以降の給食費を無償化した	評価	5
	令和2年度給食費収入予定額 15,644,456円(4	理	令和2年度は、コロナ禍における保護者の負担軽		
			学校と連携し、学校給食費未納問題の解消に向けて取り組んできた結果、令和2年度納付率は99.95%となった。また、過年度徴収率については、69.29%であった。		
			令和2年度分は100%には届かなかったものの高い納付率を達成できたことから、評価を5とした。		

- ◆学校給食費の未納分については、平成25年度までは学校中心の催告であったが、平成26年度以降は学校給食センター職員と学校職員による自宅訪問や文書催告等の強化に努めた結果、納付率が上昇してきている。
- ◆令和3年度から学校給食費を公会計化しており、今後は、生活保護世帯の代理納付制度や、就学援助からの直接徴収、児童手当·特例給付に係る学校給食費等の徴収制度等も活用しながら未納対策に努める。

社会教	対育の	充実			・通し番号	担当課	総合
第Ⅰ:	地域と	ぐともに学び、育てる、社会	教育	の推進と生涯学習社会の形成			評価
	1	社会教育の推進	①	充実した社会教育の実施	25	社会教育課	жс
	•	位云 狄月 0 / 1 / 1 / 1	2	社会教育における専門性を持った人材の育成	26	社会教育課	А
	2	市民の学習意欲を支えるための	①	生涯学習施策の総合的推進のための連携の促 進と強化	27	社会教育課	Ж Е
	۷	基盤の整備	2	地域の独自性を尊重した生涯学習推進のため の学習環境の整備	28	社会教育課	А
	3	家庭・地域の教育力 の向上と支援体制	(1)	子育てを地域全体で行う「協育」ネットワーク (地域・公民館・学校)の充実	29	社会教育課	% C
	3	の充実	2	「大人が変われば、子どもも変わる」理念の啓発	30	社会教育課	*0
	4	社会教育における 人権教育の充実	\bigcirc	社会教育における人権問題への取組の充実·支援	31	社会教育課	*(
		博物館の機能の充実	\bigcirc	博物館施設の機能の充実	32	博物館	% E
	5		2	所蔵資料の整備・充実	33	博物館	А
			3	体験学習の場の提供及び調査研究の実施	34	博物館	% E
		図書館機能の 充実と読書 活動の推進	①	蔵書の新陳代謝の推進と蔵書管理の効率化及 び利用者サービスの充実	35	淡窓図書館	А
			2	施設利用活用の促進と各種グループ等の活動 支援	36	淡窓図書館	*(
	6		3	公民館との連携による遠隔地サービスの充実	37	淡窓図書館	А
			4	学校及び福祉保健関係課との連携	38	淡窓図書館	% E
			⑤	魅力ある施設環境の提供と利便性の向上によ る利用の促進	39	淡窓図書館	Α



公民館部分(第1期)の改修工事が完了した大山文化センター

	Ш	社会教育の充実	担当課	社会教育課
教育行政実施方針	Ⅲ−第Ⅰ	地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と生涯学習社会の形成	15.3 欧	化玄狄肖林
	ı	社会教育の推進	平均值	総合評価
【主な取組】	①充実	心た社会教育の実施	%2.8	жс

評価理由

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、社会教育施設の休館や利用者数の制限等を行いながらも、市民を対象とした世代に応じた各種講座を開催し、学習機会を提供することができたが、参加者数が大幅に減少した。事業の実施にあたっては、開催や中止の判断、実施方法等について関係団体と協議を行いながら対応することができた。さらに学校や保護者、自治会等と連携した講演会等の開催、公民館だよりを活用しコロナ禍での情報発信に努めた。

【個別評価】

事業	または取組名 咸宜大学講座	令和	口2年度事業費	265-	千円	担当課 社会	会教育	課
	□ 市内60歳以上を対象に、廣瀬淡窓が開塾した咸宜園にちなみ、日々高邁な識見を学び教養を身につけ、心身の健康管理に留意し「日々是好日」の精神で「日常生活を清く正すことを目的に、学生が興味を抱く特色のある講座を運営委員会と企画し、高齢者の生涯学習、生きがいづくりの場を創出していく。 □ 内容 □ ①講座年6回の開催(10月~3月) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 5月から9月まで中止し、10月から開催した。 ②クラブ8教室の開催 俳句、俳画、短歌、健康、合唱、歌謡、パソコン、吟詠	事業取組・成果・評価の理由		7名(対数 クラ は)音 歌 3 7 ▲4 のよ演 の等座	監賞、 パソコン、 87名 91名 404名、市外施 たり、を 東意見催 が師しよ ある を がいたがあるこ		% З
事業	きまたは取組名 青少年リーダー研修(子どもステップアップ研修)	令和	口2年度事業費	_			会教育	課
業目	[目的] 地区公民館の青少年事業に参加している小学校5年 生、6年生を対象に、体験活動やワークショップ等を通し て、リーダーとしての自覚や行動を身に付け、友達と協力 することの大切さなどを学び、公民館活動でリーダーとし て活躍できる子どもを育む。 [内容] 青少年リーダー研修 小学5年生及び前年度参加者から募集し育成する ・活動指標 青少年リーダー研修参加者数 目標値 20人	事業取組・成果・評価の理由	新型コロナウイル 館で子どもたちを 少年事業が中止 修を開催すること た。	を集めることが業 または大幅に縮	推しい 諸小さ	状況となり、青 れ、リーダー研		* 2

事	業または取組名	ふれあい宅配講座	令和	02年	度事業費		_		担	当課	社会	教育	 課
	[目的]	this bill 4 1/2 A and ((((an/ah) is 1, bill is 2		全7.	メニュー64	講座の	うち						
		望により、自治会の防災組織や女性セミ 級などに市職員が出向き、自主防災や傾	:			実講		数	参加者 (人)				
	康づくり教室な	どを開催し、学習機会の充実や市民相互			メニュー	-	績	R2	RI	R2			
	の生涯学習、ま 進に努める。	ちづくりやふるさとを愛するひとづくりの推	Ė	「豊	かな暮らし			2	-	33	20		
	延に分いる。			「健	康 づくりとネ	福祉」		5	8	108	195		
	[内容]	「伊京ごハン河北「七江、叶巛のツ		「生	活・防災の	心得」		1	9	10	534		
		/」「健康づくりと福祉」「生活・防災の心」 」「経済・観光の発展」「住みよい街づく	事		境問題」			0		0	20		
	り」「教育・文化	・スポーツ」	業取		済・観光の	発展 .		0	2	0	55		
事			組		みよい街づ			0	0	0	0		
業目			成		育・文化・ス		<i>,</i> .	ı	2	13	70	۵	*
的			果	30	F VIL V	~11. >	, 1	9			894	評価	2
内			評		ロ元年度か		少 2711	· l					
容			価		ロルギ及が 配布を行っ						-		
			の理		レス感染症								
			由	付った。	たものの、自	ョ冶会な	0.60)	中詴か	11年の	<i>H</i> -(めつ		
				地區	区公民館の								
				_)中のテー ⁻ 計 <u>今を日</u> 指					が共に	こ支		
						請があった。 イルス感染拡大防止の			止の				
				ため、自治会での集会が中山 和元年度894名から730名									
				和元年度894名から730名派20%となったため、評価を2と							-0)		
									_				
事		地区公民館における各種事業の取組	令和	02年	度事業費		_		担	当課	社会	教育	課
	[目的] 地区公民館に	[目的] 地区公民館において地域の実情に応じ、かつ、実際の生		項目		<u> </u>	R2		RI				
		Pした各種事業の展開を図る。	生	<u> </u>	青少年学習		事業数 32	延人数	事業	数 3	延人数 9,053		
	[内容]			2	成人学習		62	3,922		72	5,656		
				3	高齢者学習		35	4,594		38	6,355		
		営委員会や地域の各種団体と連携を図		4	社会人権・同和	和学習	23	۱,054		29	3,039		
		舌に根差した事業」「住民の教養を高める 「り支援事業」を核とした各種事業を展開		5	家庭教育学習	'	16	1,277	+	28	2,931		
	する。	7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	事業	6 7	環境学習自主学習教室		3 347	52,794		33 7	481		
			取	8	公民館まつり	+	2	149	-	7	1,710		
事業			組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9	その他の学習		15	1,405	5	13	2,285		
目			成	10	ふるさとまつり		0	()	7	6,748	評	*
的			果・	11	まちづくり事業		33	2,201	-	34	5,271	価	4
内			評価	12	その他の事業計		32 600	72,446	-	15	9,227		
容				各t		運営委							
			理由	各地区公民館運営委員会 議が行われ、地域の実情に派				じじた事	業の	展開	を行		
								ナウイルス感染拡大防 、ら5月24日まで休館し 、り、令和元年度より34					
					.46,781	人、前年	Fの60	%とな-	ったた	め、診	平価を		
				4 と し	<i>ιτ</i> ε.								
					和 2年度和元年度				16,78	31人			
				マ	ルル十皮	117,	, / /	`					

指標名	現状値	目標値	目標値		令和2年度実績
1日1水/口	(平成28年度)	(令和2年度推測値)	(令和3年度)	達成值	内容
青少年リーダー研修参加者数	口人	20人	20人	0人	小学5年生及び前回参加者を対象 としたリーダー研修

【課題と今後の方向性】

◆引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、感染症防止対策を講じながら、公民館利用者、運営委員会や参加者などの要望により、全市民を対象とした各種事業に取り組み、市民の学ぶ機会の創出による生涯学習の推進を図る。

令和2年度地区公民館事業の実施状況

1980年	L		一手小年一翌	のお人学習	吸引 本学 ラップ	14 社会人権受翌	ら 多好粉 育学図	図 5 家庭教育学習 6 暗倍学翌	× 小中部サー!	限位の 単分れ ロ	こつサイヤア、	ーー キセベイリ重挙	赤軍の争の人 つこ
Act of the bit of	Š.	公民館	-	まるとは、単一の一番を入りませる。	は関係では、開発を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	はなべ催り日業を名)	当条流子目	はない。は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、		場のこと	まのヘンナ米	講座名
A			1. 十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1. 日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	1	これは、コキノなら	子に作る。	17.17.17.17.17.17.17.17.17.17.17.17.17.1	17.17.17.17.17.17.17.17.17.17.17.17.17.1	1	地位社となった	17.17.7.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1
19 19 19 19 19 19 19 19			成且っナ仲闕教室	成へセミナー	秋スセミナー		ナ目(サロノ	みと,707教室	いれめいまプリ夫仃安貝宏	目土子首教至代衣有宏議		いること成旦子	地域凹冲活凱叉抜事素
4	_	成官		ちょっとお洒落な料理教室	すずめの学校	町内·団体人権学習会						防災セミナー	
PAL-2/A72-16												世代間交流グラウンドゴルフ大会	公民館清掃活動
		_	チャレンジスクール		遊学館寿考事業	77~7 (衛城公民職学校) の						桂林サポート隊	桂林ぶらりと歩こう会
1970 (2557) 保証	^	柱林			すずめの学校								公民館運営委員会
PONCASSTRAND	I	<u> </u>		遊学館料理教室									公民館清掃活動
1			10年/年/10年/10年/10年/10年/10年/10年/10年/10年/10	 	自然サナバナー	甲七. 田朱 7 梯沙岛令		ナーノナーノナイ業		张 夕本 年 允 年 年 內 代 末 內 年 十 內 元 年		四縣 ※ 報	公田铭道书朱四夕
日限		_	古米水一つのなくなら	かん トミノー	回転付にい	可以,可承入衛子自以		ナアニナアニスに表		日土子自叙至小な有玄戦		切火時圧	公尺昭年四岁河口
1 日		-		料理教室	すずめの楽公								公民館清掃
# (PO FAMERINE	m	四		スイーツ教室									
#				デジカメ・スマホカメラ講座									
## 18			1-1 1-4 CH 17 1 C 1-1		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		1						
社会 高温度を大き広場 不可能変更 用の基準を合 日本日 成人ととナー 大連焼り子 可り入産業金 予算で支援機関 放送 人とものではこと 日本日 予算で支援機関 予算で支援機関 放送 大きのではこと 上のよりを取るといの学師 上がたをしたのできない 上がたをします 大きの 上のよりを取るといの学師 日本日 予算で支援機関 大きの 上のよりを取るといの学師 日本子間をおきの問題所、予算で実施 事業を 大きの 上の上の子製 たらかたをせたシー 大田子がの学校 同様の人様学者 事所で表現 大きの 日の上の子の理解を 日の上の子の理解を 日本子間を定める 日本子間を定める おおりになった。 日の上の子の理解を 日の子を発生 日の子間を定する 日の子間を定する おおりになった。 日の子をところのよった。 日の子を経験を 子面できる 子面できる おおりになる あおりになる 日の子をところのなどのところのなどのとところのなどのできる 日の子を経験を 日の子間を表記 日の子を経験を 日の子を経験を 日の子をところのところのなどのところのなどのところのなどのところのなどのできる 日の子になるところのなどのところのなどのところのなどのできる 日の子を経験を 日の子ををところのできるのなどのところのなどのところのなどのところのなどのできる 日の子を経験を 日の子を経験を 日の子を経験を 日の子を経験を 日の子を経験を 日の子を経験を		_	帰の不体験教室	1	寿考教室	目王字智教室開講式	子首でサロン						
日中の	4	州四		スマホ教室	若宮すずめの学校	町内人権学習会							
主等 成人をシナー 文本及シナー 「本産の学校」 「中華の学校」 「中華の学校」 中華の学校課金 (株立) (株立) (本方の学校」 「中華の学校業」 <		l 			椅子ヨガ教室								
画名 ACADYNEE FAMONSK INTRAMEMBASERIES TOTALISE 放送 ACADAYELET - Intraverse control of the control of t				5 人 4 十 一	ク準備クラブ	甲七人権沙別令				子音イ広塔譜成		二苯柚反防災十畿%少	· 一种
(A)	Ľ	計 11			イング・イング・イング・イング・イング・イング・イング・イング・イング・イング・	11.3/大田・田 以 は非常には、またにははなく				井/記録でいる 日 フ		-/2 20 5 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1	
1959	ດ	K			9900平校	即洛走 刈幣消推進地域 奸修 会							
取用の (数の子 ともの) 取用の (数の子 (数の子 (数の子 (数の子) 文柱とさー (数の子 (数の子 (数の子) が同すがの学校 (数の子 (数の子) が同すがの学校 (数の子 (数の子) が同すがの学校 (数の子 (数の子) が同すがの学校 (数の子) が同すがの学校 (数の子) が同すがの学校 (数の子) 学校支援共同事業 (力育では実施 (数の子) 学校交援共同事業 (力育では実施 (数の子) 学校交換共同事業 (力育では実施 (数の子) 学校 (数の子) 学校交換 (力育では実施 (数の子) 学校交換 (力育では実施 (数の子) 学校交換 (数の子) 学校 (数の子) 学校 (本の子) 学校 (本の子) 学校 (本の子) 学校 (本の子) 学校 (本の子) 学校 (本の子)		Ē											
(A) つる 大 ともの (A) つき数 (A) したり、つき数 (A) したり、つき数 (A) つき数 (A) したり、つき数 (A) つき数 (A) つきな数 (A) つまなが、(A)				女性セミナー	認知症予防事業(健康マージャン教室)		子育て支援講座					杉の子パトロール役員会	
(たもの) <	9	/ // // // //											公民館掃除
売りつ子塾 でもおか女性とさケー 米間老人大学 自立学目数室合同組建立 子育で講座 中で大き様料の事業 中で大き様料の事業 光間 地間すたの学校 日本学目数室合同組建立 子育では課産 子育で内壁機構造 日本学習数を代表を通信 あさりずいング[編集師 棚目レディースセミナー 銀日大学 町内人権学習会 家庭教育講演会 本記のイールに成人をさすー 銀日大学 町内人権学習会 家庭教育講演会 動力 標準 Actらけっつのをいっています。 個人大学 町内人権学習会 予賞でサロン 中の子を表現を表現を通信 上の学校報報告 上の学校報報告 動力 標準 Actられているではではます。 事件をきてきアラブ 町内人権権選集学習会 予賞でサロン 上の学校報報告 上の学校報報告 上の学校報報告 古木・レンジ教室 おはな女性ときー 第の科技術を選集学習会 予賞で中ロン 上の学校報報告 上の学校報告 上の学校報報告 上の学校報報告 古木・レンデ教室 東京教室 生き生をララブ 町内人権権選集学習会 予賞でも型 上の学校報報告 上の学校報報告 上の学校報報告 古本を含め方面 中の子・レンデ教室 中の子・レンデ教室 中の子・レンデ教室 中の子・レーデーを表を表のティールであるではまたまた。 中の子・レーデーを表のティールであるではまたまたがある 中の子・レーデーを表のティールであるではまたまたがある 中の子・レーデーを表記を表のではまたまたまた。 中の子・レーデーを表記を表のではまたまた。 中の子・レーデーを表のティールであるではまたまたまたまたまたがまた。 中の子・レーデーを表のではまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまたまた		X と と と と と と と と と と と と と と と と と と											
光面 場の服务 が同すがの学校 予育で応援構造 自主学監察室代表者会構 (本) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1			_	てるおか女性セミナー	光岡老人大学	私	子育て講座			学校支援共同事業			放課後・土曜 学習支援事業(土曜 学びの教室
中間 Reference control	Ľ	选		男の厨房	光岡すずめの学校		子育て応援講座			自主学習教室代表者会議			男の居場所
執り もないようが(無差) 翻目レディースセミナー あさいトラック&フィールド 成人セミナー	`	F 70 F		光国ペンコン教育(ワード的級~中級議座)			子育てサロン						学校支援協育事業
前日レディースセミナー 線日大学 間内人権学習会 家庭教育講演会 家庭教育講演会 「		_		光国パンコン教室(シニア向けスマホ講座)									
動目 あさひトランク8.7イールド成人とミナー 男の料理整 一人プロン教室 一人プロン教室 一人プロン教室 一人プロン教室 一人プロン教室 一人でプロン教室 一人でプロン教室 一人でプロン教室 一人でプロン教室 一人でプロン教室 一人でグロン教室 一人でグロン教室 一人でグロン教室 一人でグロン教室 一人でグロン教室 一人でグロン教室 一人でグロン教室 一人でグロン教育を表現 一人でグロン教育を表現 <td></td> <td></td> <td>あさひチャレンジ俱楽部</td> <td>朝日レディースセミナー</td> <td>朝日大学</td> <td></td> <td>家庭教育講演会</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>地域活動支援</td> <td>公民館運営委員会</td>			あさひチャレンジ俱楽部	朝日レディースセミナー	朝日大学		家庭教育講演会					地域活動支援	公民館運営委員会
前日 日の料理整 日の料理を トマンティンポューンはケンポェーンが変重 日の料理を トマンコン数重 日の料理を トマンコン数重 日の料理を トマンコン数重 日の学校日本学へ トマンコン数重 日の学校日本学へ トマンコン数重 日の学校日本学へ トマンコン数重 日の学校日本学へ トマンコン数重 日の学校日本学人 トマンコン数重 日の学校日本学人 トマンコン数重 日の学校日本学人 トマンコン数重 日の学校日本学人 トマンコンスを トマンティンランプ 日の学校日本学人 トマンティンランプ 日の学校日本学人 トマンティンランプ 日の学校日本学人 トマンティンランプ 日の学校日本学人 トマンティンランプ 日の学校日本学 トマンティンランプ 日の学校日本学人 トマンティンランプ 日の学校日本学 トマンティンランプ 日の学校日本学 トマンティンランプ 日の学校日本学 トマンティンランプ 日の学校日本学 トマンティンランプ 日の学校日本学 トマンティンランプ 日の学校日本学 トマンティンランプ 日の学校日本学 トマンティンランプ 日の学校日本学 トマンティンランプ 日の学校日本学 トマンティンランプ 日の学校日本学 トンティンランプ 日の学校日本学 トンディンランプ 日の学校日本学 トンティンランプ 日の学校日本学 トンディンランプ 日の学校日本学 トンディンランプ 日の学校日本学 トンディンランプ 日の学校日本学 トンディンランプ 日の学校日本学 トンディンファンディンファンディンファンディンファンディンファンディンファンディンディンファンディンディング 日の学校日本学 トンディンファンディンファンディンファンディンファンディング 日の学校日本学 トンディンファンディンファンディンファンディンファンディンファンディンファンディンファンディンファンディンファンディンファンディンファンディンファンディング 日の学校 トンディンファンディンファンディンファンディンファンディンファンディンファンディンファンディンファンディンファンファンファンファンファンファ			あさひトラック&フィールド										
中口 As to 2xx7 d & 2xx - 1xx 2x 0 we with a line of the control of the	¢	田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田		男の料理塾									
本が自己啓発サークル あさび自己啓発サークル 両大学 百内人権学習会 子育てサロン すずめの学校指導者会議 三花チャレンジ数室 みはな女性セミナー 疎大学 町内人権推進員学習会 子育でサロン すずめの学校指導者会議 上本とかな室 遊食教室 フォーキング教室 町内人権推進員学習会 おとな塾 自主学習教室代表者会議 おりた陸上教室 彩食教室 生き生きクラブ 由内人権推進員学習会 おとな塾 自主学習教室代表者会議 ありた陸上教室 彩食教室 生き生きクラブ 由内人権推進員学習会 おとな塾 日本学習教室代表者会議 西有田アカデミー 西有田アカデミー 田内人権が進員学習会 おとな塾 日本学習教室代表者会議 西有田アカデミー 田内人・アチャクラブ 田内人・アチャクラブ 田内人・アチャクラブ 田内人・アチャクラブ)	I F		あさひステップ&スロージョギング教室									
本での自己啓発サークル あさの自己啓発サークル 町内人権学習会 子育でサロン 子育でサロン 中ずめの学校指導者会議 三花チャレンジ教室 みはな女性セミナー 時大学 町内人権推進員学習会 子育でサロン 「中でめの学校指導者会議 わんぱく教室 遊食教室 ウォーキング教室 町内人権推進員学習会 おとな塾 自主学習教室代表者会議 ありた陸上教室 彩食教室 生き生きクラブ 四内人権推進員学習会 おとな塾 自主学習教室代表者会議 西有田アカデミー 古有田アカデミー 田内人権推進員学習会 おとな塾 日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日本・日		_		パソコン教室									
三花チャレンジ教室 みはな女性とミナー 暁大学 町内人権学習会 子育でサロン 子育でサロン 子育でサロン 子育でサロン 三花チャレンジ教室 別外理教室 すずめの学校9分校 カレばく教室 遊食教室 かんぱく教室 変食教室 かんぱく教室 ロカノ棒推進員学習会 おとな塾 カンドできのラブ カンド・クラブ カンチャクラブ カンチャクラ カンチャクラ カンチャク カンチャクラ カンチャク カンチャク カンチャク カンチャク カンチャク カン・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カン・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・													
二花 男の料理教室 すずめの学校9分校 (1) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本		_	三花チャレンジ教室	ı	暁大学		子育てサロン			すずめの学校指導者会議		女性連絡協議会	公民館掃除
カルばく教室 遊食教室 ウォーキング教室 町内人権推進員学習会 おどな塾 自主学習教室代表者会議 ありた陸上教室 彩食教室 生き生きクラブ 西有田 ヤンチャクラブ 西有田アケデミー 一	6	# 		男の料理教室	すずめの学校9分校							壮年会等連絡会	公民館運営委員会
わんぱく教室 遊食教室 ウォーキング教室 町内人権推進員学習会 おとな塾 自主学習教室代表者会議 ありた陸上教室 彩食教室 生き生きクラブ 西有田 中ンチャクラブ 古有田アガデミー 古有田アガデミー カインチャクラブ	•	<u> </u>										石坂石畳道ウォーキング実行委員会	
OALAL NAME WR NAME John Charles park of the companies AD CARLES park of the companies AD CA			4 4年/8-1-1-4	计令书	子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		ない。			1、1、12円は10円を10円を10円を10円を10円を10円を10円を10円を10円を10円を		14 H H H H H H H H H H H H H H H H H H H	
ありた陸上教室 彩食教室 生き生きクラブ 円 西有田 女性セミナー 両有田アカデミー 内 センチャクラブ マンチャクラブ ()			わたはく秋年	班艮狄至	リオーナノン教革		おこな料			目土子首教至仇衣有宏藏		四角田の歴天を子の宏	
西有田 女性セミナー 女性セミナー 内有田 内内・アラブ 内のよって、アンチャクラブ 中のよって、アンチャクラブ 中のよって、アンチャクラブ <td></td> <td>_</td> <td>ありた陸上教室</td> <td>彩食教室</td> <td>生き生きクラブ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>西有田防犯·防災教室</td> <td>公民館掃除</td>		_	ありた陸上教室	彩食教室	生き生きクラブ							西有田防犯·防災教室	公民館掃除
	0			女性セミナー								西有田口ビー展	
ヤンチャクラブ				西有田アカデミー									
		_		ヤンチャクラブ									

	4	二 青少年学習	2 成人学習	3 高齢者学習	4 社会人権学習	5 家庭教育学習	6 環境学習	8 公民館まつり	9 その他の学習	10 ふるさとまつり	まちづくり事業	2 その他の事業
	NO. A DE		講座名	講座名	講座名	講座名	講座名	講座名	講座名	講座名	講座名	講座名
1975年 日本		ムクの樹体験クラブ	成人セミナー	生きがい大学	町内·団体人権学習会	子育て支援講座			学校支援事業			公民館運営委員会
Any Originate		ムクの樹体験クラブジュニア	ア男の料理教室	めだかの学校	自主学習教室代表者会議							防災士懇談会
Anni		ありた陸上教室	女性の料理教室	世代間交流グラウンドゴルフ大会								
1972-9922 R.A.Ett		H	ステップ運動教室									
Principles Arithmetic Stoichide			パンコン教室									
Activities												
ACCOUNTS ACCOUNT		チャレンジ教室	成人セミナー	こととい大学	町内·団体人権学習会	家庭教育講演会					小野の歴史冊子作製事業	公民館運営委員会
1995年1977年												
APP 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1												
Act 2 + 1		大明チャレンジ教室	女性セミナー	寿大学	町内人権学習	子育て応援講座					静修そばうち道場	公民館運営委員会
Activity											ウォーキング大会	
Application			成人セミナー									
		大明チャレンジ教室	ふるさとの歴史学習会	夜明寿大学		子育て支援					まちづくりセミナー	
		大明児童の通学合宿代替体験事業									幼老共生事業	
			成人セミナー								地域活動支援 夜明地区社協	
											地域活動支援 夜明史談会	
気からでもシンが数量 成人とさナー 参給者数量 一般協動支援 保守の金 気もでもレンジが支援 は人とさナー 参給者数量 1 <td< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>地域活動支援 三日月サークル</td><td></td></td<>											地域活動支援 三日月サークル	
5.40 元											地域活動支援 桜守の会	
取んできず品 自身を報告返 自身を報告返 自己を認め、関係ときができます。 自己を認め、できます。 自己を認め、できまます。 自己を認め、できままます。 自己を認め、できままます。 自己を認め、できまままままます。 自己を認め、できまままままままままままままままままままままままままままままままままままま												
キャンプラ子版 別の料理検査 申齢者マトビ塾 日本プラスはおよいにはおいます 日本プラスは経費 日本プラスは経費を含む 日本プラスは必要が表別を含む 日本プラスは必要が表別を含む 日本プラスは必要が表別を含む 日本プラスはよるにおいまままままままままままままままままままままままままままままままままままま		五和チャレンジ教室	成人セミナー	幸齡者教室					自主学習教室開閉講式			公民館運営委員会
防災が学習会 上きごはん 女性とナー 大きのはなん 自分とはなく まえつえが上で行機能 まえつえが見機能 おうとが開催 ありたでご覧的 まえつよびニーブ供養的 女性とナー かための楽公 町内人権学習会 まえつえ環境学習会 かたがの楽公 ありたでご覧的 おりたでご覧的 おりたでご覧的 おりたでご覧的 まちつくり講演会 おりたでご覧的 まちつくり講演会 おりたでご覧的 まちつくり講演会 まちつくり講演会 まちつくり講演会 まちつくり講演会 まちつくり講演会 まちつくり講演会 おりたでご覧的 本のいで学の おりたでご覧的 本のいで学の おりたでご覧的 本のいで学の 本のいできた等 中域においたのに対しています 本のいできた等 本のいできた等 本のいできた等 本のいできた等 本のいできたいたいのを対します 本のいできた等 本のいできた等 本のいできた等 本のいできた等 本のいできたきを 本のいできたまを 本のいできたきを 本のいできたきを 本のいできたきを 本のいできたきを 本のいできたきを 本のいできたきを 本のいできたきを 本のによりにはないます 本のいできたきを <td< td=""><td></td><td></td><td>男の料理教室</td><td>幸齢者マナビ塾</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>公民館掃除</td></td<>			男の料理教室	幸齢者マナビ塾								公民館掃除
女性モナー 全種音学版 日本の基準を表現 本ストス環境学習会 日本の表現機能 本ストス環境学習会 およっス環境学習会 およっス環境学習会 およっス環境学習会 およっス環境学習会 およっス環境学習会 およって開業が高 まもつて川線液合 第2000年日本とナーレンジッラグ 指揮数室 スマートフィン構造 本のイーンが構造 本のイーンが構造 本のイーンが用車 地域活性も支援事業 本のイーンが用車 地域活性も支援事業 第2000年日本とナーレンジッラグ 特別を定す ためてご学版 上岸上町人権講演会 小で全に課金が出車 本のイーンを行ります 地域活性も支援事業 本にの子チャレンが数型 別目報を重要 いでもできがいてきが 上岸上町人権講演会 小で全に課金が開業会 大山小学校修業支援 高齢者を定支援 大山・子チャレンが数型 別目を立まが 海洋がよう 大山町人権講演会 小で全に課金が開業会 大山小学校修業支援 「中の小学校展表展 大山・子・レンが数型 別をときナー オーケリン教型 本の工会を 本の工会を 100のコトへの組織 大山・子・レンが数型 別をときナー オーケリンを オーケリンを 100のコトへの組織 大山・子・レンが数型 別をときナー オーケリンを オーケリンを 100のコトへの組織 大山・子・レンが数型 別をときナー オーケリンを オーケリンを 100のコトへの組織 大山・大・ナーレンが表面 オーケートンの表面 オーケートンの表面 100のコトへの表面 イルティン・オーレンを オーケートを オーケートンの表面 オーケートンのフェートンのファートンのより オーケートンのコートンのより イルファイ・オ			よるごはん									
まえつえジュニア俱楽節 まえったとジェーフ 保養的学級 町内人権学習会 まえつえ現場学習会 リアミンプ機を あいそう遊動												
女性セミナー かどかの楽分 まちづくり講演会 はなっチャレンジラブ 料理数重 当まっチャレンジラブ 料理数重 はなっチャレンジラブ 料理数重 まちつくり講演会 まちつくり講演会 本立・チャレンジラブ 料理数重 スイー・数で 講演会 本イー・数で 講演会 本本でトフォン語を 中球エルー・レ活用事業 地域活性化支援事業 非立・チャレンジラブ 料理数重 大心・ライ・レンジラブ 料理数重 たかで・学級 上津江町人権講演会 ことも簡体接数重 大心・ライ・レンジラブ 大心・ライ・レンジラブ 大心・ライ・レンジラブ 大心・ライ・レンジの 製 別料理数重 小・キュロー・カー・フィー・カー・フィー・フィー・カー・シー・フィー・カー・シー・フィー・フィー・カー・フィー・フィー・カー・フィー・フィー・フィー・カー・フィー・フィー・カー・フィー・カー・カー・フィー・カー・フィー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー		まえつえジュニア倶楽部		幸齡者学級	町内人権学習会		まえつえ環境学習会		リトミック講座		あいさつ運動	スポーツ交流会
別の料理教室 内マトフェン構造 家庭教育支援 公民館教室発表会 中洋エホール活用事業 地域活性化支援事業 洋エハ・中教育講演会 スイーン教室 いからチャレンジのラブ 料理教室 上澤江町人権講演会 ことも固体操牧室 地域活性化支援事業 洋エル・中教育講演会 スイーン教室 小学にますー たかでご学級 上澤江町人権講演会 ことも固体操牧室 地域人権連算会 大山・子チャレンジ教室 別の拝理教室 小学になますー 大山・学校授業支援 高齢者交流支援 中学生のフティレンジ教室 別の拝職教室 大山・学校授業支援 高齢者交流支援 中学生のフティレンジ教室 原体セミナー 大山町・保護議会 「ロール学校授業支援 高齢者交流支援 中学生のファイスタッフ 女性セミナー 大山町・保護済会 「ロール学校務 「ロール学校務 「ロール学校務 中学を行のティアスタッフ 女性とテナー オール・プル条機 「ロールン・大規算 「ロール・プル・保護済会 「ロール・プル・学規 中学・ディアスタッフ サーブル・実施 地域人権学習会 「ロール・学規 「ロール・学規 「ロール・ディスター 成人セミナー カラ・ビディスタップ オーブル・実施 「ロール・ディスター 「日本・ディン・ルール・ディスター 「日本・ディー・ア・ディスター 「ロール・ディスター オープル・ディン・ア・ディン・ア・ディンスター オープル・ディスター 「ロール・ディスター 「ロール・ディスター 「ロール・ディスター 「ロール・ディスター オープル・ディン・ア・ディン・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア			女性セミナー	めだかの楽公					前津江町人権講演会		まちづくり講演会	
中津江 スマートフォン湯を 津エンテチャレンジラブ 料理数室 ×スペラチャレンジのラブ 料理数室 本域が存化之後事業 地域活性化支援事業 中津江 津エンチチャレンジラブ 料理数室 スイーツ教室 上津江町人権講演会 上洋江町人権講演会 上洋江町人権講演会 上洋江町人権講演会 上洋江町人権講演会 トナル・ディアスティンン教室 からで学級 上洋江町人権講演会 トウェル学校授業支援 市内人権課金 トウェル・ディアスティアスティアスティアスティアスティアスティアスティアスティアスティアステ	9	Н	男の料理教室									
注述ンラチャレンジクラフ 料理数室 にもいうチャレンジクラフ 料理数室 定域が育皮機等 定域が育皮機等 の民間数室発表会 中津江ホール活用事業 地域活性化支援事業 中津江 (本江小・中数商業派会 スイーツ数室 エ津江の子チャレンジクラフ (女性できナー たかぐご学級 上津江町人権講演会 マキェンテルテンシラフ (大山・学校授業支援) 大山小学校授業支援 高齢者交流支援 大山 (本生がランティアスタック (大山・アナインンジカランティアスタック (大山・大力・ア・アスタック) 女性ときナー 大山町人権講演会 小学生(放課後)体操軟室 大山小学校授業支援 高齢者交流支援 大山 (本にきナー) 大山町人権講演会 大山町人権講演会 大山町人権講演会 大山小学校授業支援 100のコトへの挑戦 大山 (本にきナー) (本にきナー) 大山町人権講演会 大山町人権講演会 100のコトへの挑戦 大山 (大田 (大地・ナーン) (本にきナー) 大山町人権講演会 100のコトへの挑戦 大山 (大田 (大地・ナーン) (本にきナー) 大山町人権講演会 100のコトへの手の場合 大山 (大田 (大地・ナーン) (本にきナー) 大山町人権講演会 100のコトへの手の場合 大瀬 成人モテー) カラが代美楽康 100のコトへが乗 大瀬 成人モテー カラが代美楽康 100のコトののコトののコトののコトののコトののコトののコトののコトののコトののコ			スマートフォン講座									
中津江 津江小・砂筋循道流会 スイーツ教室 中学主のは後継流 大上の子やレンジのラブ 女性セミナー たかでご学級 上津江 小学生の課後)体験数室 本上の子をいかいを受験機構を 高齢者交流支援 高齢者交流支援 高齢者交流支援 高齢者交流支援 大山の子チャレンジ教室 月四枚 中学生ボランティアスタッフ 女性セミナー 大山の学校授業支援 高齢者交流支援 高齢者交流支援 1000コトへの挑戦 大山の子キャレンジ教室 日のあまかせ 大山の学校授業支援 大山小学校授業支援 1000コトへの挑戦 1000コトへの挑戦 1000コトへの挑戦 大山 学校局 株でラスティアスタッフ 世域人権学習会 地域人権学習会 1000コトへの挑戦 1000コトへの挑戦 1000コトへの挑戦 大瀬 世校男大シ サークル英額 地域人権学習会 自主学習教室代表者会議 自会学覧覧に伴ろき会議 自会学習会 自会学習会 大瀬 成人セミナー カまか仕業業康 日ののコトへ鉄銀 自会学習会 日ののコトへの製造 自会学習会 日ののコトへの製造 大瀬 ボクリン教室 日ののコトの変 日ののコトののコトの変 日ののコトの変 日ののコトの変 日の中の記載		津江っ子チャレンジクラブ		いろいろチャレンジ(寿学級合同)	町内人権学習会	家庭教育支援		公民館教室発表会	中津江ホール活用事業		地域活性化支援事業	公民館運営委員会(ホール関係)
上津江 本エンチャレンジが空 Pate 12 + 一 たかさご学級 上津江町人権講演会 小学生(放課後) 体操教室 大山小学校授業支援 高齢者交流支援 高齢者交流支援 大山マチャレンジ教室 男の料理教室 いきいき大学 町内人権講座 大山町人権講演会 大山町人権講演会 大山小学校授業支援 高齢者交流支援 大山 中学生ボランティアスタッフ 女性できナー 大山町人権講演会 大山町人権講演会 大山町人権講演会 1000コトへの挑戦 大山 中学生ボランティアスタッフ 女性できナー 大山町人権講演会 地域人権学習会 1000コトへの挑戦 大山 中学生ボランティアスタッフ 女性できナー カナ・ルデが 地域人権学習会 1000コトへの挑戦 大山 中学まボランティアスタッフ 女性できナー カナ・ルデが 地域人権学習会 1000コトへの挑戦 大瀬 はくきナー) 塾 寿学級 地域人権学習会 地域人権学習会 自主学習教室代表者会議 10分別を設定していたがが 大瀬 水グコン教室 バノコン教室 1000コインス条 1000コインスを 1000コインスを 1000コインスを		工 津江小·中教育講演会										
上洋 12 大山 3子 4 m () m (たかさご学級	上津江町人権講演会	こども園体操教室						
大山子チャレンジ教室 男の料理教室 いきいき大学 町内人権講座 両内人権講座 両人位当年校院鷹祭報等 高齢者交流支援 大山 中学生ポランティアスタック 女性にえー 大山町人権講演会 中学生ポランティアスタック 女性にえー 大山中学校院鷹祭報等 カキャンアルティッフゥォーク 大山 中学生ポランティアスタック 女性にえー ITC機れよう 神域人権学習会 地域人権学習会 100のコトへの挑戦 大瀬 中学生ポランティアスタック 付きナー オテナン・ル東線 地域人権学習会 地域人権学習会 100のコトへの挑戦 大瀬 ボクリスメン サークル美顔 地域人権学習会 100のコトへの挑戦 大瀬 ボクリコン教室 カまが仕笑楽康 100のコトへの北戦 大瀬 ボクリコン教室 カまが仕笑楽康 100のコトへの北東 大瀬 ボクコン教室 100のコトンの数 100のコトへの北東						小学生(放課後)体操教室						
大山 中学生ポランティアスタック 女性セミナー 大山で林が表別 大山・中学校機高機関等 大山・中学校機高機関等 ウォーナン・ハ・ディックのキュラ 大山 ITC触れよう ITC触れよう mux人権学習会 mux人権学習会 mux人権学習会 mux人権学習会 mux人権学習会 mux人権学習会 mux人権学習会 mux人権学習会 mux人を引みませままままままままままままままままままままままままままままままままままま		大山っ子チャレンジ教室		いきいき大学	町内人権講座				大山小学校授業支援		高齡者交流支援	公民館運営委員会
TICLEMALGY ITCLEMALGY LOOD INCOMING team あまがせ 様様 子子子) 塾 寿学級 地域人権学習会 1000 コトへの挑戦 天瀬 成人とミナー あまがせ笑楽康 自分支贈呈式 木沙辺と数室 パソコン数室 1000 コトへの挑戦		•			大山町人権講演会				大山小中学校綠鷹祭練習等		ウォーキング・ノルディックウォーク	
teamあまがせ (権(キラキラ) 塾 寿学級 地域人権学習会 地域人権学習会 地域人権学習会 月豪市災害に伴う炊き出し 天瀬 成人セミナー あまがせ笑楽康 自分史贈呈式 自分史贈呈式 木/ソコン教室 本がして楽康 100			ITに触れよう								100のコトへの挑戦	
天瀬 ザウ男メン サークル英顔 自分史贈呈式 成人セミナー あまがゼ笑楽康 (ペノコン教室		teamあまがせ	輝 (キラキラ) 塾	寿学級	地域人権学習会				自主学習教室代表者会議		7月豪雨災害に伴う炊き出し	学校支援事業
不期 成人セミナー パソコン教室			ザ☆男メシ	サークル笑顔							自分史贈呈式	公民館運営委員会
パノコン教室		Tr.	成人セミナー	あまがせ笑楽康								
			パソコン教室									

	Ш	社会教育の充実	担当課	社会教育課
教育行政実施方針	Ⅲ-第Ⅰ	地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と生涯学習社会の形成	15.3 欧	化玄狄肖林
	ı	社会教育の推進	平均值	総合評価
【主な取組】	②社会	教育における専門性を持った人材の育成	5	А

評価理由

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各種研修会や講習会が中止となったことから、新たな社会教育主事の有資格者を育成することができず、全地区公民館に有資格者を配置することは達成できなかったが、社会教育主事資格のない公民館主事には他の公民館主事や事務局からの支援を行うほか、20地区を4ブロックに分ける「ブロック制」を導入し、ブロック間での事業連携、職員の情報共有などにより人材の育成が図られた。

【個別評価】

事	業または取組名 社会教育主事有資格者の配置	令和	口2年度事業費	-	担当課	社会教	育課
事業目的・内容	[目的] 社会教育の専門性を持った人材の育成のため、地区公民館の主事を計画的に社会教育主事講習に参加させ、全地区公民館への有資格者の配置を進め総合的な人材の育成に努める。 [内容] ・地区公民館に社会教育主事有資格者を配置 地区公民館20館 各I人 日田市公民館運営事業団事務局 2人 ・中央公民館(社会教育課)に社会教育主事有資格者を配置	事業取組・成果・評価の理・	(地公民館の ・中有 区名は ・中有 区名者の ・中有 区名者の ・中有 区名者の ・大学によりにいいでは ・大学によりにいいでは ・大学になる。 ・ため、 ・大学になる。 ・大学 ・大学 ・大学 ・大学 ・大学 ・大学 ・大学 ・大学 ・大学 ・大学	有資格者数20人 宿に18人、事務局に2 宿に18人、事務局に2 社会教育課) おいては、社会やウスリングが中止となったこと資子をであったが、 社会館であったが、経 でであったが、では、 ででおり配置されている。 では、社会教育課)に、 では、社会教育課)に、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	生事講習の ま感染症の 素は昨年同 団事務局に 、地区公民能 おいても、3	影格 もの 人	

【教育行政実施方針の目標達成度】

指標名	現状値	目標値	目標値		令和2年度実績
32 W E	(平成28年度)	(令和2年度推測値)	(令和3年度)	達成値	内容
社会教育主事有資格者数	21人	23人	23人		社会教育主事有資格者数 ·地区公民館18人·事務局2人 ·中央公民館(社会教育課)3人

- ◆社会教育主事は地区公民館の事業を企画、推進する役割があり、環境、福祉、人権やまちづくり等の社会の多様な分野における学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに携わる総合的な技能が必要であるため、指定管理者に対し、社会教育主事資格の未取得者に対して講習の受講を奨励していく。
- ◆地区公民館においては、社会教育主事講習の受講予定者がいたものの、講習自体が中止となったことから、資格取得までの間は、経験 を積んだ社会教育主事有資格者(事務局職員)が職員の人材育成、指導に努めながら、資質向上を図る。

	Ш	社会教育の充実	担当課	社会教育課
教育行政実施方針	Ⅲ−第Ⅰ	地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と生涯学習社会の形成	15.3 欧	化玄狄肖林
	2	市民の学習意欲を支えるための基礎の整備	平均值	総合評価
【主な取組】	①生涯:	学習施策の総合的推進のための連携の促進と強化	% 4	% В

地区公民館(20館)の管理·運営を一般財団法人日田市公民館運営事業団に委託することで、事務の効率化と各地区の実情に 応じた事業を行うとともに、関係各課や各種団体等と連携し事業が実施できた。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため公民館の休館や利用者数の制限、活動の自粛などにより、参加者数が大幅に減少したものの、防除作業や、入館者のチェック表の作成、施設の利用制限を行い、市民が安全に施設を利用できる環境を整備できた。

【個別評価】

評

価理

由

事	業または取組名 地区公民館運営委託事業	令和	02年度事	業費	314,209千円	担当課	社会教	育課
事	[目的] 地域の実情に応じ、かつ、実生活に即した各種事業を展開するため地区公民館20館の管理・運営を、一般財団法人日田市公民館運営事業団に委託し、市の生涯学習及び社会教育の推進と公民館事業の活性化を図る。 [内容] ・人件費(館長・主事分)・事業費(講座・教室の開催等)	令和事業取	R2		参加者数 72,446 119,227	月平均 参加者数 6,6	x 037 338	育課
事業目的・内容	・管理費(施設維持管理) ・その他(車輌リース等)	組・成	民処開ま会禍項民整したとのののた。まだけ、に、のののた。またお祭とるしや活がある。まだけ、近れので、おおいので、おいので、おいので、おいので、おいので、おいので、おいので、お	理運化 戦長が高い 大学 できまり 開きる がまげのりき 新月素 がら、3月素 東日 東京 のりまり は、4日 東京 のりまり は、4日 東京 のりまり は、4日 東京 は、4日 東、4日 東京 は、4日 東京 は、4日 東京 は、4日 東京 は、4日 東京 は、4日 東、4日 東京 は、4日 東京 は、4日 東京 は、4日 東京 は、4日 東京 は、4日 東	市公民理者は「一大会」では、地域の日本ででは、地域の日本では、月上に、「一大会」では、「一大会会」では、「一大会会」では、「一大会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会	委託し、事 主い にない を応じた きんしい 事 主い に 地でで	務を ・・ナ事公竟 とこか 評価	

- ◆コロナ禍においても学校、保護者と連携した講演会の開催や、地域の歴史やウォーキングなどの三密を避ける活動など、地域住民の ニーズに対応した事業を実施し、地域住民の交流・つながりを絶やすことなく、地域における生涯学習の拠点として事業を展開していく。
- ◆地区公民館には、地域の学習拠点としての役割に加え、地域の防災や福祉等の拠点施設、地域コミュニティーの維持・継続的な発展を 推進するセンター的な役割などが求められていることから、今後は、他の行政部局、教育機関、社会教育関係団体、住民自治組織等のまち づくり団体との連携を促進、強化していく。

粉	育行政実施方針	Ⅲ−第Ⅰ	社会教育の充実 地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と生涯学習社会の形成	担当課	社会教育課
32		2	市民の学習意欲を支えるための基礎の整備	平均值	総合評価
	【主な取組】	②地域の	独自性を尊重した生涯学習推進のための学習環境の整備	5	А
評価理由	建築後30年以上総 大規模改修を行うこ		耐震性の公民館について、日田市公共施設等総合管理計画に基 。	づき、令和2年)	度は、大山公民館の

【個別評価】

事業	きまたは取組名 地区公民館整備事業	令和	口2年度事業費	172,614千円	担当課 社会	教育	課
事業目的・内容	[目的] 市内にある地区公民館20館の内、建築後30年以上が経過し、非耐震構造や施設の老朽化による改修が必要な施設においては、新築や大規模改修を行い、利用者の安全と利便性を高める。 [内容] 大山公民館においては平成28年度に耐震診断を実施し、建設委員会を開催し、複数年で大規模改修を行う。 ・大山公民館 平成28年度 耐震診断業務 平成29年度 耐震診断業務 平成30年度 建設委員会の開催 令和元年度 公民館部分実施設計業務 令和 2年度 公民館部分大規模改修(第1期工事) ホール部分(第2期工事)実施設計業務 令和 3年度 ホール部分大規模改修(第2期工事)	事業取組・成果・評価の理由	・そ	品廃棄処理業務 「建設された公民館】 D館のうち I 館及び分 民館、五馬分館、東渓 耐震化率】	分館) 分(第1期)の改 実施設計を 計画どおりに	評価	5

【教育行政実施方針の目標達成度】

指標名	現状値	目標値	目標値		令和2年度実績
1日1水石	(平成28年度)	(令和2年度推測值)	(令和3年度)	達成値	内容
公民館利用者数 (中央公民館含む)	155,470人	186,500人	187,000人	90,458人	地区公民館利用者72,446人 (目標値には貸館・その他含まず) 中央公民館(教室・多目的) 18,012人

- ◆地区公民館の整備事業については、老朽化、経年劣化、緊急性等を考慮しながら、改築、大規模改修、部分改修等により、計画的に整備を進めていく。
- ◆現在、大規模改修(2期工事)に着手している大山公民館・文化ホールについては、令和4年4月からの供用開始に向け、運営計画を作成し、地域住民や関係機関と連携を図っていく。

	Ш	社会教育の充実	担当課	社会教育課
教育行政実施方針	Ⅲ−第Ⅰ	地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と生涯学習社会の形成	15.3 欧	化玄狄肖欧
	3	家庭・地域の教育力の向上と支援体制の充実	平均值	総合評価
【主な取組】	①子育で	を地域全体で行う「協育」ネットワーク(地域・公民館・学校)の充実	%2.3	※ D

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域・学校支援人材バンクの登録を中止したことや、放課後子ども教室が開催できな かった地区があるなど、令和元年度と比較して放課後子ども教室の開催校区が減少した。 価 理

しかし、コロナ禍にあっても子どもたちの健やかな成長を育むため公民館や地域における様々な生活体験活動の実施、放課後や休 日の安全・安心な居場所づくりについて、地域や学校、公民館が連携して事業に取り組むことができた。

【個別評価】

由

事業	美または取組名 おおおおお かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	地域・学校支援人材バンク事業	令和	口2年度事業費	_	担当課	社会	教育	課
事業目的・内容	て、平成25年月 立ち上げ、人材 派遣及び支援 [内容] 小中学校数 30 市中心部 2名	全体で行う「協育」ネットワークの一環とし ほより「地域・学校支援人材バンク」制度を バンクへの登録者を学校の要望に応じて を行う。 D校×校区登録者数 3×20校 40名 3×10校 10名 合計 50名	-	登録者数 25名 *市辺部 ・ 相 がンクへの 動内ない。 また、地区の 感染拡大防止の		支援可能な 整理が進ん コロナウイル 人材の派遣	活で	評価	* 2
事業		放課後子どもプラン事業	令和	中2年度事業費	2,505千円	担当課	社会	教育	課
事業目的・内容	ため、学校・家族にため、学校・活動でででは、「一個では、「一個では、「一個では、」では、「一個では、」では、「一個では、「一個では、「一個では、「一個では、「一個では、「一個では、「一個では、「一個では、「一個では、「一個では、」」では、「一個では、「」」では、「一個では、「一個では、「一個では、「一個では、「一個では、「」」では、「一個では、「一個では、「」」では、「一個では、「」」では、「一個では、「」」では、「一個では、「」」では、「一個では、「一個では、「一個では、「」」では、「一個では、「」」では、「一個では、「」」では、「一個では、「」」では、「一個では、「」」では、「」」では、「」では、「」では、「」では、「」では、「」では、	b教室の運営委託(6校区、9教室) レンジ教室 6教室 (小・中学生) 3教室 「応援教室 I教室 「応援教室 I教室	事業取組・成果・評価の	北三、むくの木・未来三、童 放め、たって、 の木と の大の大の大の大の大の できない できない できない かんかん できない かんかん できない かんかん できない かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かん かん かん	ノジ教室 6教室 、	て室 居場習所活動のが きずでないでいる がないでででででいる でででいた。 は で で で で で で で で で で で で で で で で で で	めの携い関な	評価	* 2

指標名	現状値	目標値	目標値		令和2年度実績
1日1示 4口	(平成28年度)	(令和2年度推測値)	令和元年度 から年度当初	達成値	内容
学校支援事業を開催する地区公民 館数	I 3館 (H27年度)	15館	20館	7館	学校支援を行っている地区公民館 数
家庭・地域・学校支援人材バンク登録者数	23人 (H27年度)	35人	50人	25人	登録者数
放課後子ども教室開設校区数	7校区	13校区	18校区	6校区	いずれかのメニューで放課後子ども 教室を実施している校区数
放課後子ども教室及び放課後児童 クラブの一体型又は連携した取組 校区数	I校区	6校区	16校区	I校区	放課後児童クラブの児童が放課後 子ども教室へ自由に参加できる体 制をとっている校区数

- ◆国が進める新・放課後子ども総合プランに基づき、学校・家庭・地域の教育の協働を推進する「協育」ネットワークを構築し、宿題や基礎・基本の定着を図るための補充学習等やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施する。そのため、日田市放課後子ども総合プラン事業に基づき、学校、公民館、放課後児童クラブとの連携した取組や、指導者の確保、活動内容の充実のため、統括アドバイザーを委嘱し、関係機関との連携や推進体制の強化を図っていく。
- ◆地域・学校支援人材バンク事業については、校区毎に学校と公民館が連携して実施している学校支援事業や、キャリア教育事業などで活動している幅広い人材が学校の要望等に応じて活動している状況もあるため、事業の必要性や目標指標の見直しを含め、当事業の在り方について、検討を行っていく。

	Ш	社会教育の充実	担当課	社会教育課	
教育行政実施方針	Ⅲ−第Ⅰ	地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と生涯学習社会の形成	15.3 欧	化玄狄月酥	
	3	家庭・地域の教育力の向上と支援体制の充実	平均值	総合評価	
【主な取組】	②「大人が変われば、子どもも変わる」理念の啓発		% 3	жс	

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、関係機関等と協議の上、ほとんどの活動を自粛した。

日田市連合育友会と連携した家庭教育講演会は、学校の休校などにより子どものメディア依存が深刻な問題となっており、母親部からの希望もあり人数制限を設けながら実施することができた。

【個別評価】

価

理由

事	業または取組名 「大人が変われば子どもも変わる」啓発活動	令和	和2年度事業費		23	千円	担当	当課	社会	教育	課
事業目的・内容	「大人が変われば子どもも変わる」理念に基づき、こころ豊かでいきいきとした青少年を育成するするため、関係機関や各団体に働きかけ、理念の啓発を図る。主に、青少年の非行・被害防止全国強調月間(7月)や、全国青少年健全育成強調月間(11月)に併せて各運動を行う。 「内容」 ①「大人が変われば子どもも変わる」県民運動内容:街頭啓発活動(あいさつ運動)県内年間1回 ②青少年健全育成大会の開催内容:小・中・高校等活動報告、講演等	事業取組・成果・評価の理由	① (全) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本	育 Gデンビ名連 大 会 小頁し G施 / 施 / た 大 (や の と)	会ののの<	月 黒 閉 R T 8 の の たった と の で	か か	(増) あ成 定 関の	(人)減 つさ会を事加	評価	% 3°

- ◆日田市青少年問題協議会を中心に青少年健全育成大会を実施しているが、大会開催時期に学校行事や育友会行事が重なり保護者の参加が少ないことから、日田市連合育友会等の関係団体と協議を重ねながら大会の開催時期や開催方法について検討を行う。
- ◆子どもに関する問題は、ネット依存の進展、スマートフォンやSNS等の利用に起因する事件や事故の増加、不登校や引きこもりなどの社会的自立に悩みを抱える子どもへの対応、大麻等の薬物乱用など複雑化、多様化していることから、家庭・地域・学校・行政等が連携しながら、引き続き青少年の健全育成に取り組んでいく。

	Ш	社会教育の充実	担当課	社会教育課
教育行政実施方針	Ⅲ−第Ⅰ	地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と生涯学習社会の形成	15.3 欧	化去狄肖跃
	4	社会教育における人権教育の充実	平均值	総合評価
【主な取組】	① 社会	社会教育における人権問題への取組の充実・支援		жс

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業の中止や参加者数を限定するなどの対応を行ったことから、参加者数は大幅に減少した。

しかし、公民館などを中心に世代に応じた講座の開催や交流活動など人権に関する多様な学習機会を提供するとともに、ファシリテーター育成講座において学習が円滑に進むための進行手法を学ぶなど、人材の育成を行いながら、市民一人ひとりがお互いの人権を尊重しあえる社会の実現に向け取り組むことができた。

【個別評価】

評

理

【個	個別評価】												
事美	業または取組名	社会人権·同和教育事業	令和	中2年度事業費	196千円	担当課 社会	教育	課					
事業目的・内容	習す 「① 保ワや ② 」 し、課消 ③ 生職性 ④ 公組 ⑤ 公のの。 容ァ育ク法 権区回を題 田涯につ 権館 にのがします。 間公の行に 市望して 育 、	導者を対象に、ファシリテーターとして、 ジ式の学習会を開催する際に必要な知識 連続のカリキュラムで学ぶ。 続講座 で、地区公民館利用者や地区住民に対 た「部落差別問題」をはじめとした人権 しい知識や人権感覚を身に付け、部落解 6偏見・差別心の解消を図る。 文化施設AOSEにおける人権講座 1の一環として中央公民館施設利用者や 権学習を行い、人権尊重の重要性や必要 2解を図る。	事業取組・成果・評価の理由	「(保でのタ ②(部深交が ③講参人を ④ 3 公流あで ⑤開(地催学利る 事防のなき 田会がた 市 者思談 教延館の民。 館り元公権はをで 全たののなを 連年間めら。 複 5やを 育べ職参館 が1年民学公はで 体め度指意ど学 連度題腹し 含 名る諸 講写を加難 主回度できぬかた 通り	導見で、 ・	実かい、 いち 関談身 皆 名重。 回っけて取 学 他たと識 より施けつ 8 題なに 対 る 延や、推組 習 団町での 感回しや、シ 理をけ す こ べ実進む 会 体内公向 染数研覚 解織る 人 な 2銭役と の人民上 拡及研見ー をりこ 権 ど 名交でが 共権館図 大び修見ー	評価	% 3					

指標名	現状値	目標値	目標値		令和2年度実績
	(平成28年度)	(令和2年度推測値)	(令和3年度)	達成値	内容
ファシリテーター育成講座参加数	78	78	80	70	保育施設の指導者を対象
地区公民館での人権学習会参加数	3,944	4,200	4,500	2,069	地区公民館が支援を行っている町 内人権学習会参加数

【課題と今後の方向性】

◆幅広い世代の市民が人権問題や部落差別問題を自らの課題として捉え、生活の中で課題解決を実践していく感性を身につけることが重要であることから、身近な地区公民館において、地域の課題や実情に応じ、利用者や各種教室、社会教育関係団体を対象とした講演会、学習会などの多様な学習機会を提供していくとともに、関係機関や地域人材などと連携を深めることで、さらにすそ野の広い町内人権学習会などを開催していく。また、学習を一層深める取組として、一つの地区公民館を指定して行う、人権問題連続講座を継続して実施する。また、人権教育活動の推進役である公民館職員の研修を充実させるとともに、ファシリテーター育成講座を通して、地域で指導的に活動できる人材の育成に努める。



ファシリテータ育成講座の様子



人権問題連続講座の様子

I		Ш	社会教育の充実	担当課	博物館
教育行政実施方針		Ⅲ−第Ⅰ	地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と生涯学習社会の形成	15.3 欧	14.1% KB
		5	博物館の機能の充実	平均值	総合評価
	【主な取組】 ①博物館施設の機能の充実		%3.8	ЖВ	

企画展の実施、学校や公民館から訪れる子どもたちへの説明、職場体験などの受け入れも積極的に果たすことができたが、新型コロナウイルス感染症防止のために博物館活動が十分にできなかった。

博物館が主体となって行った水路や河川の生き物調査に、日田淡水魚同好会や日田漁業協同組合、高校生などが積極的に参加・協力いただくなど、博物館活動を支える市民ボランティアの育成を図ることができたものの、ボランティアの参加者数が令和元年度を下回った。

常設展示室のリニューアルやメンテナンス、標本の燻蒸処理などの資料の保存対策を十分に行うことができた。 新型コロナウイルス感染拡大防止のために検温、消毒、換気などを実施し、館内での感染防止に努めた。

【個別評価】

価

理

事業	事業または取組名 展示資料・設備の充実並びに展示方法の工夫		令和	口2年度事業費		2,426 千	-円	担当課	博物	館			
事業目的・内容	業 ニューアルに取り組む。 目 的 ・ ・展示リニューアル事業 R R ア パラルの再新系針料 968 000 円				事業取組・成果・評価の理由	業取組・平成29年度に大山層の調査により発見された足跡化石などを常設展示室(日田の大地のなりたちコーナー)に展示するとともに、大山層に関連した展示パネルの更新を行った。 ・平成29年度や令和2年度に日田市を襲った大水害の内容を「日田の水害史」に加えて展示パネルの更新を行った。 ・ 購入した化石を常設展示室(地球と生物の誕生コーナー)に展示した。						5	
事業	業または取組名	学校や公民館	どの連携		令和	口2年度事業費		_		担当課	博物	館	
事業目的・内容	[内容]	との交流及び			事業取組・成果・評価の理由	施設見学 ことも域・保育 小高校 大学 の民体 大学 の 、大学 で 、大学 の 、大学 の 、大学 で 、大学 で 、大 、大 、大 、大 、大 、大 、大 、大 、大 、大 、大 、大 、大	ネル、L からσ からび けっ 対 す を す す を す る と う く う く う く う く う く う く う く う く う く う	ロ小学校・/)見学や職場 連携した事動 ルス感染症の 粛し、見学医	小野 場に がまり は かい は か	験、企画、 動ができ 、大により 数が令和	たも 、学校	評価	* 4

事	業または取組名	市民自らがボランティアなどで博物館活動に参加できる体制づくり	令和	口2年度事業費	_	担当課	博物	館	
事業目的・内容	る体制を整備す [内容]	イアなど自主的に博物館活動に参加でき する。 参加する市民有識者やボランティアの育	事業取組・成果・評価の理由	田町水路の淡水を行った。 ボランティア R2:10人 高校生がボラ 極的に参加する 識の醸成は進ん	RI:16人 ランティアとして水路の らなど、博物館活動に んでいる。しかし、令和 バランティアの数と比較	査結果の 調査活動 対する参加 元年度の	発表 (意)恐	評価	% 4
事	業または取組名	特別展や企画展の開催	令和	中2年度事業費	962千円	担当課	博物	館	
事業目的・内容	発見し、改めて 自然やです。 「内ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、	15日~5月10日 見える宇宙と星」 21日~8月30日	事業取組・成果・評価の理由	拡大防止のたる ②「日本」 ②「新型コーロの 入場画をでする。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	33日以降は新型コロカ中止。 える宇宙と星」 ウイルス感染拡大防」 の風景」 2,185名 64日間 3業費) 961,404円 2,328名 72日間 風景」展では、昨年のが観覧に訪れるなど、 に伝えることができたもいできたもいであることができたもい。 がれも新型コロナウェが 中止となり33%の実施	上のため中) 特別展入り も も も も い で で で で で で で で で で で で で で で	止。 書や他拡	評価	* 3
事	業または取組名	専門的な知識を持つ学芸員の配置	令和	2年度事業費	_	担当課	博物	館	
事業目的・内容	指し、市民に開	学ぶ成熟した社会実現に役立つことを目かれた積極的な博物館活動を推進する。 がないではないでは、 はを持つ学芸員の配置に努める。	事業取組・成果・評価の理由	を活用した企画 校の依頼を受け うことができたな ため、企画展の)学芸員が1名配置されるの開催や淡水貝割が1実施した職場体験なが、新型コロナウイルン開催数や見学団体数数が目標値の54%と	間査指導、? こどの指導 ス感染症拡 なが減少し、	S学 を行 大の 博	評価	* 3

- ◆展示リニューアルを行った結果、最新の情報を来館者に伝えることができるようになったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、入場者数は昨年度と比較し大きく減少した。令和3年度は、市民が来館する機会を増やすために、感染対策を講じながら年3回の企画展を実施し、博物館への入場者数の回復を図っていく。
- ◆コロナ禍においても、市民が博物館に来なくても常設展や企画展をオンラインやユーチューブなどを使って見ることができるよう、展示・ 観覧の方法や情報発信方法の充実を図る。
- ◆市民がボランティアとなり博物館活動に参加し、日田市の自然や歴史、文化の普及啓発活動に取り組むことができるような体制を整備する。

	Ш	社会教育の充実	担当課	博物館					
教育行政実施方針	Ⅲ−第Ⅰ	地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と生涯学習社会の形成	1210本	1440 KE					
	5	博物館の機能の充実	平均值	総合評価					
【主な取組】	%4. 5	А							
市民から寄贈された昆虫・植物標本等を同定し、リストの作成やデータ化を計画的に進めることができた。									

また、購入した資料を常設展示室に展示するなど、活用することができた。

評 価 理 由

【個別評価】

事美	業または取組名	博物館収蔵標本の整理・活用	令和	中2年度事業費	82千円	担当課	博物館	
事業目的・内容	剥製などの標を図る。 [内容] 有識者を会計	・されている昆虫や植物・化石・岩石鉱物・ 本の適切な管理と資料の整理及び活用を ・年度任用職員として雇用(2名)し、未整 構するとともに、資料のデータ化を進めて行	事業取組・成果・評価の理由	(学芸員補助等・標本リスト及で 令和2年度は 進めることがで 整理をしていた ルス感染拡大队	定・整理・データ化(列 者賃金) 81,180円 がデータ化ができた点 がデータ化ができた点 によりないであったが、 きたものであったが、 だく予定であったが、 お止のため延11日間 数となったことから、評	数 958点 化を計間、 17日間、 新型コロり、 にとどまり、	りに 票本 評価	* 4
事美	業または取組名	収蔵資料の充実	令和	中2年度事業費	318千円	担当課	博物館	
事業目的・内容	[内容]	ューアルに向けて、資料の充実を図る。 計画的に購入する。	事業取組・成果・評価の理由	(計4点 3 令和2年度に に向けて資料を	入資料 5、セイムチャン隕石3 17,900円) 実施した常設展示室の ・購入し、展示資料の3 ら評価を5とした。	 のリニューフ	三亚	5

- ◆更なる常設展示室の充実や学校・公民館からの依頼による体験学習の充実に向け、資料の購入を計画的に進めていく。
- ◆市民から寄贈を受けた貴重な資料は、引き続き分類整理し、標本リストのデータ化を進めていく。

I		Ш	社会教育の充実	担当課	博物館	
	教育行政実施方針	Ⅲ−第Ⅰ	地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と生涯学習社会の形成	15.3 欧	14.1% KB	
		5	博物館の機能の充実	平均值	総合評価	
	【主な取組】 ③体験学習の場の提供及び調査研究の実施		% 3.5	ЖВ		

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自然教室をはじめとする博物館事業の多くは中止となったが、自然調査研究活動は予定 どおり実施することができた。

大山町の自然調査の成果をまとめた「大山町の自然展」を開催することができ、大山町に残されている豊かな自然を市民に紹介することができた。

令和元年度の年報を発行し、学校や公民館などに配布することで博物館活動の周知を図ることができた。

【個別評価】

評

価

理由

事	業または取組名	子ども向けの体験学習プログラムの作成	令和	口2年度事業費	-	担当課	博物館	館	
事業目的・内容	[内容]	関心を持つ子どもたちの育成に努める。 楽しく学べる体験学習プログラムなどを作	事業取組・成果・評価の理由	市内の小中学生 たが、令和2年)	はり自然探検隊プログ 生を対象に隊員を募身 度は新型コロナウイル ∵中止(達成値0%)し	美し実施し ⁻ ス感染拡え	てき 大防	評価	* 2
事美	業または取組名	自然や科学に関する各教室の開催	令和	口2年度事業費	34千円	担当課	博物館	館	
事業目的・内容	[内容] 一般市民向け 学生を対象とし ①科学実験にそ ②夏休み自然 同定会、干潟街 ③一般対象自	然教室 2回、自然観察会2回、探鳥会3回)	事業取組・成果・評価の理由	②夏休み自然の19年の19年の19年の19年の19年の19年の19年の19年の19年の19年	然教室 中止) 中止) 中止) 11月29日 (23名名 2月14日 (37名名 然研究作品展(中止) 会では、令和元年度(が増加するなど、教室 型コロナウイルス感染 分を中止し、12%の実	参加) 秋 I 5名・冬 開催の成り 拡大防止の	果が のた	評価	* 2

事第		然調査研究活動と情報発信	令	和2年度事業費	,	担当課		
事業目的・内容	調査を行い、得られ に公開し、情報発信 [内容] ①天瀬町の自然環 とめた大山町の自然 ②有田川(日ノ本町)	境調査や大山町の自然環境調査を	民事業取	査然大延白②没公 ・び日 国のは展 会展を明場環川をた対川・ のは展 が出れし民田管 ・ のは展 が出来した対川・ のは のは のは のは のは のは のは のは のは のは のは のは のは	協働事業として郷土 天瀬町の自然調査及 ・展 令和3年1月30日 ・展 令和3年1月30日 ・展 令和3年1月30日 ・日、536人 ・委託料)700,000 ・日、536人 ・委託料)700,000 ・日、536人 ・日、536 ・日 ・日、536 ・日 ・日、536 ・日 ・日 ・日 ・日 ・日 ・日 ・日 ・日 ・日 ・日 ・日 ・日 ・日	び ス 3月28日 で 3月28日 で 3月28日 で 3月28日 で 370年 で 4日 で 4日 で 4日 で 4日 で 4日 で 5日 で 5日 で 6日 で 6日 で 6日 で 7日 で 7日 で 7日 で 7日 で 7	自 里へ 名及 ト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
事第	きまたは取組名 博物	物館年報の発行	令;	和2年度事業費	74千円	担当課	物館	
事業目的・内容	[内容]	などを中心に記録・広報する。 年報の発行を行う。	事業取組・成果・評価の理由	報を発行した。 ・年報印刷部数 ・配布先 市内/ 年報を発行す	博物館事業内容など (180部 小中学校・図書館・公 「ることで、博物館が行ることができたことか	民館ほか	协	5

指標名	現状値	目標値	目標値		令和2年度実績
1日1示心	(平成28年度)	(令和2年度推測値)	(令和3年度)	達成値	内容
博物館入館者数の確保(12,000 人の確保を目標)	13,490人	12,000	12,000人	6,461人	

【課題と今後の方向性】

◆コロナ禍の中で多くの事業が中止となったが、引き続き、感染状況に応じた対策を講じながら、事業の実施に取り組む。

	Ш	社会教育の充実	担当課	淡窓図書館
		地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と生涯学習社会の形成	15.3 欧	火心囚旨的
	6	図書館機能の充実と読書活動の推進	平均值	総合評価
【主な取組】	①蔵書の	新陳代謝の推進と蔵書管理の効率化及び利用者サービスの充実	%4.8	А

利用者ニーズを的確に把握し、図書資料の適切な購入と除籍による蔵書の新陳代謝を進め、蔵書管理の効率化を図ることができ た。

図書貸出人員及び図書貸出冊数実績は、年々減少傾向にある中、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年3月2日から 5月25日に休館したことにより、例年に比べさらに減少したものの、司書有資格者のレファレンスの質の充実により資料整備やレファレンスなど図書館機能、利用者への安定したサービス提供が実施できた。

【個別評価】

価

理

事訓	業または取組名	図書館用資料整備事業	令和	02年	度事	業費	9	,671千円	担当	当課 %	炎窓図	図書	館
事業目的・内容			事業取組・成果・評価の理由	化に ズに の除	対応 [.] 対応し 籍を3	5, 5, するた じ き が た め、	科購入数 240冊 434冊 を20年ぶめ、全部改 書資の利 できなした。	148,4 150,6 りに見直し て正した。ま 購入を行う	726冊 、ニー た、利 ととも	ー ・ズの多 用者二 に、資料	様 .一 	評価	5
事	業または取組名	窓口業務委託事業	令和	02年	度事	業費	31,	,350千円	担当	当課 %	炎窓図	図書	館
事業目的・内容	る安定したレフ サービスの向」 [内容] 窓口業務の委 ※レファレンス・ 図書館利用を 情報・資料など	託	事業取組・成果・評価の理由	き、st たが 館時 (R2	定し、新型 間の .3.2 令和	7. 7. 8のあって 1コロー 25.2	ま/スタッフ数 人/9人 人/9人 ニニュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4,26 ▲ 1,4 司書有資格 一ビス拡大防 恋染 臨時付 ことにより	70件 64件 474件 者供止館リフ	神 確実た間でで、別でで、別でで、別でで、別でした。	き開	評価	* 4
事訓	業または取組名	リサイクル会	令和	02年	度事	業費	-	-	担当	当課 %	炎窓図	図書	館
事業目的・内容	的な除籍を推済 [内容]	週間中にリサイクル会を開催し、希望者に	事業取組・成果・評価の理由	増新りませまでは聞は	利用数(人) 210 型間止通	▲ I, ナウィ 2.3.: こが、新 こ図書	夏怀 万数 八人) (人) 342	拡大防止の 中の春のこ みイベント 用に取り組	利用数(人) 535 446 89 かだもに利	3,97 ▲ 74 、臨時(売書週に 開催し、 J用人数	数) 2 1 19 木間年	評価	5

事	羊または取組名 インターネットによる情報提供	令和	02年	度事	業費	_	担当課	淡窓	図書	館
事業目的・内容	[目的] 利用者ニーズに合わせた情報提供などインターネットサービスを充実させることで図書館利用の促進を図る。 [内容] 蔵書検索及び予約、メールによる予約本の貸出可能の連絡、新刊・新着本のお知らせ、既読した本の記録、読みたい本のリストを作れるマイ本棚などのサービス及び情報の提供。	事業取組・成果・評価の理由	ター	R2 RI 増減 用者か	^い パソ 検索+	件数(インターネット検索) 718,083件 425,482件 292,601件 コン等から蔵書検索等サービスの利用が増かが図られていることから	叩ており、	図書	評価	5

指標名	現状値	目標値	目標値	令和2年度実績				
1日1示 亿	(平成28年度)	(令和2年度推測値)	(令和3年度)	達成値	内容			
図書貸出人員	53,418人	56,680人	53,000人	34,858人	年間の貸出延べ人数			
図書貸出冊数	243,230冊	263,800冊	269,000冊	160,279冊	年間の貸出冊数			

【課題と今後の方向性】

◆図書貸出人数及び貸出冊数は、人口減少や若者の読書離れにより、年々減少傾向にある中、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、約2か月間休館したことに加え、開館以降も利用時間短縮や人数制限もあり、例年に比べさらに減少した。

今後も引き続き、新型コロナウイルス感染状況に応じた対策を講じながら、図書資料の整備やレファレンスの充実など、利用者の増加に つながるサービスの提供を行うとともに、「今後の図書館サービス等のあり方」に関するアンケート結果も踏まえながら、非接触でのサービ ス提供の検討や図書館に必要とされる新たな機能の充実を図っていく。

	Ш	社会教育の充実	担当課	淡窓図書館
教育行政実施方象			15.3 欧	火心囚旨的
	6	図書館機能の充実と読書活動の推進	平均值	総合評価
【主な取組】	②施設	利用活用の促進と各種グループ等の活動支援	% 3	жс

正報ひた、図書館だより、ホームページ等による情報の提供はできたものの、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、春のこども 読書週間は中止し、他のイベントについても、展示会程度に規模を縮小し開催した。また、自主活動グループ及びおはなし会へ活動場所の提供や会議室の「学習室」としての開放は、9月以降となったことなどから、来館者数等は減少したものの、施設の活用や各種活動の支援は推進することができた。

【個別評価】

事	事業または取組名 情報提供及びPRの推進と図書館活用の促進		令和	口2年度事業費		- 担当		担当	担当課 淡窓		書館	涫
事業目的・内容	[内容] 広報ひた、図記 の情報提供、施 くりに取り組む。	f規利用者を確保する。 書館だより、ホームページなど通して各種 設利用のPRを展開し魅力ある図書館づ が入っていないときには「学習室」として	事業取組・成果・評価の理由	館期間 (R2.3. は中止し、年間	放 電 週 ト 間 ト ル の 通 者 間 ト ス 5 こ し し に の は は の に 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	R2 113日 2 641人 2, 数 R2 間 - 4 163人 5 508人 7 153人 824人 1, ス感染拡大防山 5.25)中の春の したイベントも表 者数は令和元年		RI 増減 22日 ▲ 109日 885人 ▲ 1,744人 RI 増減 19人 ▲ 419人 19人 ▲ 356人 02人 ▲ 194人 - 153人 640人 ▲ 816人 のため、臨時休 こども読書週間 1模を縮小し開催		9日 4人	平西	* 3
事業目的・内容	び連携・協力を [内容] ・各グループへ の場を提供する	図書館資料を利用した活動支援や定例会	事業取組・	中2年度事業費 「自主活動グリ数 古文 萩 萩 山 会 が かいま が もない かいない かいないが を かいた が いった が に かった が な 変 が の 54% に 減 が か か か か か か か か か か か か か か か か か か	7回 6回 8回 8回 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	R2 43人 27人 回 R2 74人 99人 が及びじたよう ウイルため参	8回 10回 11 活提拡者	共し支払 大防』 数が令	人人人の人人の手が進んである。	ご進	書	** 3

- ◆広報ひた、図書館だより、ホームページ等による情報の提供やイベント等の実施により図書館利用の促進が図られたが、今後も、積極的 に情報提供を行うとともに、イベント内容の充実や、会議室以外の閲覧や学習スペースの確保などを図り、コロナ禍においては引き続き、館 内の換気の徹底とともに、来館者に対してマスクの着用や咳エチケット、フィジカルディスタンスの配慮などを十分注意喚起しながら、利用 促進に努める。
- ◆自主活動グループについては、構成員の高齢化により活動の継続が困難になるなどの課題が生じているため、今後は、学校の読み聞かせボランティアとの連携を図りながら、継続して活動の支援に努める。

	Ш	社会教育の充実	担当課	淡窓図書館
教育行政実施方針	Ⅲ−第Ⅰ	地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と生涯学習社会の形成	15.3 欧	火心囚旨的
	6	図書館機能の充実と読書活動の推進	平均值	総合評価
【主な取組】	③公民	館との連携による遠隔地サービスの充実	5	Α

評価理由

遠隔地図書貸出事業については、レファレンスによる貸出や返却のみの利用もできることから、利用者実数や利用冊数は開始当初から増加傾向にあったが、令和元年度は公民館への制度周知不足などから利用が減少した。しかし、令和2年度は公民館への制度 周知や防災ラジオ放送により周知徹底を図ったことで、遠隔地の利用者へのサービス向上が図られた。

【個別評価】

事	業または取組名	遠隔地図書貸出事業	令和	02年	度事業費		115千円	担当課	淡窓	図書	館
事業目的・内	[目的] 振興局及び振点に淡図図書館地の利用者への [内容] 振興センターが書の配送及び「 ※対象となる公 振興センタード	無センター管内の地区公民館10館を拠館が所蔵する図書の貸し出しを行い、遠隔のサービス向上を図るもの。 及び振興局管内の各公民館へ貸出す図回収の委託	令 事業取組·成果·評	·配達振	送及び回収	回数 管内:22回 :47回 利用数 25人 24人	• • •	担当課 うち返却 のみ 74冊 63冊 11冊	淡窓	図書評価	^館 5
容容	3.7.7	前津江、中津江、上津江	計価の理由	を図		利用者実	防災ラジオ 数や利用₩				

【課題と今後の方向性】

◆遠隔地域における図書貸出サービスの利用者数を増やすため、年度当初のチラシ配布に加え、対象公民館の公民館主事へ制度説明を行いながら、事業についての理解を得た上で、防災ラジオ放送による制度周知や地区公民館への新刊図書情報の提供などを行い、利用の促進に努める。

	Ш	社会教育の充実	担当課	淡窓図書館
教育行政実施方針	Ⅲ−第Ⅰ	地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と生涯学習社会の形成	15.3 欧	火心囚旨的
	6	図書館機能の充実と読書活動の推進	平均值	総合評価
【主な取組】	④学校	及び福祉保健関係課との連携	% 4	ЖВ

巡回図書については、子どもの読書活動の推進が図られるため、利用している小学校からは好評を得ている。また、学校図書司書と合同研修会を開催し、意見交換を行ったり、学校図書司書向けの情報誌「bridge」を発行することで学校図書館と更なる連携が図られた。さらに、図書館見学や職場体験を積極的に受け入れることで、子どもたちに図書館について興味を持ってもらうことができた。ブックスタート事業については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、7か月児健診及び読み聞かせ会が中止となり、親子のコミュニケーションづくりの支援を行うことができなかったものの、希望者への絵本の配布は実施できた。

【個別評価】

評

理

由

ľ			令和	口2年度事業費	_		担当課	淡窓	図書	館
		[目的] 学校図書館と連携することにより児童生徒の読書向上を推進するとともに、図書館見学等を積極的に受け入れ	事	巡回図書	13	R2 校 3回	R I3校	l 4回		
		ることで、子どもたちの図書館活用の促進を図る。	業取	情報誌「bridge」	発行	4回	30	回		
	事業	[内容] ・小学校図書館と連携を取り、図書館の本を巡回図書と	組・	合同研修会		20人	1回 2	27人		
	目的	することで、より多くの種類の本を読む機会を児童に与える。	成果	図書館見学				41人	評	*
	内	・学校図書館担当者との情報交換、情報提供を行うため	・評	職場体験	2件	5人		20人	価	4
	容	の情報誌「bridge」を年4回程度発行する。 ・スキルアップ等を目的とした学校と図書館の合同研修会を年1回行う。 ・図書館見学や職場体験を積極的に受け入れる。	価の理由	及び図書館見等 子どもたちの図	‡できた。また 学や職場体具 書館活用を 者数は令和	きた。また、学校図 職場体験を積極的 活用を促進できた (は令和元年度の)		連携 入れ、 数制	5	
	事業	きまたは取組名 ブックスタート事業	令和	口2年度事業費	2	246千円	担当課	淡窓	図書	館
		[目的] 絵本をツールとした読み聞かせによる親子のコミュニケーションづくりを支援するとともに、配布した絵本の活用	事	本事業用絵本則絵本の配え	購入数:325 布冊数(Ⅰ人			7		
	事	と正しい読み聞かせの啓発を行うことにより、子育て世代 の図書館利用の促進を図る。	業取組	年度	健診受診	_	が聞かせ会 参加者			
	業	[内容]	•	R2※	305冊		-			* <u>'</u>
	目的	7か月児健診時に赤ちゃん向けの絵本と赤ちゃんと本を楽しむ際のアドバイスや情報等をセットした「ブックスター	成果	RI ※健診対	435冊 象者のうち者		126冊		評価	※ 4
	・内容	トパック」を配布するとともに、絵本を使った読み聞かせや エプロンシアターなどを行う読み聞かせ会を図書館で開 催する。	・評価		読み聞かせ					4
		IE y つo	の理由	新型コロナウ/ 児健診及び読み 布数は令和元年 した。	み聞かせ会に	ま中止とな	より、絵本	の配		

- ◆児童生徒の読書活動を推進するため、巡回図書や学校図書司書との合同研修会の開催を通じて、今後も学校図書館との更なる連携を深め、子どもたちの読書環境の向上を図っていく。
- ◆ブックスタート事業については、読み聞かせ会を継続して開催し、子育て世代の図書館の利用促進を図る。

		Ш	社会教育の充実	担当課	淡窓図書館
教育行政実施方針		Ⅲ−第Ⅰ	地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と生涯学習社会の形成	1	X/3/LI EU
		6	図書館機能の充実と読書活動の推進	平均值	総合評価
	【主な取組】	⑤魅力は	らる施設環境の提供と利便性の向上による利用の促進	5	Α
評価理由	施設建築後32年を とともに、適正な維持		、るため、老朽化している箇所については、適宜必要な補修・改修 めた。	等を行い、施設	の延命対策を講じる

【個別評価】

事	業または取組名 施設補修・改修の推進	令和	口2年度事業費	3,204千円	担当課	炎窓図書	館
事業目的・内容	[目的] 施設管理の徹底に努め、必要とされる補修・改修等を実施し、利用者が安心して利用できるよう、施設の適正な維持と利用環境整備を行う。 [内容] ①不具合が生じた施設・設備の補修・改修を行う。 ②利用者が利用しやすいように、館内の環境整備を行う。	事業取組・成果・評価の理由	・トイレタイル神・トイレタイル神・トイレタイスをは、・トイレク世界の一をは、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	理 59イル割れ修理 取替工事 修理(冷却塔Vベルトラ ドリングユニット漏水値 の整備> りの作家コーナーの新	8理) 設 f の館内の環	評価	5

【課題と今後の方向性】

◆住民ニーズを踏まえながら、今後、図書館に必要とされる機能や安全で快適に利用できる環境について検討を行いながら、計画的に整備を進めていく。

Ш	社会	枚育の3	通し番号	担当課	総合			
	第2	誰もか	バスポーツに親しめる環境	AU O HI T	担当酥	評価		
			①	スポーツ実施率の向上	40	スポーツ振興課	ЖВ	
	スポーツ·レクレーション の振興		2	競技スポーツの振興	41	スポーツ振興課	ЖВ	
			3	スポーツによる交流人口の増加	42	スポーツ振興課	Α	
				4	施設利用の向上	43	スポーツ振興課	Α
				⑤	スポーツボランティアの振興	44	スポーツ振興課	ЖВ

	Ш	社会教育の充実	担当課	スポーツ振興課
教育行政実施方針	Ⅲ-第2	誰もがスポーツに親しめる環境づくり	担日欧	スポーク派英味
	1	スポーツ・レクレーションの振興	平均值	総合評価
【主な取組】	% 4	% В		

「水郷ひたチャレンジウォーク」については、随時スタートの導入やスタッフのマスク・フェイスシールド着用などの感染症対策を徹底 し、多くの市民の参加をいただいた。

また、3月の「ひなまつり健康マラソン大会」においても、検温票の提出や、分散スタート、前日受付の実施等、感染症対策を徹底し、 定員を削減した限定 I,000名に対し999名 (当日853名) の応募があり、安全に開催することができたが、多くのイベントが中止となった。

中学校部活動における外部指導者の活用についても、部活動の制限が行われる中、前年に引き続き、学校現場と連携して取り組むことができた。

【個別評価】

価

理

	が計画」	令和	口2年度事業費		500千円	担当	当課 スポ	ーツ却	長興課
事業目的・内容	[目的] 市民の運動・スポーツ実施率の向上を図るため、気軽に参加できる生涯スポーツ等の普及に努めること。 [内容] スポーツ推進委員協議会等の関係団体と協働し、ミニスポーツやニュースポーツ、軽スポーツなどと呼ばれる種目の普及や、スポーツデイ、県民すこやかスポーツ祭などの行事の実施、市の主催する各種大会で参加しやすい環境づくりに努める。 ・第26回水郷ひたチャレンジウォーク・第34回日田市少年少女交流駅伝大会・体カテスト・スポーツデイ・県民すこやかスポーツ祭行事の協力・軽スポーツ用具貸出	事業取組・成果・評価の理由	スポーツ推進す 事業 (ひ)・チャン・カーリー (1) を (1) を (2) を (2) を (3) を (4)	E施した。 なた-ク質 年 ツ ででに サ イ ク ででは サ イ ク ででは ででは が イ ク ででは ででは ででは ででは ででは ででは ででは ででは	開催 E 令和2年111 交流駅 伝 大 で	月日会会プロートの	参加者数 448名 16件 ウイルト、 マート、 マート、 データーな ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	評 価	* 3
事美	 本民スポーツの設定と定着	令和	口2年度事業費	4	,801千円	担当	<mark>当課</mark> スポ	一ツ却	長興課
事業目的・内容	[目的] 市民の運動・スポーツ実施率の向上のため、市民が親しみやすい「自転車」や「マラソン」などについて、競技振興とともに手軽にできるスポーツとしての定着を図る。 [内容] 全国的に愛好者も増加し、健康づくりの視点からも注目されている自転車競技、手軽にできる運動・スポーツとして競技人口の多いマラソン競技等のスポーツ大会を実施し、市民のスポーツ実施率の向上やスポーツ振興を図る。 ①第7回椿ヶ鼻ヒルクライムレース大会奥日田地域の地形や自然を生かした、ヒルクライムレースの実施 ②第22回天領日田ひなまつり健康マラソン大会ひなまつり期間中の豆田町など、春の日田の街を駆け抜けるマラソン大会の実施	事業取組・成果・評価の理由	① 第 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	JBCF椿ケ は 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	鼻ヒルクラー ま 実 実 実 と → 1 ス サ 分 ス 寸 拡 け 健 定 数 1 , へ - も ス ル ト 大 康	イム) ソ 1,000名 1 107ト着 107ンパール	ン大 の名) 定 ・一設 で で で ののの ののの		* 3

事	業または取組名	中学校部活動における地域指導者の活用の円滑化	令和	中2年度事業費	480千円	担当課	スポー、	ツ振興説	₹
事業目的・内容	やスポーツを続 と。 [内容] 中学校運動部 外部指導者(地	3活動の充実により、生涯にわたって運動 けていく意欲を持つ子供の育成を行うこ 3活動の充実のため、必要に応じて部活動 b域スポーツ指導者)の活用を図る。 動外部指導者謝礼の支給	事業取組・成果・評価の理由	指導者謝礼 2 新型コロナウィ 制限される中、	外部指導者謝礼の支24名(年額20,000円 イルス感染拡大防止の 学校現場と連携し中等 事者として24名の活月 5とした。	円×24名) りため部活 学校の体育	部 たこ i	P F	ō
事	業または取組名	スポーツ推進委員協議会活動の充実	令和	2年度事業費	_	担当課	スポー、	ツ振興誤	Ł
事業目的・内容	担うスポーツ推 [内容] スポーツ推進・ 運動内協議会が ウォーク、その他 〇スポーツ接達・ ①協議・研修	を会 小協力・協賛	事業取組・成果・評価の理由	****** ②***** ③* ④* ◎(「スボ研に新ンパリーロッスロー 研リンセスス 後第 それ 延令 チ感が修向新り出げ、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	事が進行・・・日達 進オポーツ 協上 進 ツー オーローを化がん業に表す・・・ 日本 香ーーツツ カル 員 進名 し、市寄、こと染といいで女 中止な 議門推進進 替イ 修 員 つ民贈ぶる感止かいで、	参云 マ参 大会研 ・・・ヤ 余 型実と委 よいか大 ラ加 会・修 ・・・)) コ施か員 りス・・・・ ・・・・ ・・・ ・・・ ・・・ 中 1 1 ナた競る くっツ	立	P E	īo l

· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·										
指標名	現状値	目標値	目標値	令和2年度実績						
1日1示石	(平成28年度)	(令和2年度推測值)	(令和3年度)	達成值	内容					
成人の週1回以上のスポーツ実施率	41.1%	ı	65.0%	36.0%	(参考)令和2年度市民意識調査					
成人の週3回以上のスポーツ実施率	18.9%	-	30.0%	17.1%	(参考)令和2年度市民意識調査					

- ◆スポーツイベントについては、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら参加しやすい環境づくりを行い、安心・安全なイベントの開催に取り組む。
- ◆スポーツ実施率の向上を図るため、各団体 (スポーツ推進員・レク協など)との連携を強化しながら、日田市の3大スポーツイベント (椿ケ鼻ヒルクライムレース・チャレンジウォーク・ひなまつり健康マラソン大会)をはじめ、誰もが気軽にできる軽スポーツや生涯スポーツの普及に取り組む。

	Ш	社会教育の充実	担当課	スポーツ振興課
教育行政実施方針	Ⅲ-第2	誰もがスポーツに親しめる環境づくり	1213本	スホーノIX 文 詠
	ı	スポーツ・レクレーションの振興	平均值	総合評価
【主な取組】	【主な取組】 ② 競技スポーツの振興		% 4	ЖВ

評価理由

新型コロナウイルス感染拡大防止のため各種大会の中止が相次ぎ、スポーツ激励金・賞賜金の交付額は大幅に減額となった。10月以降、徐々に全国大会が開催され、顕彰・情報発信を行うことができた。

新型コロナウイルス感染拡大のため事業の大部分が影響を受けたものの、競技意欲の向上や競技力の底上げに取組めた。

【個別評価】

事	業または取組名 トップアスリートの情報発信と顕彰	令和	口2年度事業費	1,473千円	担当課	スポーツ	振興課
事業目的・内容	つなげる。 ①激励金 県大会 人 1,000円 九州大会 人 5,000円		県 13件 26件 26件 (令 13件 (令 13件 (令 13件 (令 13件 (令 14年 (本 13年 (本 14年 (本	+ 46名 交付延べ人数 712 人 1名 長 個人 1名 3団体) 間4回(全国大会出場、 イルとなったことは 中止となったに減遅さる。 主全国大会が開催技 の大会が、競技で の大会が、 に全国大会が、 に全国大会が、 に会した。 に会している。 に会している。 に会している。 に会している。 に会している。 に会している。 に会している。 に会している。 に会している。 に会している。 に会している。 に会している。 に会している。 に会している。 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	2名) 寄贈など) 別かか かかかのの、出めの、 もめいる もいで、	まで付月者こ 報評価	* 4
事	業または取組名 日田市体育協会の競技力向上への支援	令和	口2年度事業費	1,020千円	担当課	スポーツ	振興課
事業目的・内容	競技力向上や指導者育成などを行う日田市体育協会に対し、助成を継続して行う。 ・競技力向上事業補助金交付 優れた選手の発掘・育成により、スポーツ振興を図るた	ず業取組・成果・評価	催のため、市体 強化練習に取り 決定されたこと た。 新型コロナウィ 大会は中止とな 体等の強化練習	業補助金 分県民体育大会は、ク 育協会では、7月より 別組んできたが、8月に から特別強化費の一 イルス感染拡大防止の いたものの、体育協会 習の取組に対して補助 とができたことから、言	競技団体等 :大会の中」 :大会の関と のため県民作 :か行う競技 か金の交付に	のがって育団よ	* 4

事	業または取組名 各種競技団体の連携·協働	令和	中2年度事業費	8,700千円	担当課	スポー	ーツ折	長興課
事業目的・内容	[目的] 各種競技団体が抱える競技人口の減少、高齢化などの課題に対応するため、スポーツ少年団や競技団体など各団体と日田市が、連携と協働、意見交換や情報共有等を図ることで、課題解決と競技振興を図る。 [内容] 競技団体で最大規模の日田市体育協会に対して補助金を交付することで、その組織力の向上を図る。 〇日田市体育協会補助金交付・日田市体育協会に加盟する競技団体の組織充実と連携強化・市民体育大会の開催・各競技の年間を通じた競技力及び選手強化を行う各競技団体に対して補助金を交付	事業取組・成果・評価の理由	技団体の組織引き支援した。 各種目部におイドラインに基づ 新型コロナウィアの各種目が、全 進大会を開くこ	中止 会に補助金を交付し 会に補助金を交付し いては、中央団体が定 がき、練習等を続けた。 イルス感染拡大防止の が開催する9月までの 国大会などにつながい とができなかったもの けし、取組への支援は	のための取 こめる競技 いため、協会 各種大会に の、協会に	組がな中予対し	評価	% 4

指標名	現状値目標値		目標値	令和2年度実績			
1日1赤石	(平成28年度)	(令和2年度推測值)	(令和3年度)	達成值	内容		
全国大会に出場する市民の人数	236名	280名	350名	46名	陸上、バドミントン、ソフトボール、剣 道、ボートなど		
県民体育大会の成績率	3位	3位以内	3位以内	_	中止のため		

【課題と今後の方向性】

◆令和2年度の大分県民体育大会・久大ブロック大会は、令和3年度に引き継がれたことから、競技力向上に向けた強化の取組を続ける。また、激励金等の交付による全国大会等への出場者への支援を行いながら、日田市体育協会と連携し、競技スポーツの振興に取り組む。

	Ⅲ 社会教育の充実		スポーツ振興課	
教育行政実施方針	Ⅲ-第2 誰もがスポーツに親しめる環境づくり	——— 担当課	NA. MARK	
	l スポーツ・レクレーションの振興	平均值	総合評価	
【主な取組】	③ スポーツによる交流人口の増加	*4.5	А	

「椿ケ鼻ヒルクライムレース」については新型コロナウイルス感染症拡大により中止したものの、「チャレンジウォーク」と「天領日田 ひなまつり健康マラソン大会」については、参加者数の制限やコース数の削減などの感染症対策を行いながら実施することができた。また、「ひなまつりマラソン大会」では、市外からの参加者に対し、参加権と宿泊をセットにした割引プラン「宿泊パック」など、新 たな取組を行った。更に、7人制ラグビー日本代表合宿を新たに誘致し、スポーツコンベンションの振興を図ることができた。 国際スポーツ大会事前キャンプの誘致に取り組むことにより、日田市の認知度やイメージアップを図ることができた。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大会の中止等があったが、開催に向けた工夫を行いながら実施することができた。

【個別評価】

由

事	業または取組名 スオ	ポーツコンベンションの振興とスポーツイベントの充実	令和	口2年度事業費	3,230千円	担当課	スポーツ	振興課
事業目的・内容	よって、日田市への図るもの。 [内容] 地域への魅力経済の、まながです。 といるでは、参加者の定着に、かからでは、参加者の定着に、の様に、かからでは、参加者の定着に、のがあります。		事業取組・成果・評価の理由	(併 第型 所) で体ルる ③ 新の、ス(の名) で体ルる ③ 新の、ス(の名) が、ス(の名) が、ス) では、 第 の が、ス) のの名。 第 の が、ス) のの名。 第 の がっている。 第 ののの名。 第 ののの名。 第 ののの名。 第 のののののののののののの	日田ひなまつり健康 イルス感染症対策としの提出、サーモグラス実施や分散スタート。 シールドの着用、パー 引会式の簡素化などで で参加申込者992だいた。 に連携し、宿泊パックを	イクで検フをマスイステを名をのってこれなり、一般コインのでは、ファイステを名ののでは、ファイスを発生した。 ファイン アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・ア	との「す」会一ほの設員ルーロー対のクーターを	* 4
事		際スポーツ大会事前キャンプ地誘致	令和	口2年度事業費	1,488千円 競技トレーニングキャ		スポーツ	振興課
事業目的・内容	キャンプ地誘致活動でする。 [内容] 「第32回オリンビ市にとってシティセキャンプの誘致を利力でよった。	ピック競技大会(2020/東京)」事前動を通して日田市の認知度やイメージ ピック競技大会(2020/東京)」を日田 ピールスの絶好のチャンスととらえ、事前 賃極的に推進する。 支トレーニングキャンプinひた 日本代表強化合宿ひた	事業取組・成果・評価の理由	日程:令和2年(木)場が1日程:令和日選・中部・日選・アクロ程:日報が1日報・日報・日報・日報・日報・日報・日報・日報・日報・日報・日報・日報・日報・日	11月17日(火)~ 1 会体育館(メインア! コーチ 合計15人 一日本代表強化合宿 12月15日(火)~12 主競技場 コーチ 合計30人 に向けた取組が進展 グビー日本代表合宿 のシティセールスにも	月26日 一ナ) Gひた 2月23日(z	()取	5

指標名	現状値	目標値	目標値		令和2年度実績
1日1水/口	(平成28年度)	(令和2年度推測値)	(令和3年度)	達成値	内容
スポーツイベント参加者数	4,086人	4,000人	4,960人	*	チャレンジウォーク・ひなまつり健康 マラソン大会各参加者数、スポー ツコンベンション来客人数

- ◆「チャレンジウォーク」、「ひなまつり健康マラソン大会」などスポーツイベントの効率的な運営方法の見直しに取り組む。また、スポーツコンベンションについては他課との連携も図りながら、インターネットを利用した申込など、交流人口の増加、市外からの誘客につながる事業に取り組む。引き続き感染状況に応じた対策を講じながら、各種事業の実施に取り組む。
- ◆令和3年度、7人制ラグビー日本代表強化合宿の誘致にも新たに取り組むことができた。今後も、スポーツ合宿の実績をPRしながら、 誘致活動に取り組む。

	Ш	社会教育の充実	担当課	スポーツ振興課	
教育行政実施方針	Ⅲ-第2 誰もがスポーツに親しめる環境づくり			714. 7 10 36 64	
	ı	スポーツ・レクレーションの振興	平均值	総合評価	
【主な取組】	④ 施詞	設利用の向上	5	А	

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月から6月まで施設休館が行われ、更に8月までの多くのイベントが中止になった。 9月以降は大会も徐々に開催されたことで施設の利用人数が増加したものの、目標値には達しなかった。

年度後半では、感染症対策として、手洗い蛇口の自動化や体育館トイレの洋式化工事等の実施により利用者の利便性の向上や安全対策が図られた。

理由

評

価

【個別評価】

事業	または取組名 計画的なスポーツ施設の整備と維持管理	令和	和2年度事業費	129,997千円	担当課	スポーツ	/振興課
事業目的・内容	[目的] 体育施設の整備改修を行うことにより、施設の安全性を確保し、市民の健康増進、スポーツ振興を図る。 [内容] 施設の利用状況などを勘案した整備計画により、整備を進め、安定的な施設の提供に努める。また、利用状況によっては、将来的な財政負担も踏まえ、施設の廃止・民間移管も含めた方向性についての検討を進める。 ①体育施設管理費(経常費) ・体育施設A・B群指定管理料 ・B&G中津江海洋センター指定管理料 ・清掃等委託料 ・修繕料 ・その他管理費 ②備品購入費 ・スタート発信装置 ・スターティングブロック	事業取組・成果・評価の理由	・体育の理育修 に	品 長置 人信号を伝える装置) ブロック 置の固定器具) ロイルス感染拡大防止 限、大会等の中止のた	中津江海洋 (他トイの用でイン	

【教育行政実施方針の目標達成度】

指標名	現状値	目標値	目標値	令和2年度実績		
1日1水石	(平成28年度)	(令和2年度推測値)	(令和3年度)	達成值 内容		
スポーツ施設 (市所管の58施設) の利用人数	438,837人	434,000人	550,000人	250,523人	スポーツ振興課所管58施設利用者合計	

【課題と今後の方向性】

◆効率的な管理運営を推進するため、スポーツ施設全般に係る長寿命化計画を策定する。

	Ш	社会教育の充実	担当課	スポーツ振興課	
教育行政実施方針	Ⅲ-第2	誰もがスポーツに親しめる環境づくり	1213本	八八	
	I	スポーツ・レクレーションの振興	平均值	総合評価	
【主な取組】	⑤スポ	ーツボランティアの振興	% 4	ЖВ	

評価理由

日田市体育協会やスポーツ推進委員協議会等の関係団体との連携により、スポーツイベントスタッフの確保を図ることができた。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため各種スポーツイベント等を中止・縮小したものの、「ひなまつり健康マラソン大会」においては、新たな企業ボランティアが加わるなど、多くの団体に運営ボランティアとして協力いただいた。

【個別評価】

事	業または取組名 スポーツイベントボランティアの育成と組織化	令和	中2年度事業費		3,230	千円 担	当課 スポ	゚゚゚゚ーヅ゙゙゙゙゙゙゚	長興課
事業	 【目的】 日田市のスポーツ振興を支えるスポーツボランティアの普及や組織化を図るもの。 [内容] 市主催スポーツイベントにおける支援体制を図る中で、ボランティアの普及・啓発、組織化を目指す。 	令 事業取組・	第7回椿ヶ鼻ヒルクラレース (併催:第5回JBCF 鼻ヒルクライム) 第26回水郷ひライム) 第26回水郷ひライム) 第210 第210 第210 第210 第210 第210 第210 第210	カイム 椿ヶ た ク ひな		, , ,			
《目的・内容		成果・評価の理由	合計 各イベントにお等、多くの個したえの充実を図るこ 新型コロナウィの中止や縮小に年度の60%に決においては、イベ民・企業の新たした。	団市が スリーレス	、企業等の はポーツ振いできた。 感染拡大ドイベントスタ たものの、 スタッフとし	参画をい 動画をい カ止のたる カッフの数 ひなま業に	ただき、イ る支援体制 めイベント が令和元 リマラソン 協力する市	評 価	* 4

【課題と今後の方向性】

◆スポーツの普及拡大のためにはボランティアの存在は重要であり、ボランティア育成と組織強化のため、スポーツ団体に限らず様々な団体にイベント支援を積極的に呼びかけていく。

IV	文化芸	芸術の	振輿	通し番号	担当課	総合		
	第Ⅰ	ふるさ	との歴史・文化の保存とえ	心し留う	担当杯	評価		
		Ι	ふるさとの歴史・文化の保 存と未来に向けての活用	①	歴史・文化の保存と活用に向けた取組の充実	45	文化財保護課	Α
	2 保存と活用に向けた環 境の整備		①	保存と活用に向けた環境の整備	46	文化財保護課	А	
		3	愛護意識の高揚と 愛護活動への支援	①	文化財の普及啓発の推進	47	文化財保護課	ж в
		4	咸宜園教育等の普及 啓発と世界文化遺産登 録	①	咸宜園教育研究センターの取組と 世界文化遺産登録の推進	48	咸宜園教育研究センター・世界遺産推 進室	ж в

	Ⅳ 文化芸術の振興		担当課	文化財保護課	
教育行政実施方針	Ⅳ−第Ⅰ	ふるさとの歴史・文化の保存と未来へ向けての活用	12.3 酥	人们对外破坏	
	- 1	ふるさとの歴史・文化の保存と未来へ向けての活用	平均值	総合評価	
【主な取組】	①歴史・文化の保存と活用に向けた取組の充実		5	А	

市内に残されている貴重な文化財の活用を図るために、建造物などの有形文化財の所有者や無形文化財の継承者、民俗文化財 等の保存団体に対して、経済的負担を軽減する補助金を交付することで、文化財の適切な保存及び継承ができた。

価理由

【個別評価】

事美	業または取組名	指定文化財等保存補助(有形:無形)事業	令和	和2年度事業費	775千円	担当課	文化則	け保証	護課
事業目的,内容	る民俗芸能やは 後継者の一地域を また、所の。 「内容形で、 での。 「内容形で、 での。 「内容形で、 での。 「内容」 で、 での。 での。 での。 での。 での。 での。 での。 での。 での。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる	残る有形文化財や史跡等の文化財についよる保存・管理・活用が行われているが、 費用がかかるためその一部を助成するも ・民俗文化財 ・保存会・五馬くにち楽保存会(2地区)・ 会・小鹿田焼技術保存会 ・計画本殿管理事業・長福寺本堂管理事 宅管理事業 が)		統図な野た練指な術増 ②貴財 新風祭形成 エボゲ型める映っのやを事存す 形す適 型曳行化る 文文切 ロ山事財と 化化管 かいまり かいまり かいまり かいまり かいまり かいまり かいまり かいまり	重な祭礼行事や民俗 を術について、文化財のた。 コナウイルス感染症の こる地域の祭礼行事は 存団体では太鼓にの所作の点検 が、小鹿田焼では、外 即を変更することとなった。 指導者による後継者の 継者の育成に取り組ん	の影悉なな部たのだことの楽形費が存っているなどが研が研だといい。 いいないでですがいい はいないでいっきい はいはいきいい ほうだい はいじゅう しょくりきのの とりまい かいしょくりきん かいしょく かいしょう しょうしょく しょうしょく しょく かいしょく かいしょく かいしょく かいきん かいしょう しょうしょく かいしょう しょうしょく かいしょう しょう かいしょう かいしょう しょう かいしょう かいしょう かいしょう かいしょう しょう しょう かいしょう しょう かいしょう しょう かいしょう しょう しょう しょう しょう しょう いっぱん いんしょう しょう いんしょう いんしょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう	を 大れ物の中技な 文 田部のを基本 大れのの止 化 祇の無助業	評価	5
事美		鵜飼保存対策事業	令和	和2年度事業費	3,600千円	担当課	文化則	け保 語	護課
事業目的・内容	確保が重要だ。 飼料の購入をきた、棹差しに対 飼を継続してい 継承していくた [内容]	ていく中で、鵜の飼育に欠かせないえさのが、費用と手間がかかり、特に冬場は冷凍余儀なくされ、多大な経費が必要である。まする委託料や光熱水費にかかる経費も鵜く中での負担となっており、鵜飼を保存・めの必要な経費補助を行うもの。	取組・成果・評価		輔助対象経費 Ⅰ円			評価	15

【課題と今後の方向性】

◆各種文化財に関しては、国・県・市指定を問わず、未来への保存・継承が大きな問題となる中、楽など神事にかかる行事などは後継者の減少が問題となっているところだが、中でも鵜飼は、後継者の不在が深刻な問題となっていることから、現行の補助事業を継続するとともに、令和3年度から「日田市文化財保存活用地域計画」を策定する中で、課題の解決を図っていく。

	IV 文化芸術の振興		文化芸術の振興	担当課	文化財保護課
教育行政実施方針		Ⅳ−第Ⅰ	ふるさとの歴史・文化の保存と未来へ向けての活用	12.3 疎	人们的 休设际
		2	保存と活用に向けた環境の整備	平均值	総合評価
	【主な取組】 ①保存と活用に向けた環境の整備		4.8	А	

評価理由

伝統的建造物群保存地区では、建造物の修理工事に対し補助を行うとともに、屋外消火栓設置など計画に沿って行った。 古墳群の保存整備を進めている史跡ガランドヤ古墳に係る事業については、計画通りに施設建設を完了させることができた。 このほか、日田祇園山鉾などの用具類の新調・修理や草野家住宅、廣瀬淡窓旧宅の保存に関する補助事業についても事業計画ど おり進めることができ、文化財の適切な保存と活用に向けた環境の整備が行われた。

【個別評価】

事業または取組名		日田祇園山鉾保存修理補助事業	令和2年度事業費		2,538千円 担当課		文化財保証		護課
事業目的・内容	に欠かすことの 類の新調・修理 [内容] ・大宮町の見〕 ・若宮町の棒: 事業主体:日田 財源内訳:(国)	無形民俗文化財「日田祇園の曳山行事」できない山鉾・見送幕・水引幕等の用具きを行うことへの補助。 送幕の復元新調に対する補助 即替修繕に対する補助 別祇園山鉾振興会 50% (県)8% (市)21% 現会)21%	事業取組・成果・評価の理由	【事 業 費】 【市補助金】 令和2年度は、 俗文化財である	采存修理補助事業 12,085,700円 2,538,000円 計画どおりに事業を る日田祇園の曳山行事 きたことから、評価を5	事の保存と		評価	5
事	業または取組名	文化的景観保護推進事業	令和	口2年度事業費	12千円		文化	財保	護課
事業目的・内容	い、地域の生活代へと継承して向けてガイドラー [内容] 長年課題とな画に係る重要な観計画に係る景及び修景等のご	の里」選定区域内の景観保全と整備を行い生業に根ざした景観を地域で守り、次世いくため、建築物の修理等の維持管理にインの整備に取り組むもの。 っている小鹿田焼の里文化的景観保存計な構成要素や保存整備方針及び日田市景景観形成基準の見直し、物件の復旧修理工事に係る補助制度の整備が必要となっこれらの課題解決に取り組む。 の開催 2回	事業取組・成果・評価の理由	市訪聞、います。議会 化 間な 観点 いり 協員 景 調 これ まい まい か 形 で まい が 地 要 の 成 助 こ が れ 景 係 か っ 成 助 こ と 準 、 後 、 本 と 、 ま と と と と	象聞き取り調査の実施 の対象・皿山地区の全も で変文化的景観に関する のででである。 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 を実施したものの素や及る。 を実施したものの素や及るが、 を変更の整備などの見た。 のを発したいたをのといたを多と をことから、評価を3と	世帯 見 に で は で は で に で の を 情 い の を 情 等 に の らを 情 等 協 会 に の を 情 等 協 会 も が き が き き しゅう いっぱい かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう しゅうしゅう しゅう	fl) けら、 事で がで	評価	3
事訓	業または取組名	伝統的建造物群保存地区保存事業	令和	口2年度事業費	25,827千円	担当課	文化	財保	護課
事業目的・内容	地区)に選定される。 に選する観し、まする観し、文化事業としてをもてるまで、「内容」である。 では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	国の重要伝統的建造物群保存地区(伝建れた豆田町は、歴史的町並みが残る日田 記光地でもある。 して、伝統的な町並みを適切に維持保全 で後世に残すことにより、市民が誇りと愛着 くりを目指すもの。 する建造物の保存修理工事に対する補助 は木造家屋が密集していることから、防災 自らが行う有事の際の初期消火活動に 火栓の設置を、市の直接事業として実施 災訓練	事業取組・成果・評価の理由	件の補助事業を ②屋外消火栓の ができ、地区内 計で31か所とす ③文化財防火き 協力して防火部	ら伝統的建造物の修理 を実施することができたの設置も予定どおり3. の設置計画全37か所なった。(進捗率 849 が一では、規模を縮小川線を行った。	た。 基設置する 所に対して、 6) し、地元住	こと 累 :民と	評価	5

事業	美または取組名	草野家住宅保存整備事業	令和	中2年度事業費	3,500千円	担当課	文化則	才保言	養課
事業目的・内容	は、一部を除きるとは、一の状工。 (内業業業別内 概要事事源 で 要 で で の で で で で で で で で で で で で で で で	国の重要文化財に指定された草野家住宅経年による老朽化が進んでいたため、健全することを目的に、平成26年度から耐震かた抜本的な修理事業に取り組んでいる 登載輔 (26~令和3年度(8か年) (場)8%(市)3.5% ほか5棟の解体修理工事、 (修理	事業取組・成果・評価の理由		】I 億円 3,500千円		ら、評	評価	5
事業		ガランドヤ古墳群保存整備事業	令和	中2年度事業費	30,143千円		文化則	才保言	養課
事業目的・内容	保存継承するも [内容] 史跡の事業に 全体和2年の ・ガイラ ・対ララを ・2号存割 ・保担割 ・保担担 ・保担担	公開に向けて整備を進めていく。 引】平成16年度〜令和4年度 業の主な内容】	事業取組・成果・評価の理由	予定どおり実施・施設内の温湿・保存整備委員・そのほか、大雨設の土台部分かた。	受建設工事(2ヵ年計算 した。 度データの収集を行っ 会についても書面に 前により損壊した2号増 や一部のロープ柵等の 供用開始に向けて計画 とから、評価を5とした	った。 て開催した 賃環境調査)補修を行 画どおりに	。 施 つ	評価	5
事業	美または取組名	咸宜園跡保存整備事業	令和	口2年度事業費	2,697千円	担当課	文化則	才保言	養課
ず業目的・内	て活用するため に整備を行うも [内容] 西家側(塾のでしているのでは、 計画」を策定し 【全体事業期間	西側)の発掘調査や文献調査などを実施 果を踏まえて「保存活用計画」、「整備基本 進めていくもの。 引】平成15年度〜令和11年度 業の主な内容】		の最終年で、西 て後世まで残さた 掘調査を行った 発掘調査の結 存在が期待され 認されなかった 令和2年度に	果、咸宜園時代の建物では、 はた井戸の周辺から、	園の井戸」 辺約80㎡ 物等の痕跡 その痕跡は	とし の発 な な な な な な な な な な	評価	5
事業	美または取組名	廣瀬淡窓旧宅及び墓保存整備事業	令和	口2年度事業費	4,142千円	担当課	文化則	才保言	養課
事業目的・内	及び墓」の旧宅との著しいる名がいるものに名がいるものに名がいるものに、「内業主期曹・408,5財源内訳:(国)は、「所権を関する。」のは、「所権を関する。	和貞 (27~令和7年度(IIか年)	事業取組・成果・評価の	【修理事業費】 【市補助金】 【累積進捗率】 令和2年度は、 修理や外登される そのほか、文化 会は2回開催し		、屋根面に 実施した。 呆存整備委 とした。	おい	評価	5

事業	きまたは取組名 重要文化財建造物保存修理事業	令和2年度事業費 11,936千円 担当課 文化財保護課					
事業	[目的] 屋根の腐食や、柱の歪みなどによる重大な毀損の可能性がある重要文化財(建造物)を保存・継承すること [内容] 令和3年度から実施する重要文化財(建造物)「行徳家住宅」の保存修理工事に向けた実施設計等を実施・文化庁指導 回(月リモート実施)	事業取組・成果・評価の理由	存修理工事に向要性の確認のが成を実施した。 令和3年度かた設計等の取締	建造物)「行徳家住宅 可けた実施設計及び所 こめの地盤調査並びに ら実施する保存修理コ 出をスケジュールどおり 評価を5とした。	対震補強の必 に補強案の作 エ事に向けた実	評価	5

指標名	現状値	目標値	目標値	令和2年度実績		
1日1水/口	(平成28年度)	(令和2年度推測值)	(令和3年度)	達成値	内容	
伝統的建造物修理済建造物数 (累計)	39件	49件	50件	50件	・水田家2年目(完了)・石井家1年目・長福寺木塀(完了)	
史跡咸宜園跡の入場者数	21,365人	23,000人	23,000人	5,444人		

- ◆文化的景観保護の推進のため、策定されてから約10年が経過している文化的景観保存計画については、生活様式の変化に合わせた制度の改正が急務であることから、住民との協議を進めていく。
- ◆令和3年度に保存整備事業が完了予定の草野家住宅や、令和4年度の修理工事の完成を経て一般公開を再開する廣瀬淡窓旧宅については、歴史的建物や町並み保存を推進するため、引き続き、支援を行っていく。
- ◆文化財の価値を顕在化し、地域の文化財の重要性を広く情報発信するために、引き続き、保存と活用に向けた環境整備に取り組むこと が必要となる。
- ◆史跡の保存整備を推進するため、令和3年度中の公園供用開始に向けて整備工事を進めているガランドヤ古墳群については、今後2号墳の環境調査を3~5年間行った上で、保存のあり方について検討を行う。また、令和2年度に発掘調査が完了した咸宜園跡については、今後、調査報告書、保存活用計画、整備基本計画を計画的に作成し、史跡の整備を進める。



草野家住宅 高校生現場見学会



ガランドヤ古墳のガイダンス施設

	IV	文化芸術の振興	———— 担当課	文化財保護課
教育行政実施方針	IV-第Ⅰ	ふるさとの歴史・文化の保存と未来へ向けての活用	12.3 酥	人 旧州 休暖味
	3	愛護意識の高揚と愛護活動への支援	平均值	総合評価
【主な取組】	①文化	財の普及啓発の推進	% 4	ЖВ

平成30年度に改訂版を作成した子ども向けの冊子『子ども版 日田市の歴史と文化財』を市内小学生に計画どおり配布した。考 古学講座は市民に身近なテーマで開催したことで、新たな受講者層を獲得することができた。 しかしながら、埋蔵文化財センターの入館者については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館を余儀なくされたこと、また、

小学校からの見学者数が減少したことが影響し減少したが、予定されていた事業は実施することができた。

価 理 由

【個別評価】

	別評価】	日田市の歴史読本配布活用事業	A1	口2年度事業費			+=	当課	文化與	14/12	## · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
事業目的・内容	[目的] 郷土の貴重な 年度に改訂版? 日田市の歴史と までの5年間に をもつための教 [内容] 市内の小学校 市の歴史と文化	文化財を後世に守り伝えるため、平成30年作成した子ども向けの冊子『子ども版で文化財』を、令和元年度から令和5年度わたり小学校6年生に配布し、地元に愛着材として利用してもらうもの。 6年生に、学校を通じて『子ども版日田に財』を配布する。 令和元年度から令和5年度までの5年間	事业	マース 事業員 令和2年度配布 計画どおり本情に活用されたこ	冊子を	配布する	ことができ			評価	5
事業目的,內容	高めるため、考をまたななど、実施、学校などでででででいます。 「内容設 報展できる。」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	などの体験教室をセンター主催事業や公 との共催により実施するもの。		12年度事業費 〈埋蔵文化財センター人 考古 孝 見学 学が 関地 といって では では でいます できます できます できます できまり できまり できまり できまり できまり できまり できまり できまり	f	R2 109人 49人 (全6講人 (全7回) 14人 体数に 数がに 防 見 セ 体がに 防 見 セ ないれい 見 セ	空等参加者RI269人58人(全)393(4)15人展な受がたがたがたがたがたがたがたがある展さなの数クー	数〉 ▲ 16 ▲ 16 A 16 A 16 A 17 A 17 A 18 A 18	50人 人 人 発保新館とい	財保	※ 3

【教育行政実施方針の目標達成度】

指標名	現状値	目標値	目標値		令和2年度実績
担保石	(平成28年度)	(令和2年度推測值)	(令和3年度)	達成値	内容
ホームページ等による情報発信数	7件(H27)	12件	12件	16件	市HPII回、広報ひた5回(講座募集等)
古文書入門講座受講者数	38人(H27)	45人	50人	44人	講義5回・バスツアー1回 (延べ196名参加)
考古学講座受講者数	60人(H27)	60人	65人	49人	講義6回(延べ207名参加)
埋蔵文化財センター入館者数	269人(H27)	350人	600人	109人	常設展示 企画展示(3.16~)
考古体験参加者数	456人(H27)	500人	500人	262人	火おこし体験、考古講話、現地見学 等7件
現地見学会等参加者数	_	150人	150人	14人	史跡小迫辻原遺跡草刈ボランティア(II/5) 4名
伝建修理現場研修会の開催	19回	2回	2回	7回	草野家住宅(7回)

【課題と今後の方向性】

◆幅広い年齢層の市民に興味や関心を持ってもらい、引き続き、地域の文化財に対する愛護意識の高揚を図り、郷土の貴重な文化財を後世に守り伝えるため、歴史読本の配布や各種講座の開催、埋蔵文化財センター企画展などを実施する。



考古学講座風景

教育行政実施方針	IV一第 I	文化芸術の振興 ふるさとの歴史・文化の保存と未来へ向けての活用	担当課	咸宜園教育研究 センター・ 世界遺産推進室
	4	咸宜園教育等の普及啓発と世界文化遺産登録	平均值	総合評価
【主な取組】		園教育研究センターの取組と世界文化遺産登録の推進	% 4	% В

咸宜園教育研究センターでは咸宜園の教育内容や門下生、教育遺産等に関する調査研究、展示会や公開講座を実施し、その成果を研究紀要として刊行するとともに、ホームページの内容を見直すことにより、より分かりやすく情報発信をすることで普及啓発に取り組めた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講演会やイベント等は中止または縮小し、咸宜園教育研究センターの入館者数は大きく減少した。

世界遺産登録推進事業については、教育遺産世界遺産登録推進協議会は、世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書の作成及 び刊行並びに文化庁へ暫定一覧表追加要望を実施したことで、国内暫定一覧表追加記載に向けた取り組みが進展した。

価

日田市日本遺産魅力発信推進事業については、市民協働による地域活性化として日本遺産PRグッズのデザインマスクを作製し、 咸宜園と豆田町のPRに取り組んだ。また、観光客受け入れ体制の強化として咸宜園跡と咸宜園教育研究センターにフリーWi-Fiを 整備し、来園者の利便性の向上を図った。

【個	別評価】												
事業	美または取組名	咸宜園教育研究センター運営事業	令和	02年	度事業		19,126	千円	担当	当課	咸宜園	教育研	研究センター
		淡窓等に関する調査研究及び関係資料 を行うことにより、その理解を深め、教育、		《公			遣及び企画 講師派遣数						
	学術や文化の向	可上に寄与すること。		RI	6回	227人	6回	386	人	6,63	日人		
	[内容] 〈咸官園教育研	「究センターの管理運営及び公開、咸宜園		R2	5回	118人	3回	90.	人	2,76	5人		
		査研究や普及啓発事業など〉		増減	▲□	▲109人	▲3回	▲29	6人	▲ 3,8	66人		
事業目的・内容	る情報収集、全 に外部研究機関 ・咸宜園教育研 者の育成等 ②普及啓発・情 公開講座、成	史料を基にした調査研究、門下生に関す 国に所在する教育資産(主に私塾)、並び 貫への調査委託等 究センター研究奨励事業による若手研究 報発信 宜園教育顕彰事業、交流事業等の開催や 开究紀要発行などによる情報発信、展示	事業取組・成果・評価の理由	一コき査もたの者こ ② が名た まのが等少発こにを 対がを付いなを計 研じと 普倍受が。た2.2、がし行のまに 主策で	弋ナか行画⊤究とヾ 及阝講聴 、と7中たしゆらF 己をき塾ウっうど究成にさ 啓師丿講 秋春5ょ(で)、た化 取講たが	ルがとり励果5た 発ににす 季季名この マニン 組なべ、ス、がに事が名。 情よいな 血血でなほ ム刊掲 にが成感オで実業得よ 報る、ど 風画同た、 ペ行載 つら果染うき施でれる 発気職広 あの時こ研 一物し いう指	に関する は大 大 大 は は は は は は は は は は は は は	たス別周択施い 5遺を の品れ年0 見事に コニ館め、活学成か、市 回も行 私員るに号 直業努 ウ業数	現用と果がきす 、回う、塾で市と計・2段か、小をは地しのをかっに 延でと とは主代ブ画 行名。 ス完目	調た共得いた べびが 教入崔大い 子会 く了 香資同た「た公 「べ出 育場イ幅ど うの 感する半調。年採表 「そべぎ 者者べにお」と内 染る	は料理ま間択す 3.70米 に数い減に も容 症にで調査ま間択る 名0米 そ数い減に も容 症と	評価	* 2

事業	業または取組名	咸宜園普及啓発刊行物作成事業	令和	口2年度事業費	824 千円	担当課	咸宜園教育	育研究センター
事業目的・内容	るために、調査するために、調査するために、調査する。 ち、学容」では、 一体会のでは、 一体のでは、	や漢書体で書かれた歴史資料を理解す研究成果を分かりやすく伝える刊行物をすることで、市民が郷土の歴史に興味を持場を広げること。 刻や読み下しを行い、廣瀬淡窓日記続編教育研究センター収蔵品目録や歴代塾・シリーズの刊行、淡窓先生ものがたりのミー冊刊行する。 (31年度~令和10年度窓先生ものがたり) 廣瀬淡窓日記続編3 成宜園教育研究センセンター収蔵品目録歴代塾主ブックレットシリーズ	事業取組・成果・評価の理由	ものがたり」を刊 刊行物名:淡濱部 数:3,00 配 布 数:549 今後、令和6年	窓先生ものがたり 00部 7部 E度まで配布を継続し 、予定どおりに事業が	、残部は販	売。	
事業	業または取組名	咸宜園教育研究センター設備改修事業	令和	中2年度事業費	2,451 千円	担当課	咸宜園教育	育研究センター
事業目的·内容	究センターの設 [内容] 来館者など不	(ルス感染症対策のため、咸宜園教育研 構改修を行い、感染防止を図るもの。 特定多数の人間が接触する部分の自動 者の検温・消毒を実施するための機器を設	事業取組・成果・評価の理由	③トイレの自動が ④館内誘導用/ ⑤入口に自動が	自動点灯化 一式 洗浄化 5台 パネル設置 1ヶ所 肖毒器・検温器の設置 、予定どおりに事業が		、 るこ 評価	
事業	L 業または取組名	世界遺産登録推進事業	令和	中2年度事業費	4,410 千円	担当課	世界遺産	上 全推進室
事業目的・内容	園」の世界では、			教は成定学提提令日令 ②・民実概令 ※た・ 新定育型では覧会書書2市3 及国一施要2 型の田型事業のの年世年 啓喚又体瀬は サーコ エス 東 東	(催数:計5回 ・令和2年10月 ・令和2年10月 ・暫定一等 ・暫定一等 ・暫定一等 ・暫定一等 ・動力 ・動力 ・動力 ・動力 ・動力 ・動力 ・動力 ・動力 ・動力 ・動力	で補る 望 開研 舌 「対力」 じ登録性とと 実 催空 化 調と め が推進部書に 施 ン 事 査し 中 ら進齢の書い は 単 の ま の は 単 の ま の は 単 の ま の は 単 の ま の は 単 の ま の は 単 の ま の ま の ま の ま の ま の ま の ま の ま の ま の	を暫 フ (

事業または取組名	日田市日本遺産魅力発信推進事業	令和	2年	度事業費	1,2	06	千円 扌	担当課	世界	遺産	推進室
[目的]	マナ 平は七 戊ウ国ナムン数女字立形の次		《各	事業の実施	極状況≫						
	そを受けた咸宜園を含む教育遺産群の資 光振興·地域活性化を図るもの。		E	本遺産公	開講座	日	本遺産子	子どもガ	イド		
〔内容〕				回数	受講者		養成人	数ガイド	参加者		
	域活性化のため、市民向け講座などの市 をすすめるとともに、観光客の受け入れ体		RΙ	5回	221人	RΙ	12人	. 12	2人		
	的な情報発信を行う。		R2	2回	56人	R2	_		-		
	よる地域活性化		増減	▲3回	▲165人	増減	-				
7 7 7 7 2 1]講座等の実施ほか		日本	遺産中学生	英語ガイド						
O 1751 174 1	入れ体制の強化 S遺産ガイドの養成ほか			養成人数	ガイド参加者						
③普及啓発・情	器報発信		RI	15人	258人						
SNS等の活用			R2	-	-						
			増減	-	-						
事業目的・内容		事業取組・成果・評価の理由)・一令新始7・日・(構 ②・・・の配※た・・・携 ③・F情・・・予の日令新の名はは日は成 観覧に力サ布新もおおは、・普Nはな報は、新定の	光内本州一 型の本本本中 及S本eb発本 型事、元光内本州一 型の本本本中 及S本eb発遺 コ事、年客リ産のス ロ 産産産市 発の産は、ロ業本年(のでは、サーウ・ど学内30、情用一の・シーウを産のでは、	講9小月小デッ産協 ヘート内遺ア ィーも生連朱 報 ムS ハーハ、公上の「外別してアズ活会」、体整山産九 スーグ 英携 、 発 ペS in スつ開(感の開実の性商 制備口認九 尽 ド語(豊 信 シを 今 感の講文のとのです。	講 拡2。事が懇会 強 き自山 拡 成がよ高 コ用 出 症業の) 大講 業ン話議 化 含治ロ 大 事養産市 シナ 展 対を回	方に マ会所 む本の 防 業成認・ テニ R	対定 製 傷 し貴 た 治市 充産 1 な%のでである。 な と で で で で で さ で さ で で	名 0 で 道プ と 連 や等 のた数を	評価	* 4

【教育行政実施方針の目標達成度】

	現状値	目標値	目標値		令和2年度実績
	(平成28年度)	(令和2年度推測値)	(令和3年度)	達成值	内容
咸宜園教育研究センター入館者数	26,812名	23,000名	25,000名	5,444名	新型コロナウイルスの影響で移動の自粛・制限、咸宜園教育研究センターの臨時休館、市の行事が中止になる等の影響で入館者数は著しく減少した。

【課題と今後の方向性】

- ◆咸宜園の入館者数は平成29年度までは目標値を超えていたが、平成30年度(入館者数21,984名)からは減少傾向に転じており、令和2年度では、目標値を17,600人ほど下回っている。減少の要因として、新型コロナウィルス感染症対策のため、休館したことや市内での各種イベントが中止になったことによるものである。今後は市観光課や観光協会などとの連携を強めて、修学旅行生の勧誘や豆田町からの誘客を工夫しつつ、咸宜園の新たな魅力を提供する取組や情報発信(ホームページを活用した展示、収蔵資料の紹介やFacebook、スマートフォンによる日本遺産アプリ活用等)をさらに充実させ、引き続き感染状況に応じた対策を講じながら、施設開放に努め、入館者数の増を目指す。
- ◆世界遺産登録推進事業では、国内暫定一覧表への記載を目指し、水戸市・足利市・備前市と協働し調査研究及び普及啓発を進めていく。更に、ホームページやFacebook等で情報発信を行うと共に、咸宜園平成門下生之会等の各種団体との連携を進め、世界遺産登録に向け、市民と一体となった機運醸成を進めていく。
- ◆日田市日本遺産魅力発信事業では、構成文化財を活用した観光振興と地域活性化を進めるために、日田市日本遺産活性化懇話会 (豆田町等の自治会、豆田町商店街、観光協会、商工会議所等で構成)や日本遺産の認定を受けている県内外の自治体等の関係機関 との連携強化に務めていく。

IV	文化艺	芸術の抗	辰輿			通し番号	担当課	総合
	第2	誰もか	、文化・芸術を親しみ、学^	べる環境	竟づくり	7	1二二 环	評価
				①	文化活動及び鑑賞のための機会の充実	49	社会教育課	жс
		1	誰もが文化に接することができる環境の整備	2	人材の育成及び確保	50	社会教育課	жс
				3	情報の発信及び収集	51	社会教育課	% В

	IV	文化芸術の振興	担当課	社会教育課
教育行政実施方針	Ⅳ-第2	誰もが文化・芸術を親しみ、学べる環境づくり	12.3 酥	仁云狄月 酥
	ı	誰もが文化に接することができる環境の整備	平均值	総合評価
【主な取組】	① 文化	化活動及び鑑賞のための機会の充実	%3.4	жc

日田市民文化会館(パトリア日田)における自主企画イベントをはじめ、市民文化振興基金を活用した芸術鑑賞バスツアー、小・中学生から高齢の方まで幅広い年齢層が参加して開催される文教祭など、新型コロナウイルス感染症の影響により計画していた事業が中止となり、文化活動と鑑賞のための機会が失われた結果となった。

価 しかしながら、市制80周年を記念した「特別企画展」では、趣向を凝らした内容により、一定程度の成果(入場者数)が得られた。ま た、高校生の作品を展示する機会が提供されたこともあり、学校の授業の一環として企画展の鑑賞が取り入れられるなど、相乗的な 由 効果も見られた。

【個別評価】

事	業または取組名 日田市民文化会館(バトリア日田)における舞台公演や展覧会などの開催	令和	口2年度事業費	146,772千円	担当課	社会教育	課
事業目的・内容	「目的」 市民の文化芸術に親しむ気運の醸成が図られるよう、日田市民文化会館(パトリア日田)において、優れた芸術鑑賞機会を提供するとともに、ワークショップやアウトリーチなどに取り組む。 「内容」 指定管理者が、「日田市民文化会館管理業務仕様書」や「日田市民文化会館活性化計画」に基づき、自主企画事業及び受託事業を実施する。		主企画事業及で 実施事業数:1 実施・17)日、38,630日(38,630日(の 50.8%(ラップ) アウトリア(の ・パトリア(の ・パトリア(の ・パトリア(の ・パトリア(の ・パトリア(の でが、まか を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	6 (計画事業数:33、 年間)利用者数 ト和元年度131,382 年間)移動率 元年度69.7%) 型の体力ンの会長 一次のるコーリーのの は関連を がいたのではいいのでは がいたがいではいいのでで がいたがいですると80人以上 にに対して にいいないがである。 にはいいでは にいいので にいいので にいいいので にいいの にいいの	中止・延期の引動をの引動をのの対象を	事では、今落員	* 3
事	業または取組名市民文化振興基金補助事業	令和	口2年度事業費	_	担当課	社会教育	課
事業目的・内容	[目的] 市民の文化芸術に親しむ気運の醸成が図られるよう、優れた芸術鑑賞機会を提供するもの。 [内容] 市民による寄付金等を積み立てた基金を活用した事業の実施・芸術鑑賞バスツアー(年間1回)・公演招聘事業については、パトリア日田の事業が充実していること、また、招聘には多額の費用を要することから、平成30年度以降は当面実施しない。	争業取組・成果		(ルス感染拡大防止の の提供が全くできなが			* 2

事	業または取組名	日田市文教祭開催事業	令和	如2年度事業費	15千円	担当課	社会教	育記	 果
事業目的・内容	の向上、さらには 材の育成を目的 供するための催 [内容] 財政及び人的]支援のもと、各団体の実行委員会や学校 、9月~11月の3か月間で、15事業(県の	事業取組・成果・評価の理由	生活文化優(華田映像⑥女子・ (本年) (本年) (本年) (本年) (本年) (本年) (本年) (本年)	[3]①日田市美術展② 達道·茶道)④民謡邦等 芸の集い俳句大会⑦ 芸術祭 小学校読書感想画・ 美術展⑪小中学校書	祭の秋宴(5 育 秋 工 展 (2) イ マ ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス	日お学校 展) 事後	評価	* 2
事業目的・内容	[目的] 美術品の鑑賞 寄贈された作品 平画伯の作品? [内容] 日田市複合文	所蔵美術品等公開事業 機会の確保と充実を図るため、市民から品や当市出身の岩澤重夫画伯や宇治山哲を公開展示するとともに広く発信する。 化施設AOSE美術展示ギャラリーにおいるコレクション展(常設展)及び特別企画入場無料。	令 事業取組・成果・評価の理由	<mark>の2年度事業費</mark> ※令和2年度は 下記事業に詳紹	61千円 は「特別企画展事業」》 田を記載。		All D	育	一
事	<u> </u> 業または取組名	特別企画展事業	令和		2,007千円	担当課	社会教	育記	 果
事業目的・内容	り、優れた作品 表の機会が提作 成につながる。 [内容] 当市出身の次 夫氏の意思を 展示ギャラリー	生の作品を同じ空間に展示することによの鑑賞機会と児童生徒の文化活動の発 共されるとともに、未来につなぐ人材の育 は世代作家の輩出を望んでいた、故岩澤重 反映し、日田市複合文化施設AOSE美術 において、「市制80周年事業」(特別企画 する。(「常設展」と併催、入場無料)	事業取組・成果・評価の理由	のカンバスー 1/17~2/14 入る数1,05 人場考まで、 一次の 一次の 一次の 一次の 一次の 一次の 一次の 一次の 一次の 一次の	81人(1日平均37.3 元年度「常設展」> に年度「常設展」> に(92日間)」 50人(1日平均20.1 祭特別行事の入場者間 には、大きく及ばない。 新型コナウイルス感 行事の中止や常設展 ける平均入場者数を大	人) 人) 数場 を合わり 染症縮ない の短短縮ない 合、令和元	せの響ご年	評価	5

事美	事業または取組名 市民文化会館設備等計画補修事業		令和	, , , , , , ,			社会教	会教育課		
事業目的・内容	効率的に行うこのリスクを回路に交換周期がら補修を予ります。現況に合わりまり、現況に合わり、現況に合わり、「内容」	び現況に基づき、各設備機器の整備補修を とで経費の圧縮と施設利用時の事故等 し、安全で安心な施設の管理運営を図る る。 を過ぎた機器、または更新期が近いもの としているが、毎年の定期点検の結果を受 せて計画を見直し、効果的な補修を行う。 出に基づき、施設設備の補修、修繕を行う。	事業取組・成果・評価の理由	2,200,000円 ・大ホール操作 12,430,000F 〈舞台音響関係・ワイヤレスマイ 3,245,000円 〈その他〉 ・非常用発電機 1,518,000円 ・施設予約シス 2,686,860円 計 22,079, 計画に沿った	機構制御機器不具合 卓PC入替等修繕 引 系> ク入替修繕 途断機更新修繕 テムサーバー入替修約	善善		評価	5	

【教育行政実施方針の目標達成度】

指標名	現状値	目標值	目標値		令和2年度実績
1日1示 4口	(平成28年度)	(令和2年度推測值)	(令和3年度)	達成値	内容
日田市民文化会館(パトリア日田) 利用者数	150,360人/年	148,000人/年	148,000人/年	38,630人	
日田市民文化会館「鑑賞友の会」 会員数	428人	500人	500人	395人	·新規:8人 ·更新:387人
日田市複合文化施設AOSE(アオーゼ)美術展示ギャラリー入場者数	6,335人/年 (文教祭除く)	5,000人/年	5,000人/年	1,398人	·所蔵美術品特別企画展(常設展と併催):1,081人 ·文教祭特別行事:317人

【課題と今後の方向性】

- ◆日田市民文化会館(パトリア日田)については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館(4月18日~5月24日)措置が設けられるなど利用に係る制限を実施したことから、企画事業の中止や延期、貸館件数の減少(利用の自粛)、施設稼働率の低下など大きな影響を受けた。感染防止対策を徹底しながら、目標の達成に向けた事業展開を図っていくが、状況の回復には相当な期間を要すると思われる。また、開館から13年が経過した現在、少子高齢化など社会の変化により、公演などの入場者数は減少傾向にあるため、市民のニーズに応じた事業内容の検討を行うとともに、その一方でアウトリーチ事業の拡大など、事業運営の転換を視野に入れていく。
- ◆日田市民文化会館「鑑賞友の会」については、舞台公演やコンサートなどの相次ぐ事業中止にかかわらず、特例措置(継続会員は年会費の負担を免除)の効果もあって会員数は増えたが、依然として事業の内容によって会員数が変動する傾向がある。友の会は、パトリア日田の運営を支えるとともに鑑賞者の確保、さらには人材の育成につながる制度であることから、会員数を増やしていくことは重要な課題であり、制度の充実を図ることに止まらず、会員を募集する段階において、周知の拡大と徹底に向けた取組を強化していく。
- ※「鑑賞友の会」:会員には会報誌を送付しイベント情報を周知。チケットの先行購入や入場料の割引き、優先入場措置などの特典がある。年会費は1,000円。会員としての有効期間は入会月から1年間。
- ◆市所蔵美術品については、基本的な鑑賞機会と位置付ける「常設展」の周知宣伝に努め、市民への浸透を図り来場者数の増加を目指す。このため、所蔵品の良質な管理策を徹底し、モニタリング調査の結果に基づいた保存を継続する。

また、日田市所蔵美術品等保存委員会や関連機関などの専門的な意見を参考に、展示する作品、展示の方法、企画内容を検討し、より 効果的な作品の活用と参画しやすい鑑賞機会の確立を図る。そのうえで、引き続き換気、マスク着用及び手指消毒等の基本的な感染対 策のほか、必要に応じて入館制限を行うとともに、デジタルコンテンツについての調査・研究を行いながら、鑑賞機会の確保に努める。

◆市民文化会館に備えられた様々な機械設備は、利用者の安全の確保と公演やイベントの質を高めるために欠かせない機能であることから、設備の補修(修繕)については、関連業者との打ち合わせに基づき、補修計画を策定している。開館から年数が経過し、更新期を迎える設備が多くあることから、適切な補修により施設全体の寿命を延ばし、合わせて不慮の事故を防ぐための万全な措置を図っていく。

	IV 文化芸術の振興 IV-第2 誰もが文化・芸術を親しみ、学べる環境づくり		担当課	社会教育課
教育行政実施方針			12.3 酥	江云狄月酥
	ı	誰もが文化に接することができる環境の整備	平均值	総合評価
【主な取組】 ② 人材の育成及び確保		対の育成及び確保	%2.5	жс

文化活動を支える人材や次代を担う人材の確保及び育成を図るため、文化ボランティアへの登録を呼びかけ、その登録者を対象とした講座やワークショップの開催、児童生徒の文化活動を物心両面から支援する文化芸術激励金を交付できた。 新型コロナウイルス感染症の影響から開催回数や申請件数が減少し、予定どおりに取り組むことができなかったものの、文化活動に参加し学べる環境づくりはできた。

【個別評価】

価理由

事美	だまたは取組名 文化ボランティアの育成	令和	口2年度事業費	_	担当課	社会教	教育	 課
事業目的・内容	[目的] 文化活動をサポートする人材の確保及び育成とともに、文化活動に対する気運の醸成を図るため、研修会やワークショップ等を実施する。 [内容] 指定管理者が、「日田市民文化会館管理業務仕様書」や「日田市民文化会館活性化計画」に基づき、文化ボランティア講座やワークショップ等を開催する。	事業取組・成果・評価の理由	21人)・「中国 1/12 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	(ア登録者数 19人(ア講座 (開催回数 1 で講座 (開催回数 1 で講座 (開催回数 1 で で で で で で で で で	回 付 る月 予 加加四者2人の 然 野方 定 者者者2人の 総 けいワルウェー かり りょう かり	数参 ナ現 2 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	評価	* 3
事美	または取組名 市民文化振興基金補助事業	令和	口2年度事業費	·	担当課	社会	教育	課
事業目的・内容	[目的] 文化芸術の振興、文化活動の促進及び人材の確保・育成を図るため、基準に適合した大会等に出場(出展)する児童生徒に対して、文化振興基金の活用により文化芸術激励金を交付するもの。 [内容] 交付額(1人あたり)は、九州大会5,000円、全国大会15,000円、国際大会50,000円。(年間の限度額:個人50,000円・団体500,000円)	事業取組・成果・評価の理由	(令和元年度 : 本事業は、児童するものであり、人・団体等が優が見られているしかしながら、受け、多くの大会	□体(4人) 交付額20 交付延べ人数 159 / 章生徒の貴重な経験 これまでにも激励金 ・秀な成績を収めるな	く) を側面からたを交付した ど、一定の影 染症の影 励金の申請	個 効果 響を 青件	評価	* 2

【課題と今後の方向性】

- ◆文化芸術の振興を図るには、人材の育成及び確保が重要な課題となる。このため、文化ボランティアや日田市の将来を担う若年層に対し、文化芸術に接する機会をより多く提供し、学べる環境を整備することが必要である。
- ◆そのため、文化ボランティアの募集にあたっては、指定管理者と募集の方法等を検討しながら、新規登録者の増加に向けた取組を進める。そして、文化ボランティア講座(研修)を定期的に開催し、文化活動に対する関心を高めるとともに、登録者間の交流・連携を図る。また、芸術文化の振興策として、児童生徒の文化活動の充実・活性化を図るための環境整備が必要とされていることから、その活動支援策として、文化芸術激励金の交付については継続した取組を行う。

	IV	文化芸術の振興	担当課	社会教育課	
教育行政実施方針	Ⅳ-第2 誰もが文化・芸術を親しみ、学べる環境づくり		12.3 酥	11 公 扒 月 酥	
	ı	誰もが文化に接することができる環境の整備	平均值	総合評価	
【主な取組】	③ 情報	報の発信及び収集	% 4	ЖВ	

日田市民文化会館(パトリア日田)においては、指定管理者が各種宣材物の作製やHP、SNS等を活用し、広く情報を発信することで、イベント等の周知拡大に努めてきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響から、イベント等への参加を敬遠する傾向が見られたため、利用の際の感染拡大防止策の徹底や利用制限などを周知し、安心・安全な利活用を呼びかけるなど、文化・芸術を親しみ、学べる環境づくりに取り組んだ。

また、日田市複合文化施設AOSEで開催される催しについては、案内看板の設置、チラシ・ポスターを各学校(小中高)や商店街・市外の文化施設等に配布するなど、情報の発信に係る取組を強化したところ、1日平均入場者数が令和元年度より17人増加した。

【個別評価】

価

理

由

事業または取組名情報の発信及び収集		令和	令和2年度事業費 – 担当課 社会				会教育課		
事業目的・内容	[目的] 芸術鑑賞や文化活動に対する市民の関心を高めるため、公演やイベント、展覧会等の情報の発信及び収集を行う。 [内容] ①パトリア日田(指定管理者)で開催される公演やイベント情報などについて、「パトリア日田イベントニュース」を発行し、情報を提供する。 ②日田市複合文化施設AOSEの多目的ホールや美術展示ギャラリーで開催されるイベントや展覧会などの情報を発信する。 ③日田市近隣の文化施設で催される公演などの情報を収集し、提供する。	来取組・	ニュースの発行 ニュースの発行 ボースの発行 ボースの発行 ないるののペースの発行 ないるのの会な ののの会な ののの会な ののの会な ののの会な ののの会な ののの会な ののの会な のののののでは、 でのいけ、 でのいけ、 をはいるでのでは、 でのいけ、 でのいけ、 でのいけ、 でのいけ、 でのいけ、 でのいけ、 でのいけ、 でのいけ、 でのいけ、 でのいけ、 でのいた。 にいいが、 でのいけ、 でのいた。 でのいた。 でのいた。 でのいた。 でのいた。 でのいた。 でのいけ、 でのいた。 でのいた。 でのいた。 でのいた。 でのいた。 でのいた。 でのいた。 でのいた。 でのいた。 でのいた。 でのいた。 でのいた。 でのいた。 でのいた。 でいた。	ト等の実施に関する情の、新型コロナウイル ント等への参加やパト 傾向が見られるなど、安 いた課題や、新たな取	プポスターファイン では では では できまれる でいま でいま でいま でいま でいま でいま でいま でき でき でき でき でき かい	のたち や、っ 等ス広 び影の係	評価	* 4	

【課題と今後の方向性】

パトリア日田では、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用の際の感染拡大防止策の徹底や利用制限などを周知する機会が増えたが、その一方で、文化活動及び鑑賞の機会を逸することのないよう、今後の積極的な利活用を呼びかけるなど、状況回復後を見据えた情報の発信・収集に努めることができた。コロナ禍以前の賑わいを創出し、パトリア日田の機能を十分に果たすことができるよう、引き続き感染状況に応じた対策を講じ、さらにはデジタルコンテンツについての調査・研究を行いながら、これまで以上の積極的な取組を進めていく。

3. 学識経験者による評価意見

大分大学 名誉教授 山崎 清男 氏

1.教育委員会の運営・活動について

i市民とともに創る教育行政の推進

本「報告書」は日田市教育の振興を目的とし、必要な教育施策等を総合的・体系的に示す「日田市教育行政実施方針」に基づき、各教育行政施策の展開に関し点検・評価を行ったものである。 そこでは毎年①教育行政実施方針に基づく主な取組、②評価理由、③個別評価、④それらに基づく総合評価、⑤課題と今後の方向性が示されている。

まず教育委員会の活動であるが、教育委員会会議に関しては定例会議・臨時会議合わせて22 回開催されている。教育委員会での審議案件等は多岐にわたり、複雑化・高度化した社会における多様な教育行政の課題に効果的・効率的に対応するための施策を展開している姿は評価できる。特記すべきは、教育委員会会議の開催にあたり、教育委員が会議の内容事項を討議し情報を共有するために事前学習を行い、会議の活性化に努めているということである。このような学習会の開催は、形骸化が叫ばれて久しい教育委員会の活動を実りあるものにするためにも重要な活動である。今後も継続されることを期待する。さらに教育委員の資質向上のための研修会等にも積極的に参加し、日田市教育委員会の活性化を推進している姿が読み取れる。そして市長と教育委員で構成される「総合教育会議」が開催されているが、この会議は日田市における一般行政と教育行政の「調和的発展」のためにも必要なことであり、できるだけ複数回の開催が望まれる。

また、日田市連合育友会と市長、教育長との意見交換会を行い、保護者等の意見を聞くことにより教育課題の共有に努めている点も評価すべきである。今後もこのような意見交換会を継続し、教育行政が保護者(市民)にとって身近な存在であるということを感じ取ってもらえるような活動の継続が求められるといえよう。

2. 事務・事業の管理及び執行について

ii. 学校教育の充実

日田市教育大綱の基本理念は「未来を切り拓き、ふるさとを愛するひとづくり」である。この理念を達成するために、学校教育は「『夢と誇りを持って、たくましく生きる力』を育てる学校教育の推進」と「安全で安心な学校づくりの推進」を二本の柱として、具体的施策を策定し学校教育活動を展開している。この二本の柱のもとに23の「主な取組」を設定し、教育行政が展開されている。23の主な取組に関する総合評価は、A評価16項目、B評価6項目、C評価1項目である。

まず「『夢と誇りを持って、たくましく生きる力』を育てる学校教育の推進」に関しては14項目中 10 項目がA評価であり、3項目がB評価である。「教職員研修の充実」はC評価であるが、これは コロナ禍における研修数の減少によるものであり、必要最小限の研修は行われているといえよう。ま た、「安全で安心な学校づくりの推進」に関しては9項目中6項目がA評価であり、3項目がB評価 である。A評価項目が多いということからすれば、教育行政施策は効果的に展開されているといえ る。しかし、ここで重要なことは従来の教育行政施策の展開を踏まえながら、新たな視点から教育行政施策を展開することが望まれる。たとえば、主な取組である「小中連携教育の推進」や「小中一貫教育の推進」に関しては、今日までかなりの期間継続的に取り組まれてきているので、「小学校と中学校の教員が互いに交流し、学習指導方法の違いの検証や生徒指導上の情報を交換することにより、スムーズな接続を図る」とか「小中一貫教育の特色を生かすための教育課程の編成」にとどまるのではなく、そのような結果を踏まえて、今後日田市教育委員会としてどのような小中一貫教育を創造しようとしているのか等、日田市教育行政の独自性を提示する必要があると思われる。

このことは他の主なる取組に関しても言えることである。たとえば主な取組「家庭・地域と協働した学校づくりの推進」についても、学校運営協議会の設置は重要であるが、その設置により、日田市教育委員会はどのような学校教育を創造しようとしているのか、それが児童生徒にとってどのような意味があるのか等をきちんと説明することが求められるといえよう。換言するなら単位設置数や会議の開催回数等の多寡にとらわれない、児童生徒にとっての効果的な小中一貫教育の創造や地域と協働的な学校づくりに関しての、新たな視点を踏まえた評価方法の確立が望まれる。

iii. 社会教育の充実

社会教育に関する日田市教育行政実施方針は「地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と生涯学習社会の形成」及び「誰もがスポーツに親しめる環境づくり」である。この方針のもとに、20の「主な取組」が設定され、社会教育行政施策が展開されている。20の主な取組のうちA評価は8項目であり、B評価7項目、C評価4項目、D評価1項目である。C評価項目やD評価項目は、コロナ禍において様々な行事・活動が縮小、またはそれらの行事・活動が中止になった結果である。C評価やD評価は否定的にとらえられがちであるが、今回は決してそのようにとらえるべきではない。社会教育は学校教育と異なり、学習活動の機会確保や多様な施策の展開は、講座等の「開催回数」や「参加人数」の多寡によって評価されがちである。もちろん開催回数や参加人数は、社会教育活動にとって重要な評価基準であるが、それにとどまるのではなく、「学校教育の充実」の項でも指摘した視点が今後重要になると思われる。たとえば主な取組「博物館施設の機能の充実」においても、評価の視点を「学校や公民館との交流及び連携した事業の実施」を行ったかどうかにとどめるのではなく、そのような事業を行うことでそれが日田市の学校教育や児童生徒、さらには社会教育活動を展開する公民館にとって、どのような意味があるのかということなどを評価の視点にする評価方法が考えられねばならない。

もちろんすでに述べたように、開催回数や参加人数は重要な評価の基準になりうるが、昨年度も 指摘したように、今日は IoT 社会である。IoT 社会では、人々は容易に最新の「情報」を入手するこ とができる。公的な社会教育活動は単に人々の情報入手をサポートするだけではなく、学びを通し て人々の「変容」をサポートする活動が必要不可欠になると思われる。したがって、今後は人々の 「変容」を重視した社会教育活動(社会教育行政)の展開が重要になるといえよう。

iv.文化芸術の振興

文化芸術の振興に関する教育行政施策は「ふるさとの歴史・文化の保存と未来へ向けての活用」

と「誰もが文化・芸術を親しみ、学べる環境づくり」を二本の柱として展開されている。このもとに7の「主な取組」が設定され、A評価は2項目、B評価3項目、C評価2項目である。C評価項目は、すでに述べたようにコロナ禍における行事・活動の縮小や中止によるものであり、否定的にとらえるべきではない。行事や活動が中止にならざるを得ない状況下でも、「文化活動に参加し学べる環境づくりはできた」と日田市教育委員会関係者が自己評価している点は重要である。このような評価が、次の(来年度の)文化芸術に関する教育行政活動につながっていくと思われるからである。文化芸術の振興や美術、文化財の保護・保存、活用などはどちらかといえば「目立たない」地味な活動であるといえよう。しかし、これらの事項に関しては、ふるさとの歴史や文化を重視していこうとする視点からの取組がみられる。このような取組は日田市の教育や文化を支える基礎的部分でもある。今後さらにこれらの取組や活動が継続され、発展的に取り組まれることを期待する。

なお、文化芸術の振興に関する施策の評価においても、たとえば「市内の小学校6年生に、学校 を通じて『子ども版 日田市の歴史と文化財』を配布する」にとどまらず、配布することにより、日田 の小学生にどのような力をつけるのか(つけようとしているのか)というような観点からの評価が必 要になると思われる。その意味では形式的な「量」的評価から、内実を伴う「質」的評価という視点 も必要になるといえよう。

令和2年度対象の点検・評価実施上の大きな特徴点は「コロナ禍」の中での点検・評価である。 言い換えれば、具体的施策及び取組等が新型コロナウイルスの影響をうけ、当初の計画を実行す ることが不可能な状況下での点検・評価が行われたということである。このような状況下での点検・ 評価であるがゆえに、必ずしも好ましくない評価結果になった項目も存在する。しかしここで重要な ことは、あくまで従来通り一定の評価基準に基づき評価を行い、成果が不十分な項目は「課題と今 後の方向性」等において、コロナ禍において施策遂行が困難であったこと、さらにそれを克服するた めの課題と方向性をより具体的に示すことであるが、本「報告書」はそのような方策のもとに作成さ れている。このような方策が取られなければ、施策展開が不十分であった項目等は、その原因がす べてコロナ禍など他の要因に帰されてしまう可能性があるといえよう。

昨年度と同様、「報告書」は事業目的や内容、それに対する取組結果、さらに評価理由が丁寧に 記述されている。また「報告書」作成の評価の視点に関しても見直し等がなされ、より良い評価書 の作成に向けた努力がみられる。日田市の教育行政関係者の日田市教育改革に対する意欲が十 分に読み取れる「報告書」であるといえよう。今後さらに多角的観点から評価の視点等を見直し、 形式的評価にとどまらない評価が展開されることを期待する。

元 久留米大学 比較文化研究所客員教授 森 醇一朗 氏

1.教育委員会の運営及び活動について

i. 市民と共に創る活動について

令和元年度後半に、世界的流行が確認された新型コロナウイルスの感染症は、令和2年に初めて日本でも確認され、以降は爆発的に感染拡大していく。

その結果、教育行政が担う学校教育・社会教育の全領域に「教育実践の混乱」という現象を生じさせた。このことは、教育実践の成果の集約である「教育に関する業務の管理及び執行についての点検及び評価報告書」作成に大きな影響を与え、作成を担当した教育総務課は、その作業に相当の時間を費やしたことになった。

報告書の作成当初、コロナ禍による影響で点検及び評価が困難であるということから、「評価困難」という文言を特別に設定し、評価対象事業全51項目の内の12項目をこれに選定している。この評価困難の数値は全体の23.5%に及んでおり、令和3年8月実施の教育委員を含む外部評価員への説明会では「評価基準を変更せず評価すべき」という意見から、その見直しが実施されている。

そこで、評価対象事業の全項目の見直しが行われ、評価困難の事業 I 2項目を含め全体の50.9%の26項目の評価見直しが実施されている。

この評価見直しの作業に相当の時間を要しているが、すべての対象事業が再評価され、評価困難の項目は解消されている。その結果として、前年度の「点検及び評価報告書」に比較して評価の落ち込みが32項目あり、その比率は62.7%となっている。その中でも総合評価「A」の項目が43項目から27項目に減少しており、また、これまでに評価されていなかった「C」と「D」の総合評価が8件に及んでいる。これらの事柄は、いかに新型コロナウイルスの感染症の影響が教育現場に波及したかを知ることができる。

このようなことから、日田市教育界の令和2年度の主な出来事として新型コロナ感染症が記録され、また気象変化に伴う豪雨による学校教育施設の被害の発生とスポーツ施設の浸水による発生が記録されており、自然災害による被害の発生の常態化は教育環境にとどまらず、生活環境の変化へと連動する。

日田市の優れた自然環境から生まれた教育環境・生活環境を保つため、これらの事象は、記録にとどめておくことが必要と思われる。また、令和2年度は市制80周年記念の文化的事業が実施された。コロナ禍であったが、地道な活動が継続されたことは特筆できる。

2. 事務・事業の管理及び執行について

ii 学校教育の充実

学校教育は I 年間を通した教育実践計画 (カリキュラム) に基づいて実施されるが、新型コロナウイルスによる感染症の流行で学校教育施設の主体を構成する教室や体育館・運動場が閉鎖されるという処置が取られて使用並びに登校が不可能となり、児童・生徒の学力の向上や心身の発達に大きな影響を与えたことは言うまでもない。

学校教育の充実に関係する評価対象事業は23項目が設定されており、評価対象全体の45%に及び、当初6項目の「評価困難」が示されたが、全ての項目の見直しが実施されている。その結果5項目の評価見直しが実施され、総合評価「A」から「B」への変更対象事業が4項目あり、総合評価「C」が1項目新たに表記されるようになった。いずれの事業も、新型コロナウイルスの感染症の流行による事業の遅延あるいは中止による評価結果である。これらの事業はいずれも学校の教育施設と社会環境の中での教育という手段による連携が必要なもので、コロナ禍による学校環境と社会環境の連携断絶を見ることができる。とくに、人権教育に関係する事業にその影響がみられており、学校と社会環境の中の人権教育の推進の重要性を、結果として見いだせる。

人権教育に関しては、課題と今後の方向性が明確に示されており、今後の研修及び事業の推進 に期待される。

学校教育の「Ⅱ-第1『夢と誇りを持って、たくましく生きる力』を育てる学校教育の推進」の中の、「1.子どもの力と意欲を伸ばす学校教育の充実」と、「2.小中連携・小中一貫教育の推進」及び「Ⅲ-第2安全で安心な学校づくりの推進」は、コロナ禍においても教職員の熱意と日常の努力によって従来どおりの事業推進が実施されており、前年度と同様の高い評価が示されており、妥当な評価といえる。

iii 社会教育の充実

社会教育の分野は最も広範囲な地域を業務の対象とし、多種多様な内容を有する教育の実践を担っており、不特定多数の人との交流及び接触を伴うため、新型コロナウイルスの感染症の影響を受けやすい分野である。

その結果として、評価見直し項目が評価対象51項目の内、評価見直しの事業が24項目に及び、全体の65・2%に達している。社会教育充実のために計画・準備されていた多くの事業が計画の変更や中断という状況をつくり出し、結果として過去の高い評価を与えていた多くの事業において、落ち込んだ評価が示された。

とくに評価が落ち込んだ事業は、「1.社会教育の推進」と「3.家庭・地域の教育力の向上と支援体制の充実」、「4.社会教育における人権教育の推進」があり、総合評価「C」と「D」の近い評価となっている。中でも「3.家庭・地域の教育力の向上と支援体制の充実」の「①子育てを地域全体で行う「協育」ネットワーク(地域・公民館・学校)の充実」は「D」の評価が示されており、社会教育が担う市民参加型の各種事業の推進は流行性疾患が蔓延する中での実施の困難さを、まざまざと見せつけた。

このように事業推進の困難な一年であったが、社会教育の推進を担う社会教育課や公民館の職員の研修を充実させ、学校・公民館・地域社会が連携して実施可能な体制つくりを今後の方針として定めており、一層の事業の推進が望まれる。

社会教育の充実の報告書作成で気にかかったのが、総合評価の理由として「連携して業務に取り組むことができた」と肯定した表現をしているが、個々の事業項目の評価理由では「できなかった」・「取組が進まなかった」・「参加者の半減」等の否定的表現になっている。また、総合評価「C」にされた項目の「I.社会教育の推進」、「3.家庭・地域の教育力の向上と支援体制の充実」、「4.社会教育における人権教育の充実」にも同様の記述の表現があり、整合性を欠くと思われる評価

のとらえ方には留意する必要がある。

多くの市民の参加を基本とする博物館・図書館・スポーツ行事にも、コロナ禍の影響が如実に出ている。博物館における各種催事や図書館での利活用、各種スポーツ等への制限の処置が取られて計画変更・中止・延期が実施された。さらに集中豪雨という自然災害は、河川の流域に設置されているスポーツ施設に大きな損害を与え、施設の使用が困難となり、社会スポーツ振興事業の推進に弊害を与えている。結果として博物館・図書館・スポーツ振興に関する項目の多くが評価見直しされ、合わせて総合評価も低く押さえている。

コロナ禍とはいえ、見直しが多くある報告書の記述から、評価を担当した事務局の苦心のあとが うかがうことができる。

iv 文化·芸術の振興

今日、日田市の行政領域で盛行している文化・芸術は、過去に栄えた伝統的産業を基盤に誕生し、成長・発展を遂げて現代に継承された事象である。このことは「天領」という歴史的風土を形成し、日田市独自の文化・芸術を創りあげたと言っても過言ではない。

文化・芸術の発展は、不特定の地域で多くの人々の日常的な交流の中で、今日的発展をした「生活文化」・「生活芸術」と言ってもよい。そこに息づく人々の日常生活の中で流行した新型コロナウイルス感染症は、この生活基盤と人々の日常の行為に「抑制」と「制限」を加え、文化・芸術の振興に大きな影響を与えた。

文化・芸術の振興は、教育行政の全領域と密接な連携を保つことで振興の推進が可能である。 とくに、計画・立案の主体となる社会教育の領域(博物館・図書館・文化財保護課)等との連携は必要であり、文化施設の活用では学校教育の協力は欠かすことができない。しかし、諸機関が流行性疾患の影響を直接受け、そのことからも文化・芸術の振興のための業務の項目のすべてに評価の見直しが行われ、振興策の遅延から評価が低く押さえられた。

このような厳しい社会環境の中でも施設・設備の保全には力が注がれ、催事としても市制80周年を記念した「水郷日田の風景-古写真から振り返る思い出の場所-」が市民の協力を得て開催されている。また市制80周年特別企画展として「岩澤重夫と現代美術の世界-郷土がつなぐ未来へのカンバス-」が、地元高等学校美術部員の作品を併設して開催されており、過去と現在から将来を展望する企画として注目される。

文化・芸術の困難な時期ではあったが、制約の中で今日的文化・芸術の活動から、新しい日田 市の文化・芸術が誕生し成長・継続されることは、重要な施策であろう。

別府大学 文学部人間関係学科教授 長尾 秀吉 氏

1.教育委員会の運営及び活動について

i. 市民と共に創る活動について

令和2年度は、コロナという未曾有の災禍により、多くの事業を縮小・中止せざるを得なかった。 学校教育や社会教育、スポーツや文化財保全などの教育事業は、市民の暮らしに深く関わっているため、生命の安全が第一義だからといって簡単に縮小・中止の決断はできない性質のものである。だからこそ、コロナ禍においては事業実施の是非をめぐり検討が求められた。ただし、その検討会議の時間や場もコロナ禍での制約を受けることとなった。

また、令和2年度は、もう一つの大きな災禍に見舞われた。平成29年九州北部豪雨から3年が過ぎてようやく立ち直りのきざしが見え始めた時期に、令和2年7月豪雨は再び日田市民に甚大な被害をもたらした。このような状況下にあったことをふまえ、教育委員会の運営・活動がどのようであったのかをみていく。

教育委員会の会議は22回開催、取り扱った案件は議案・協議・報告を含めて123件であった。令和元年度に比べ、会議回数が3回、案件では7件多い。会議開催の制約が課される中で、教育委員会は例年以上に会議を開き、市の喫緊の課題をしっかりと検討している姿勢がうかがえる。例えば、豪雨の最中にあった7月定例会において、豪雨による教育施設等の被害状況や災害に対する補正予算措置、子どもの心や学習のケアについて詳細な報告検討が、即時に行われている。コロナ関係についても、定例会議だけでなく臨時会議も複数回開催して、修学旅行や成人式の開催の是非について丁寧な協議を行っている。

また、「市民と共に創る教育行政の推進」をはかるために、前年と同じく14校の小中学校訪問活動を行っている。あわせて、日田市連合育友会と市長・教育長との懇談会が実施され、コロナ禍への学校教育の対応(ICT の活用含む)について協議を行っている。コロナ禍にもかかわらず、否、コロナ禍だからこそ、教育委員と教育委員会事務局が精力的に現場と意思疎通を行い、市民の声を教育行政に反映しようとする姿勢がうかがえる。

2. 事務・事業の管理及び執行について

ii.学校教育の充実

取組「確かな学力の育成」は、近年と同じくA評価であった。そのうち、「確かな学力育成支援事業」の評価は、5段階評価のうち「4」となっている。例年、実施している漢字検定や英語検定、学力や意欲に関するアンケートは実施できなかったため、これらをもとに事業評価はされていない。だが、令和3年1月に日田市が実施した学力調査評価を、丁寧に分析して「4」の評価が行われている。適切な評価であると考える。

同様に、「日田市学力向上アクションプランの取組」(評価5)についても、全国学力・学習状況 調査が中止されたため、市の学力調査の結果分析をもとに評価している。「中学生学びアップ事業」 についても、年の前期期間は中止で、評価の対象は実施された年の後期である。評価の基準とな る取組が縮小・中止されているが、実施された事業を対象に適切に評価が行われていると考える。 この他にも、コロナ禍で多くの事業が縮小・中止されたため、コロナの影響を受けた事業に関しては例年とは異なる評価基準を設けて評価が行われている。例えば、「教育センター運営事業」の教員を対象とした「研究研修事業」、「小中交流研修」などでは、例年、参加校数や参加者数なども加味して評価が行われていた。それに対して令和2年度は、参加者数は示さず、数値で示したのは参加校数(率)のみとなっている。開催回数や参加人数に制限がある中で「可能な限り」教員の力量形成をはかる機会を確保しようとする姿勢がうかがえる(それぞれ評価は5)。

ところで、「学校人権教育事業」では、「受講児童・生徒は昨年比30%になったことから」評価を「3」としている。これは、中学生の受講者が前年より激減(862人→50人)したことによる。だが、評価を行う上で大事なことは、数が減少したから評価が下がったというだけでなく、なぜ減少したのかを要因と改善課題を示すことが必要であろう。

iii.社会教育の充実

社会教育・社会体育の領域では、事業の中止、参加者の減少というかたちでコロナ禍の影響が顕著に現れている。本報告書の評価基準は、80%以上(の事業達成)が「5(A)」、60%以上~80%未満が「4(B)」、30%以上~60%未満が「3(C)」、「30%未満」が「2(D)」となる。そのため、参加者が大幅に減少した事業評価は、報告書の評価基準に照らして厳正に評価され、例年より大幅に評価が低くなっている。

具体的には、「地域とともに学び、育てる、社会教育の推進と生涯学習社会の形成」にむけた I 5 の取組のうち、A評価は6個、B評価は4個、C評価は4個、D評価は I 個となっている。次に「誰もがスポーツに親しめる環境づくり」にむけた5つの取組のうち、A評価は2つ、B評価は3つになっている。ちなみに、前者の I 5の取組については、前年度はA評価が I 0個、B評価が5個、C・D評価は0個であることから、いかに令和2年度の評価が下がっているかが分かる。

参加者数や来館者数等を主要な評価項目とする事業の評価が下がるという点については、やむを得ない。というのも、コロナ禍だからといって、特別に例年とは異なる評価基準を用いることは、市民・議会に対して事業の実態について誤ったイメージを与えることになるからである。例年・異常時で異なる基準を設けることは、二重基準となり、不要な混乱を招くため不適切である。逆に、例年どおりの評価基準で評価することで評価点は低くなるが、その理由を明確にすることで、市民・議会は正しく事業の実態を知ることができる。よって、令和2年度の「社会教育の充実」における低評価は、教育委員会により適切に評価が行われたことの証左であると受け止めることができる。

以上をふまえ、各事業の成果・評価の理由をみていくと、3~5月の休館、その後もウイルスの正体は明確で、ワクチンもない中で、学習事業の受講者・来館者等が少なかったことがわかる。しかし、どの施設の事業も一様に少なくなったのかといえば、そうではない。例えば、「地区公民館における各種事業の取組」、「地区公民館運営委託事業」をみると、公民館の講座への参加者数は前年の60%となっている。人が集まる施設に行くことへの抵抗感があったと考えられるが、そのような状況の中でも、前年比40%の減少に留めたことは高く評価されてよい。

この要因としては、地域住民にとって公民館とそこでの人の集いへのニーズの高さ(日常生活の 一部となっている)もあるが、職員側による「地域の歴史やウォーキングなど三密を避ける活動」な どの創意工夫が行われたことが挙げられよう。

同様に、図書館の図書貸出人員は前年の70.9%、貸出冊数は前年の74.5%となっている。2~3割減少に留めたこと、これも評価されてよい。博物館の来館者数は前年の44.2%となっており、社会教育施設の中で、最も減少率が大きい。施設ごとの利用者数の差については、コロナ禍で自宅で過ごすための図書が必要とされ、遠出ができない中で身近な公民館を利用されていたと考えられる。

ただ、他方でコロナ禍だからこそ新しい試みも検討されている。博物館では「常設展や企画展をオンラインやユーチューブなどを使って見ることができるよう、展示・観覧の方法や情報発信方法の充実を図る」ことが目指されている。図書館では、インターネット検索の数が約 1.7 倍に増えている。インターネットの活用が成果や課題として確認されていることは評価される。

スポーツに関しても、そのほとんどの事業は回数や人数による評価が行われ、前年の評価より低くなっている。「スポーツコンベンションの振興とスポーツイベントの充実」の事業は評価は「4」で、前年より低い評価となっている。けれども、「チャレンジウォーク」と「日田天領ひなまつり健康マラソン大会」は、万全の感染対策を実施して開催したことに加え、観光課と連携して宿泊パックを創設して宿泊者の獲得に努めている。コロナ禍での創意工夫は高く評価される。

最後に、繰り返しになるが、令和2年度の教育事業評価は、例年に比べて評価は低くなっている。 だが、その一つ一つの事業をみると、今後につながる取組や課題が提示されており、この点は評価 されるべきである。コロナはこれまでの生活や事業のあり方を再考する大きな契機になっている。今 後は、従来のやり方に縛られるだけでなく、新しい事業のあり方が模索されてよい。今後の日田市 の取組に注目したい。

4. まとめ

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき効果的な教育行政を推進するため、教育委員会が事務・事業の取組状況について点検・評価を行った後に、課題や方向性を明らかにし、学識経験者である外部評価員の意見を付して市民の皆様にお知らせするもので、令和2年度に実施した事務・事業を対象としたものです。

令和3年8月に3名の外部評価員(学識経験者)の先生方、教育委員、教育委員会担当者が集まり内部評価についての説明会を実施しました。評価員からご意見、ご指摘をいただく中で、特に、年間を通して新型コロナウイルス感染症の影響を受け、縮小や変更、中止を余儀なくされた事業・取組に対する評価方法について議論が交わされました。

説明会での議論を踏まえ、評価の継続性・統一性の観点から、令和2年度の評価についても、新型コロナウイルス感染症の影響の多寡に係らず、これまでの評価基準どおりに評価を行うこととしました。その結果、例年に比べて評価が低くなった取組も多く見られましたが、コロナ後の社会の変化を見据え、事業の在り方を考え直す機会と捉え、課題を分析し、新たな方向性も模索しながら、各事業の推進に努めてまいります。

評価意見においては、まず教育委員会の運営・活動について、コロナ禍で会議開催の制約が課される中で例年以上に教育委員会会議を開き、喫緊の課題をしっかりと検討していること、市と教育委員会、保護者の間で意見交換会を行い教育課題の共有に努めていることで現場の声を教育行政に反映しようとしているという評価をいただきました。

引き続き活動を充実させるとともに、市民の皆様に教育委員会の活動についての理解を深める取組を進めます。

事務・事業の管理及び執行については、「学校教育の充実」・「社会教育の充実」・「文化芸術の振興」の3分野全体において、新型コロナウイルス感染症の影響で施策遂行が困難であった事業が多い中でも、感染対策を行いながら創意工夫し事業が展開されていると評価をいただきました。

一方で、これまで継続して取り組んできた施策の結果を踏まえながら、日田市教育行政の 独自性を提示するなどの新たな視点からの教育行政施策の展開が必要ではないかとのご指 摘をいただきました。

評価方法については、個別評価と総合評価の整合性を図ることや、形式的な「量」的評価から内実を伴う「質」的評価へ、多角的観点からの評価の視点の見直しについてご意見をいただきました。

最後に、今回いただいたご意見を参考にしながら、今後も「日田市教育行政実施方針」による施策や事業の進行管理を行い、効果的な教育行政の推進に努めてまいります。

令和4年 I 月27日 日田市教育委員会